

# 流山本町活性化マーケティング調査事業 【調査報告書】

平成25年3月

流山市



<b>1. はじめに</b>	.....	<b>P3</b>
(1) 事業の目的及び実施内容	.....	P4
<b>2. 観光意向調査分析</b>	.....	<b>P5</b>
(1) 流山本町来訪者への観光動向調査	.....	P5
ア. 実施概要	.....	P6
イ. 調査結果まとめ	.....	P8
(2) 観光客への観光需要調査	.....	P19
ア. 実施概要	.....	P20
イ. 調査結果まとめ	.....	P22
(3) 流山本町地区住民への意識調査	.....	P30
ア. 実施概要	.....	P31
イ. 調査結果まとめ	.....	P33
<b>3. 食の活用調査分析</b>	.....	<b>P41</b>
(1) 流山本町内飲食店を対象とした白みりん利用動向調査	.....	P41
ア. 実施概要	.....	P42
イ. 調査結果まとめ	.....	P44
(2) みりん利用促進冊子の制作	.....	P47
ア. 実施概要	.....	P48
イ. みりん利用促進冊子の作成	.....	P49
<b>4. 観光ガイド育成調査</b>	.....	<b>P53</b>
(1) まち歩き参加者へのアンケート調査	.....	P53
ア. 実施概要	.....	P54
イ. 調査結果まとめ	.....	P56
(2) 観光ガイドにおける先進地事例調査	.....	P65
ア. 実施概要	.....	P66
イ. 調査結果まとめ	.....	P68
<b>5. 総括</b>	.....	<b>P77</b>
(1) 観光意向調査について	.....	P78
ア. 来訪者の視点からの考察	.....	P78
イ. 近隣住民の視点からの考察	.....	P78
ウ. 地域住民の視点化からの考察	.....	P79
(2) 食の活用調査について	.....	P80
ア. 白みりんの利用状況からの考察	.....	P80
(3) 観光ガイド育成調査について	.....	P80
ア. 観光ガイドの現状についての考察	.....	P80
(4) 総評	.....	P81



# 1 はじめに

---

(1) 事業の目的及び実施内容

## 1. はじめに (1)事業の目的及び実施内容

### ■事業目的

流山市では、平成23年8月に「流山本町活性化協議会」を設立し、流山本町地区に残る魅力的な資源を観光資源に変えることで、地区内への誘客だけでなく、商業の活性化さらには地域の活性化に向けた検討を行ってきた。本事業では、流山本町の観光における現状・課題や観光客のニーズ・需要などに関するデータを収集し、分析することによって今後の流山本町の観光振興の参考とする。

また、流山が白みりん発祥の地であることから、その利用促進を図るとともに、観光ガイドの育成を図ることによって流山本町の観光需要拡大を目指す。

### ■実施内容

本事業では、「観光意向調査分析」、「食の活用調査分析」及び「観光ガイド育成調査」の三つのテーマを中心に調査を実施した。それぞれのテーマにおける実施内容は以下のとおりである。

#### 観光意向調査分析

##### 実施内容①

##### 流山本町来訪者への観光動向調査

流山本町を訪れた観光客を対象に、アンケート調査を実施。  
流山本町に来訪した目的、情報入手経路、イメージや次回来訪意向などといった動向を明らかにした。

##### 実施内容②

##### 観光客への観光需要調査

流山市民以外の観光客(流山本町への来訪経験に関わらず)を対象に市外でのアンケート調査を実施。  
流山本町への来訪経験、認知度、イメージなどを明らかにした。

##### 実施内容③

##### 流山本町地区住民への意識調査

流山本町に居住する住民を対象にアンケート調査を実施。  
観光振興における流山本町の強みをはじめ課題や観光振興を図るための施策について明らかにした。

#### 食の活用調査分析

##### 実施内容④

##### 流山本町内飲食店を対象とした白みりん利用動向調査

流山本町内及び界隈で営業する飲食店を対象にヒアリング調査を実施。  
白みりんに対する認知度合いをはじめ、利用状況など白みりんの利用動向について明らかにした。

##### 実施内容⑤

##### みりん利用促進冊子の制作

白みりんの認知・利用拡大を目的に、白みりんと流山本町の歴史、白みりんの魅力を分かりやすくまとめた冊子を作成。また、白みりんを使ったレシピを紹介し、白みりんの利用促進を目指す。

#### 観光ガイド育成調査

##### 実施内容⑥

##### まち歩き参加者へのアンケート調査

流山本町史跡ガイドツアーによって行われているまち歩きに参加した人を対象にアンケート調査を実施。  
史跡ガイドツアーへの参加理由、情報入手経路や評価を明らかにした。

##### 実施内容⑦

##### 観光ガイドにおける先進地事例調査

観光商品としてまち歩きや史跡ガイドツアーを行っている地域を対象に先進地事例調査を実施。  
他地域での取組や特徴など、参考となる情報を収集した。



## 2 観光意向調査分析

---

- (1) 流山本町来訪者への観光動向調査
- (2) 観光客への観光需要調査
- (3) 流山本町地区住民への意識調査



2. 観光意向調査分析 (1)流山本町来訪者への観光動向調査

■調査項目

<アンケート裏面>

<b>Q9</b>	<p>【Q7で③～⑦を回答した方のみ回答】 「観光」・「自然散歩」・「まち歩き・町中散策」・「イベント」などの情報入手経路についてお答えください。(いくつでも○をして可)</p> <p>①新聞                      ②雑誌(情報誌やタウン誌など)                      ③行政が発行する広報誌(市報など) ④チラシ                      ⑤ポスター                      ⑥テレビ ⑦ラジオ                      ⑧インターネット(地域情報サイトなど)                      ⑨個人ブログ、SNS ⑩知り合い・家族                      ⑪その他(                      )</p>
<b>Q10</b>	<p>「流山本町地区」のイメージについてお答えください。(いくつでも○をして可) ※「流山本町」と聞いてぱっと連想・イメージする事柄として当てはまるものをお答えください。</p> <p>①歴史のある町                      ②白みりの町                      ③寺院や仏閣が多くある町 ④流山鉄道の町                      ⑤蔵のある町                      ⑥新選組ゆかりの町 ⑦小林一茶ゆかりの町                      ⑧江戸川沿いの町                      ⑨自然が豊かな町 ⑩のんびりした町                      ⑪なにもない町                      ⑫特に目立った特徴のない町 ⑬その他(                      )</p>
<b>Q11</b>	<p>「流山本町地区」について知っていることをお答えください。(いくつでも○をして可)</p> <p>①江戸時代から明治時代にかけて発展した町であること                      ②白みりん発祥の町であること ③江戸川を活用した水運で栄えた町であること                      ④東飾県・印旛県の県庁所在地であること ⑤明治時代・大正時代の蔵がいまだ多く存在していること                      ⑥新選組ゆかりの町であること ⑦小林一茶をはじめ多くの著名人ゆかりの町であること ⑧町内に現存する蔵を飲食店やギャラリーとして活用する取組を行っていること ⑨その他(                      ) ⑩どれも当てはまらない</p>
<b>Q12</b>	<p>「流山本町地区」への来訪意向についてお答えください。(1つだけ○)</p> <p>①また訪れてみたいと思う                      ②特に理由がなければ訪れてみようとは思わない                      ③訪れたいとは思わない</p>
<b>Q13</b>	<p>Q12の回答理由についてお答えください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 60px;"></div>
<b>Q14</b>	<p>その他ご意見、ご感想等ありましたらご記入ください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 60px;"></div>

- アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。 -



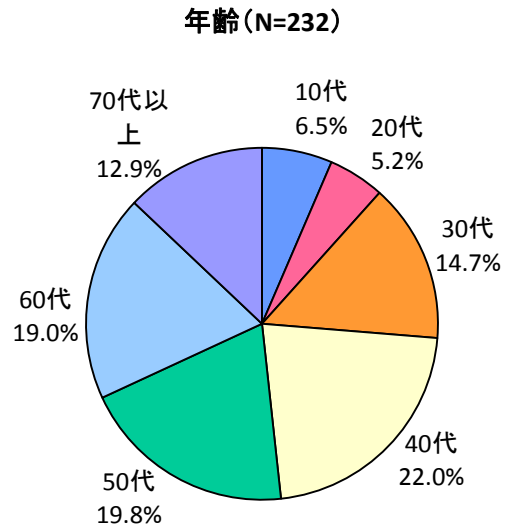
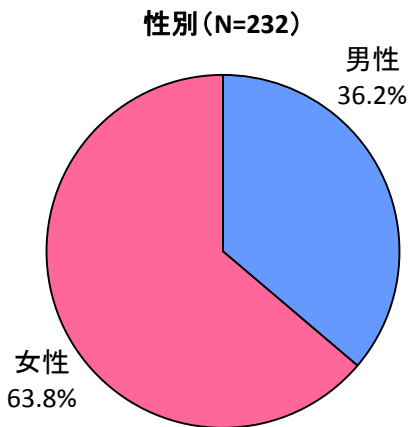
イ. 調査結果のまとめ

■流山本町来訪者の特徴(性別・年齢)

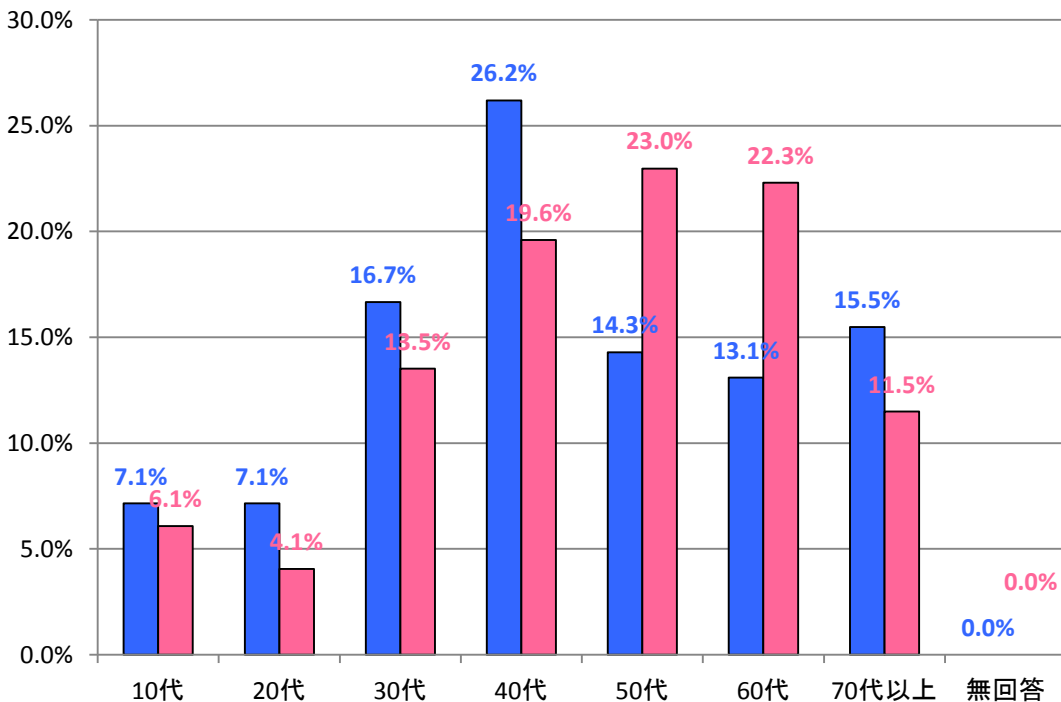
全体的に男性に比べて女性の来訪者が多い。

年齢別にみると、50代及び60代女性の来訪者が最も多い。

男性においては、40代の来訪者が最も多い。



各年齢ごとの男女の割合



2. 観光意向調査分析 (1)流山本町来訪者への観光動向調査

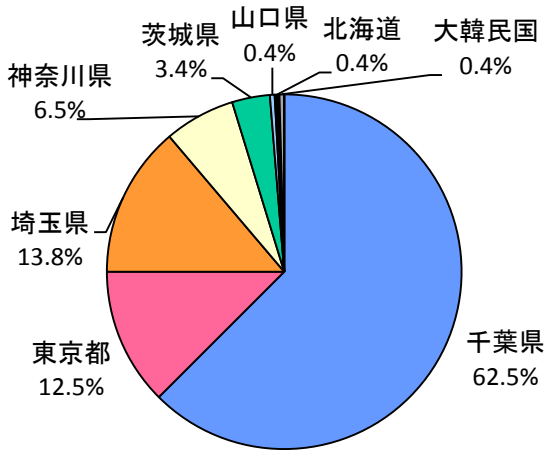
■流山本町来訪者の特徴(居住地域)

千葉県内からの来訪者が最も多い。

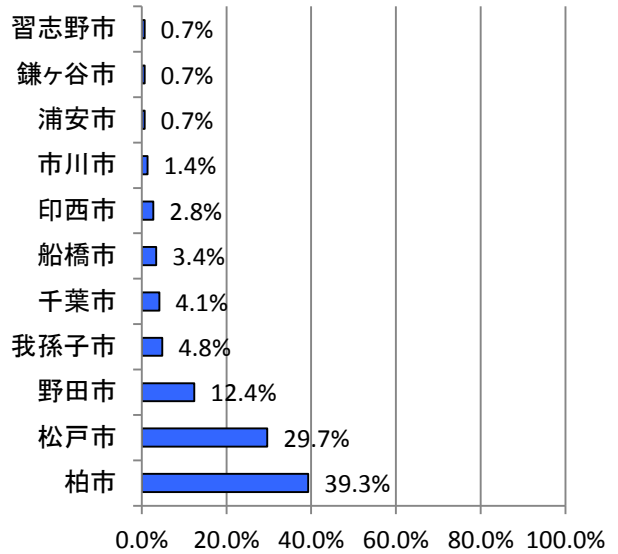
県外からの来訪者については、埼玉県からの来訪者が最も多く、次いで東京都が多い。

市区町村別にみると、千葉県においては「柏市」「松戸市」「野田市」が多く近隣からの来訪者が多いことがわかる。

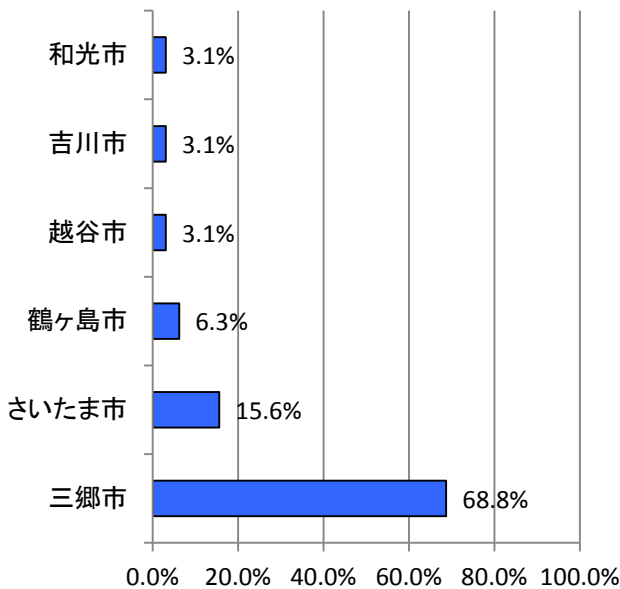
居住地/都道府県 (N=232)



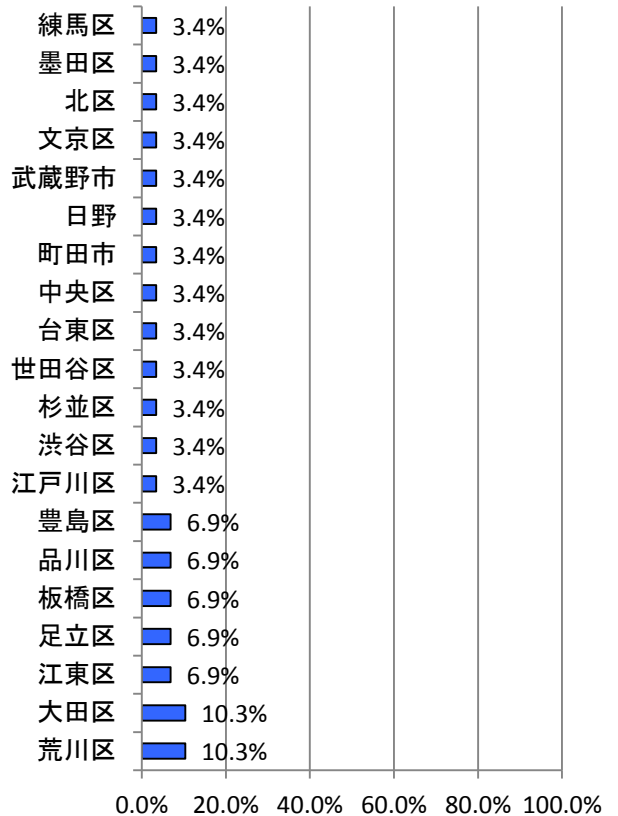
千葉県 (N=145)



埼玉県 (N=32)



東京都 (N=29)

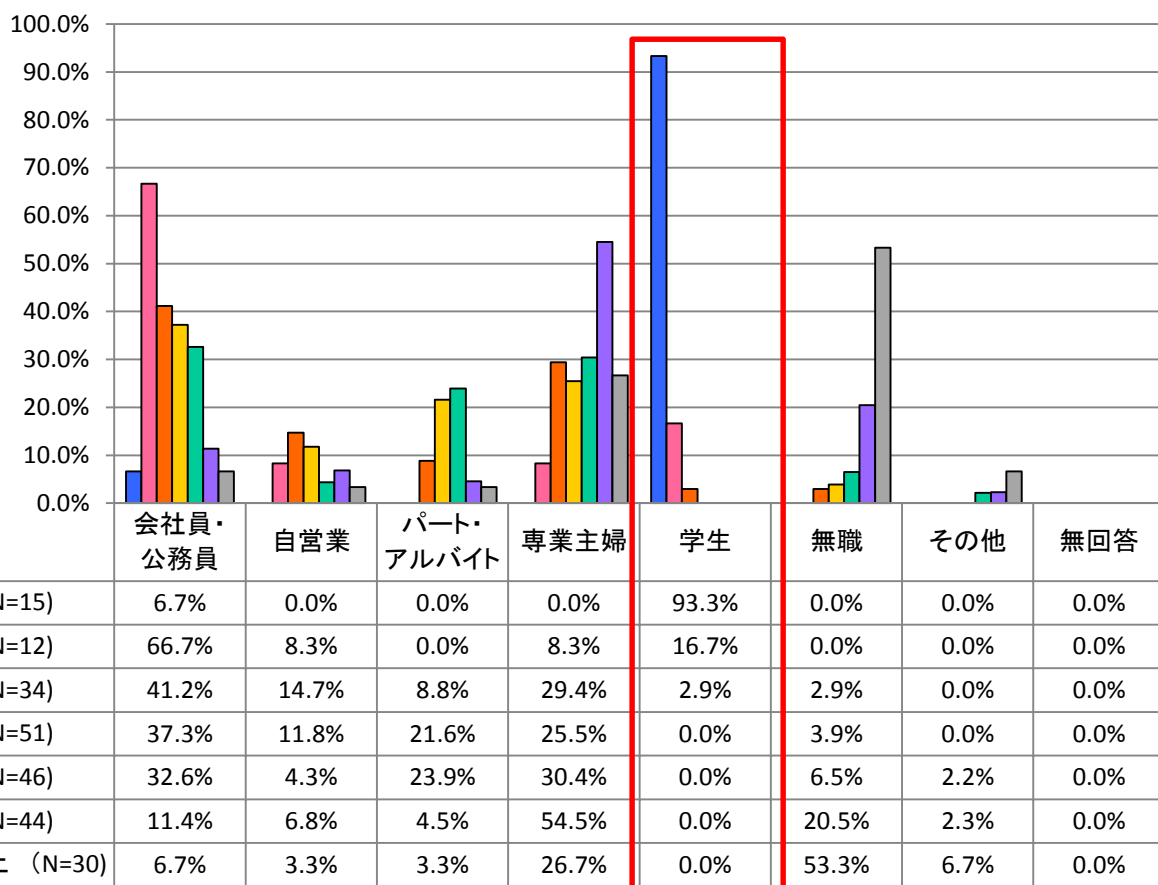


■流山本町来訪者の特徴(職業・来訪理由及びきっかけ)

職業別にみると、20代会社員・公務員、60代専業主婦及び70代以上の退職者の来訪が多い。

10代の学生の来訪もみられるが、来訪理由・きっかけをみると「学校の行事」の一環として訪れていることがわかる。

年齢別職業



10代の来訪理由・きっかけ

歩行会
Schoolの行事！
学校の行事
高校の行事、道路が整備されていて良いと思います。
学校行事だから。

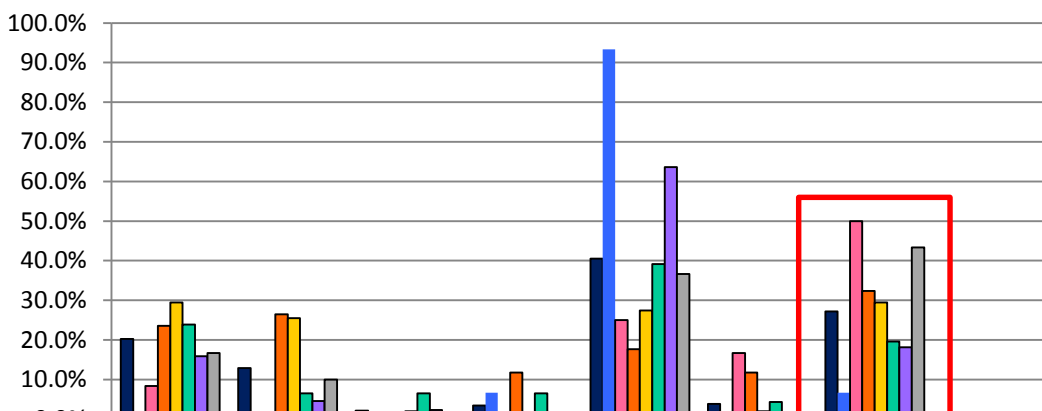
2. 観光意向調査分析 (1)流山本町来訪者への観光動向調査

■流山本町来訪者の特徴(同行者)

全体的な傾向としては、「友達」と訪れる人の割合が最も高く、次いで「夫婦」が高い。

また、男女ともに「一人」での来訪者も多いことがわかる。

年齢別同行者



	夫婦	子供	親戚	両親	友達	恋人	その他	無回答
■全体 (N=232)	20.3%	12.9%	2.2%	3.4%	40.5%	3.9%	27.2%	0.0%
■10代 (N=15)	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	93.3%	0.0%	6.7%	0.0%
■20代 (N=12)	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	16.7%	50.0%	0.0%
■30代 (N=34)	23.5%	26.5%	0.0%	11.8%	17.6%	11.8%	32.4%	0.0%
■40代 (N=51)	29.4%	25.5%	2.0%	0.0%	27.5%	2.0%	29.4%	0.0%
■50代 (N=46)	23.9%	6.5%	6.5%	6.5%	39.1%	4.3%	19.6%	0.0%
■60代 (N=44)	15.9%	4.5%	2.3%	0.0%	63.6%	0.0%	18.2%	0.0%
■70代以上 (N=30)	16.7%	10.0%	0.0%	0.0%	36.7%	0.0%	43.3%	0.0%

男性におけるその他の同行者

同行者	件数
1人	20
姉・息子	1
お客様	1
会社同僚	1
会社の上司	1
句会の仲間	1
グループ	1
サークルの仲間	1
仕事	1
職場の仲間	1
ボランティア会の仲間	1
まちあるきグループ	1

女性におけるその他の同行者

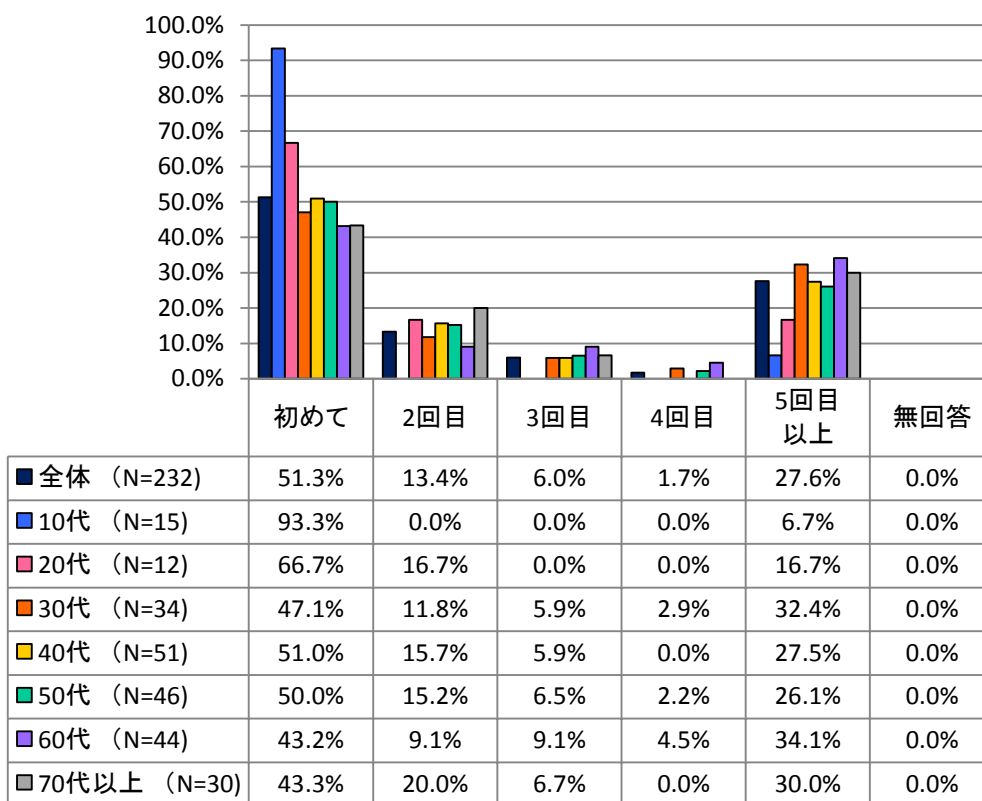
同行者	件数
1人	11
姉妹	2
孫	2
妹	1
ウォーキングの仲間	1
兄弟	1
グループメンバー	1
上司	1
墨絵の仲間	1
祖母	1
母	1
母と姉	1
母と妹	1
孫と孫の友人	1
路地のまち協議会	1

■流山本町への来訪回数

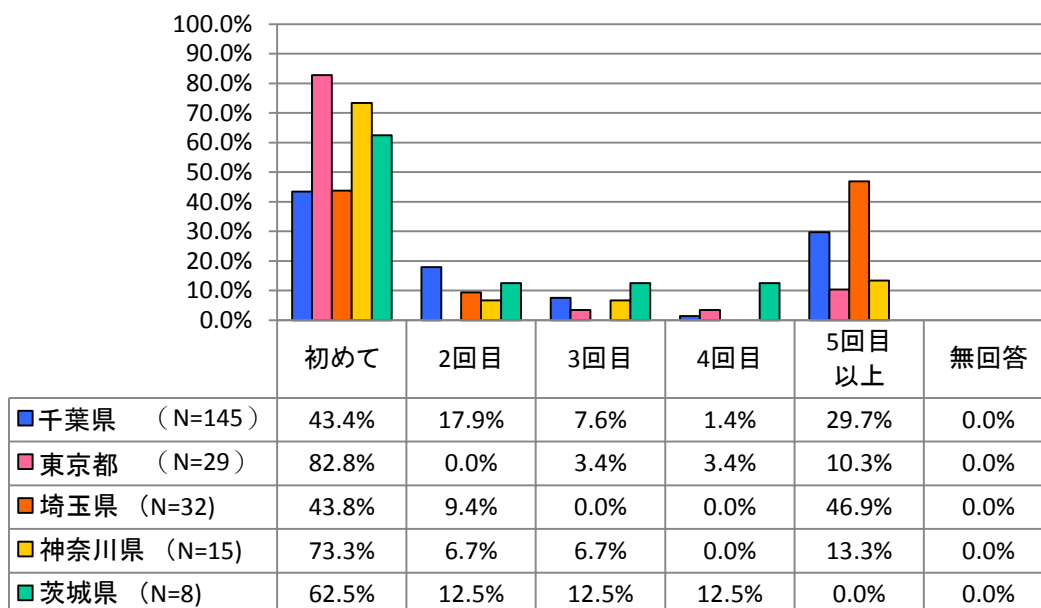
全体的な傾向として、「初めて」の来訪者が多いが、「5回以上」という来訪者もみられリピート率が高いことがわかる。

居住地域別にみると、千葉県居住者においても約半数が「初めて」と回答している。

年齢別来訪回数



居住地域別来訪回数



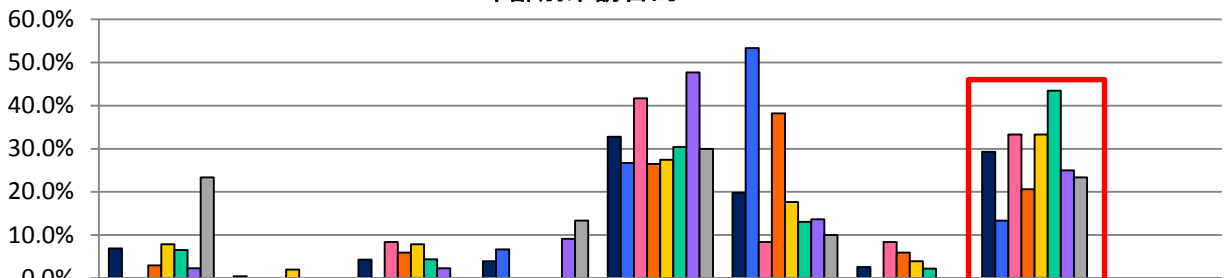
2. 観光意向調査分析 (1)流山本町来訪者への観光動向調査

■流山本町への来訪目的について

「まち歩き・町中散策」が最も来訪目的として高く、年齢別にみても高い。

観光を目的にしている来訪者はどの年齢においても低いことから、「観光地」としてのあまり認識されていないことがわかる。

年齢別来訪目的



	親戚・知り合いに会うために	帰郷・里帰り	観光	自然散策	まち歩き・町中散策	イベント	出張	その他	無回答
■全体 (N=232)	6.9%	0.4%	4.3%	3.9%	32.8%	19.8%	2.6%	29.3%	0.0%
■10代 (N=15)	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	26.7%	53.3%	0.0%	13.3%	0.0%
■20代 (N=12)	0.0%	0.0%	8.3%	0.0%	41.7%	8.3%	8.3%	33.3%	0.0%
■30代 (N=34)	2.9%	0.0%	5.9%	0.0%	26.5%	38.2%	5.9%	20.6%	0.0%
■40代 (N=51)	7.8%	2.0%	7.8%	0.0%	27.5%	17.6%	3.9%	33.3%	0.0%
■50代 (N=46)	6.5%	0.0%	4.3%	0.0%	30.4%	13.0%	2.2%	43.5%	0.0%
■60代 (N=44)	2.3%	0.0%	2.3%	9.1%	47.7%	13.6%	0.0%	25.0%	0.0%
■70代以上 (N=30)	23.3%	0.0%	0.0%	13.3%	30.0%	10.0%	0.0%	23.3%	0.0%

分類	男性におけるその他の来訪目的	件数
ビジネス	仕事	6
	出張	1
	文化財調査	1
食・グルメ	食事	4
	ランチ	3
	灯環	3
	パンを買うため	1
	丁字屋さんにランチを食べにきた	1
	カフェ	1
	飲食	1
	観光	見世蔵
観光	新選組巡り	1
	電車が好きだから。	1
	まんげ鏡	1
	見世蔵	1
	流鉄展見物	1
イベント	宝探し	2
	花火	1
	行事	1
その他	TV	1
	案内	1
	ウォーキングの下見	1

分類	女性におけるその他の来訪目的	件数	
ビジネス	仕事	1	
	食事	11	
	ランチ	7	
食・グルメ	灯環	2	
	丁字屋	1	
	会食	1	
	飲食	1	
	観光	見世蔵	1
	一茶	1	
イベント	イベントを見るため	1	
その他	買い物	5	
	通り路	2	
	お店	1	
	ウォーキングコース作りの下見	1	

2. 観光意向調査分析 (1)流山本町来訪者への観光動向調査

■流山本町への来訪目的について

「まち歩き・町中散策」回答者の来訪理由・きっかけを分類すると、「寄り道・ついで」「まち歩き・町中散策をするため」「流山本町について知り興味があった」「特定の観光資源に興味があり」及び「知人に誘われて」という項目に分類することが出来た。

まち歩き・まち中散策が好きな人にとって、その地域になにかおもしろそうな資源が一つでもあることをメディアや知人から聞いて知るだけで来訪につながっていると考えられる。このように流山本町に「なにがあるのか」ということを発信していくことが重要であることがわかる。

分類	理由・きっかけ
寄り道・ついで	少し時間が有ったので。(市役所打合の後)
	食事がてら
	子供は電車が大好きで、こちらのイベントに先に来ました。
まち歩き・町中散策をするため	まち歩き観光
流山本町について知り興味があった	『散歩の達人』を読んで
	興味があるから良く来ています。
	電車の中でポスターを見て。
	流山に来たことがなかったので、「来なくちゃ!!」と思って、初日へ!!
	前回行ってとてもステキだったので
	以前来たことがあったため
	TV放映(ちい散歩)
	ミニコミ誌にて見て
流山市報などイベント情報をみて、行きたいと思った	
特定の観光資源に興味があり	神社に興味があったから 花火のため
	流鉄に乗りにきました。
	流山の歴史、街並みをみてみたかった
	丁字屋でお茶がのみたかった。
	ショッピングセンター見学
	歴史がある流山。赤城山をメインに、2/4のウォーキング(約40名)の下見に来ました。
	新選組ゆかりの町というのを知ったから。
	流山七福神巡り
	赤城神社散歩
	流鉄電鉄に乗りたかったから。友人の模型の展示品にを見たかったらから。
古い町並みが好きなので。知人に丁字屋さんや万華鏡ギャラリー、とわさんについて聞いて是非来てみたくて。	
近くに、双樹庵等の昔の建物等(俳句も含め)ゆっくりと観賞したかった	
知人に誘われて	流山出身の知人に誘われて。
	友人にさそわれて
その他	20年前 住んでいてなつかしかったから。
	取材のため
	三郷に住んでいて散歩にいていた

※流山本町への来訪目的において「まち歩き・町中散策」を選択した回答者より来訪理由・きっかけに関するコメントを一部抜粋し、分類を行った。

2. 観光意向調査分析 (1)流山本町来訪者への観光動向調査

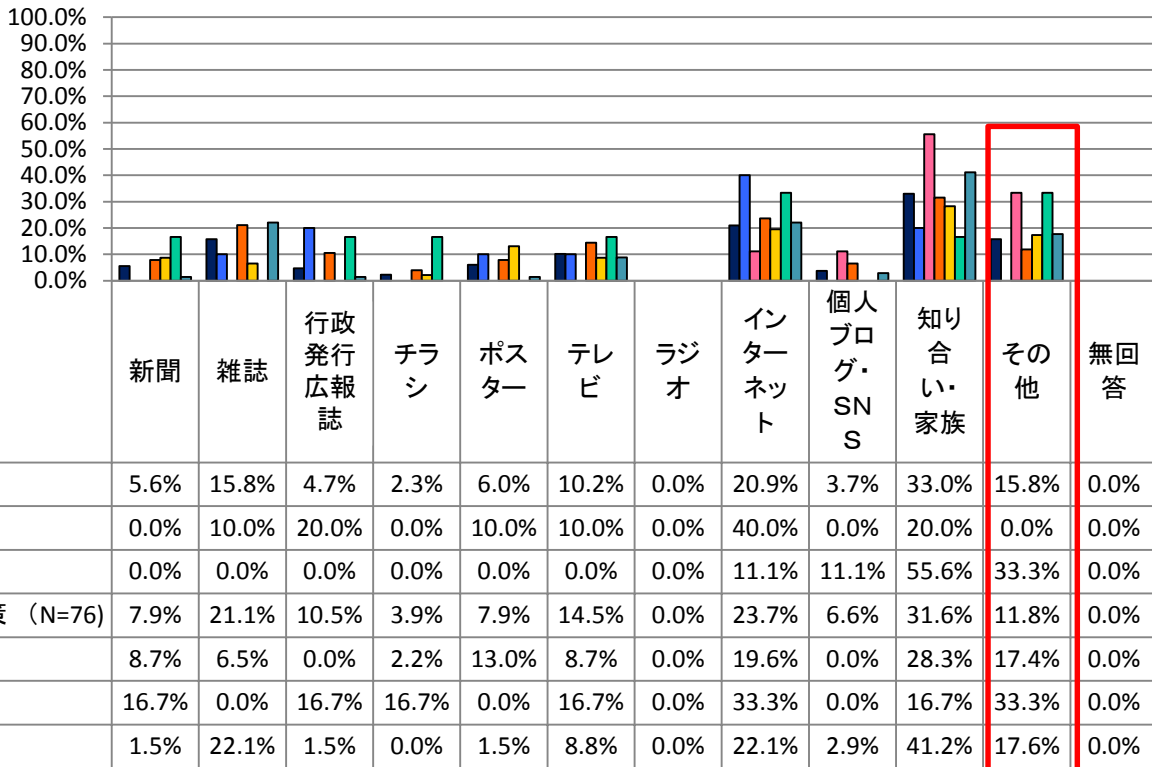
■情報入手経路について

※来訪目的において、「観光」「自然散策」「まち歩き・町中散策」「イベント」「出張」「その他」回答者のみ回答。

全体的な傾向として、「知り合い・家族」からの回答が最も多い。

また、どの来訪目的においても「知り合い・家族」からの情報が最も多い。

来訪目的別情報入手経路



来訪目的	その他の情報入手経路
観光	コアラ
自然散策	いつもマイカーで通っている
まち歩き・町中散策	全国路地のまち連絡協議会のイベント
	研究会
	よく通る
	近隣だったから
	学校
	学校
	自分で歩いてみつけた
	地図
イベント	車で通っていた
	学校
	学校
	学校
	月刊新松戸
	学校 柏市立第八小学校
	学校
宝探し タカラッシュHP	

来訪目的	その他の情報入手経路
出張	前を通って良いと思ったから
	仕事
その他	仕事の途中
	通って
	通りがかり
	お店を見かけ雰囲気が良かったから
	紹介 レインボー
	仕事
	通り道だから
	通り路
	予定の行程
	高校
タウン誌	



2. 観光意向調査分析 (1)流山本町来訪者への観光動向調査

■流山本町のイメージについて

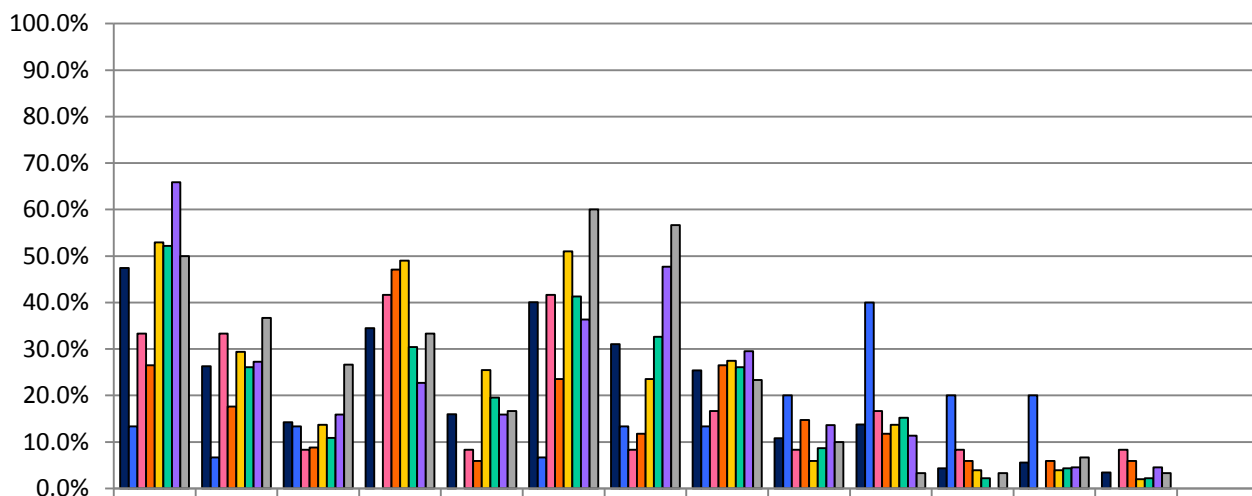
全体的な傾向として、「歴史のある町」がイメージ項目として最も高い。

年齢別にみると、40代以上で「歴史のある町」が最も高いイメージ項目となっている。  
30代以下になると「流山鉄道の町」という項目が最も高くなる。

また、10代においては「なにもない町」「特に目立った特徴のない町」という  
マイナスのイメージ項目が高くなる傾向にある。

「白みりんの町」については、70代以上で約4割、20代・40代から60代までにおいては約3割、  
30代においては約2割と年齢が上がるにつれイメージ項目として高くなる傾向にある。  
とはいえ、「流山鉄道」や「新選組」に比べるとイメージとしてやや低い傾向にある。  
この理由としては、町内で白みりんを想起できるような場所や資源がないといった事柄が考えられる。

年齢別イメージ



	歴史のある町	白みりんの町	寺院や仏閣が多くある町	流山鉄道の町	蔵のある町	新選組ゆかりの町	小林一茶ゆかりの町	江戸川沿いの町	自然が豊かな町	のんびりした町	なにもない町	特に目立った特徴のない町	その他	無回答
■全体 (N=232)	47.4%	26.3%	14.2%	34.5%	15.9%	40.1%	31.0%	25.4%	10.8%	13.8%	4.3%	5.6%	3.4%	0.0%
■10代 (N=15)	13.3%	6.7%	13.3%	0.0%	0.0%	6.7%	13.3%	13.3%	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%
■20代 (N=12)	33.3%	33.3%	8.3%	41.7%	8.3%	41.7%	8.3%	16.7%	8.3%	16.7%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%
■30代 (N=34)	26.5%	17.6%	8.8%	47.1%	5.9%	23.5%	11.8%	26.5%	14.7%	11.8%	5.9%	5.9%	5.9%	0.0%
■40代 (N=51)	52.9%	29.4%	13.7%	49.0%	25.5%	51.0%	23.5%	27.5%	5.9%	13.7%	3.9%	3.9%	2.0%	0.0%
■50代 (N=46)	52.2%	26.1%	10.9%	30.4%	19.6%	41.3%	32.6%	26.1%	8.7%	15.2%	2.2%	4.3%	2.2%	0.0%
■60代 (N=44)	65.9%	27.3%	15.9%	22.7%	15.9%	36.4%	47.7%	29.5%	13.6%	11.4%	0.0%	4.5%	4.5%	0.0%
■70代以上 (N=30)	50.0%	36.7%	26.7%	33.3%	16.7%	60.0%	56.7%	23.3%	10.0%	3.3%	3.3%	6.7%	3.3%	0.0%

2. 観光意向調査分析 (1)流山本町来訪者への観光動向調査

■流山本町について知っていること

全体的な傾向として、「新選組ゆかりの町であること」が最も高い。

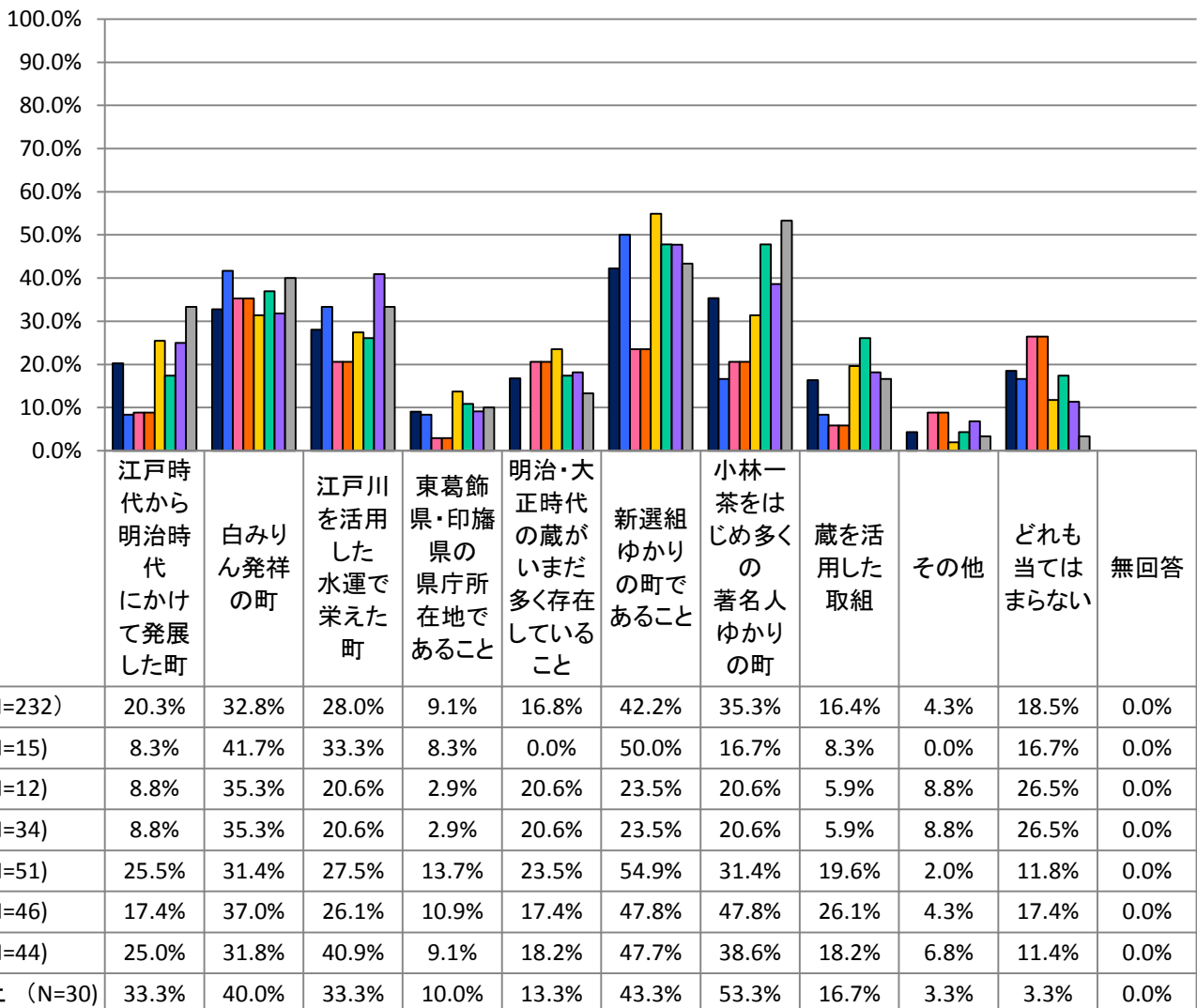
年齢別にみても「新選組ゆかりの町であること」は10代を除くどの年齢においても上位1位・2位の項目として上がっている。

「新選組」に関する事柄についてはイメージ項目としても上位項目として上がっており「新選組にゆかりのある町」であることが認知・浸透していることがわかる。

「白みりん発祥の町」については、全体で3番目に高い項目として挙げられており、年齢別にみて(10代を除く)約3割から4割の来訪者が知っている項目として挙げている。しかし、前ページで記載したようにイメージ項目としてはやや低い傾向にある。

また、「江戸時代から明治時代にかけて発展した町」「江戸川を活用した水運で栄えた町」「東葛飾・印旛県の県庁所在地であること」「明治・大正時代の蔵がいまだ多く存在していること」の項目が低いことから「歴史のある町」としてのイメージはあるが流山本町の具体的な歴史について知っている人はそれほど多くないということがわかる。(前ページの「歴史のある町」がイメージ項目として最も高いことをうけて)

年齢別知っていること



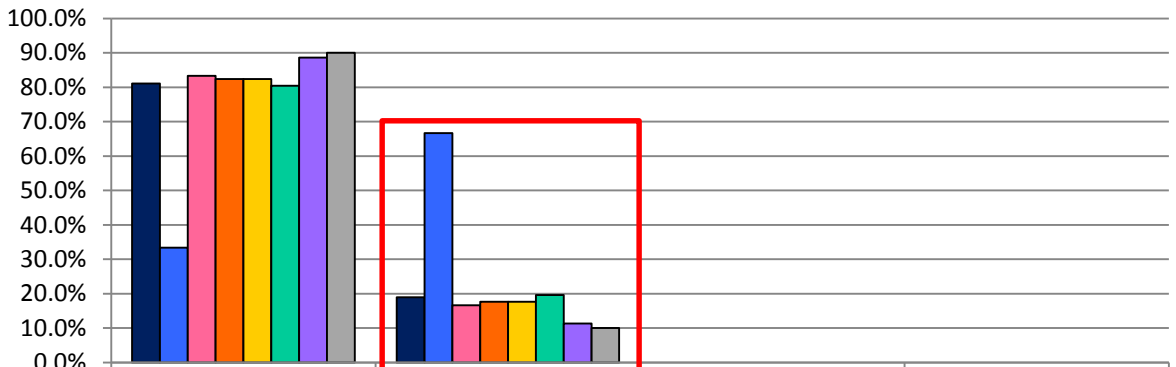
2. 観光意向調査分析 (1) 流山本町来訪者への観光動向調査

■流山本町への来訪意向

10代を除くどの年齢においても、「また訪れてみたい」が最も高い。

一方で、「もう見るものがない」「遠い」「イベント等があれば」といった理由から10代を除くどの年齢においても約1割から2割の来訪者が特に理由がなければ訪れてみたいと思わないと回答している。

年齢別来訪意向



	また訪れてみたいと思う	特に理由がなければ訪れてみたい	訪れたいとは思わない	無回答
■ 全体 (N=232)	81.0%	19.0%	0.0%	0.0%
■ 10代 (N=15)	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
■ 20代 (N=12)	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%
■ 30代 (N=34)	82.4%	17.6%	0.0%	0.0%
■ 40代 (N=51)	82.4%	17.6%	0.0%	0.0%
■ 50代 (N=46)	80.4%	19.6%	0.0%	0.0%
■ 60代 (N=44)	88.6%	11.4%	0.0%	0.0%
■ 70代以上 (N=30)	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%

来訪回数	「機会があればまた訪れたいと思う」の回答理由
初めて	特にない。
	家から遠い。
	イベントに参加
	周囲に訪れてみたいと思える場所が少ないので、「寄り道」として訪れることは難しそうだから。
	他に見るべきものがなさそう
	魅力の集積がない。
	あまり興味がない。
	特徴的なコンテンツ次第。
	観光するものがないから
	都心から遠い
	あまり、来たいと思う場所がない。
	みりよ的なものがとくにない。
	イベントがあつたら来たいです。
	あまり来ないし、交通手段がほとんどない。
	遠い。
	あまりよく知らない為
	目的になるものがない。
	流山をあまりよく知らない。
何かイベントがあれば又、来たいと思う。	
四季の花めぐりをしたい	

来訪回数	「機会があればまた訪れたいと思う」の回答理由
2回目	自宅からあまり遠くないため。
	地元からは少し離れているから イベントがあればまた来てみたい 何かイベントがあれば来訪したい
3回目	観光資源が少ない
4回目	見たいもの、興味をもつものがない
5回目以上	観光資源に乏しい。 この地域の良さが発信されていないから(あるとは思うが) 交通の便が悪い
	散策して、もうだいたい全体を見た。わざわざは、いかない。最近、引越したので。
	子供連れて行くところがないから
	妹の家があるので度々来る



## 2 観光意向調査分析

---

- (1) 流山本町来訪者への観光動向調査の実施
- (2) **観光客への観光需要調査の実施**
- (3) 流山本町地区住民への意識調査の実施



■調査項目

<アンケート裏面>

<b>Q9</b>	<p>あなたが、「流山本町地区」について興味・関心があることをお答えください。                  (いくつでも○をして可)                  ※「行ってみたい」「見てみたい」「知りたい」と思う事柄として当てはまるものをお答えください。</p>																
	<table border="0"> <tr> <td>①流鉄流山線</td> <td>②寺院や仏閣</td> </tr> <tr> <td>③蔵を活用したレストランやカフェ</td> <td>④蔵を活用したショップ・ギャラリー</td> </tr> <tr> <td>⑤新選組ゆかりのスポット</td> <td>⑥小林一茶ゆかりのスポット</td> </tr> <tr> <td>⑦江戸川や豊かな自然</td> <td>⑧白みりん発祥の町であること</td> </tr> <tr> <td>⑨史跡ガイドツアー</td> <td>⑩祭やイベント</td> </tr> <tr> <td colspan="2">⑪水運で栄えたことや東飾県・印旛県の県庁所在地であったといった歴史</td> </tr> <tr> <td colspan="2">⑫その他( )</td> </tr> <tr> <td colspan="2">⑬どれも当てはまらない</td> </tr> </table>	①流鉄流山線	②寺院や仏閣	③蔵を活用したレストランやカフェ	④蔵を活用したショップ・ギャラリー	⑤新選組ゆかりのスポット	⑥小林一茶ゆかりのスポット	⑦江戸川や豊かな自然	⑧白みりん発祥の町であること	⑨史跡ガイドツアー	⑩祭やイベント	⑪水運で栄えたことや東飾県・印旛県の県庁所在地であったといった歴史		⑫その他( )		⑬どれも当てはまらない	
①流鉄流山線	②寺院や仏閣																
③蔵を活用したレストランやカフェ	④蔵を活用したショップ・ギャラリー																
⑤新選組ゆかりのスポット	⑥小林一茶ゆかりのスポット																
⑦江戸川や豊かな自然	⑧白みりん発祥の町であること																
⑨史跡ガイドツアー	⑩祭やイベント																
⑪水運で栄えたことや東飾県・印旛県の県庁所在地であったといった歴史																	
⑫その他( )																	
⑬どれも当てはまらない																	
<b>Q10</b>	<p>「流山本町地区」は、電車で40分と都心から近く、半日での観光(日帰り旅行)に適している場所です。半日観光(日帰り旅行)の際にあなたが重視することを教えてください。(いくつでも○をして可)</p>																
	<table border="0"> <tr> <td>①見学・観光する名所がいくつかある</td> <td>②食事やお茶をする場所がある</td> </tr> <tr> <td>③おみやげを買う場所がある</td> <td>④「流山本町といえば」という土産や特産品がある</td> </tr> <tr> <td>⑤その地域の観光情報を紹介してくれる施設や人がいる</td> <td>⑥町内を案内してくれるガイドがいる</td> </tr> <tr> <td>⑦駐車場がある</td> <td>⑧歩いて観光できるよう環境が整っている</td> </tr> <tr> <td colspan="2">⑨町に活気があり、人も多くいる賑やかな町であること</td> </tr> <tr> <td colspan="2">⑩人が少なく、静かでのんびり観光ができる環境であること</td> </tr> <tr> <td colspan="2">⑪その他( )</td> </tr> <tr> <td colspan="2">⑫どれも当てはまらない</td> </tr> </table>	①見学・観光する名所がいくつかある	②食事やお茶をする場所がある	③おみやげを買う場所がある	④「流山本町といえば」という土産や特産品がある	⑤その地域の観光情報を紹介してくれる施設や人がいる	⑥町内を案内してくれるガイドがいる	⑦駐車場がある	⑧歩いて観光できるよう環境が整っている	⑨町に活気があり、人も多くいる賑やかな町であること		⑩人が少なく、静かでのんびり観光ができる環境であること		⑪その他( )		⑫どれも当てはまらない	
①見学・観光する名所がいくつかある	②食事やお茶をする場所がある																
③おみやげを買う場所がある	④「流山本町といえば」という土産や特産品がある																
⑤その地域の観光情報を紹介してくれる施設や人がいる	⑥町内を案内してくれるガイドがいる																
⑦駐車場がある	⑧歩いて観光できるよう環境が整っている																
⑨町に活気があり、人も多くいる賑やかな町であること																	
⑩人が少なく、静かでのんびり観光ができる環境であること																	
⑪その他( )																	
⑫どれも当てはまらない																	
<b>Q11</b>	<p>あなたは、「流山本町地区」を訪れてみたいと思いますか?                  ※すでに「流山本町地区」を訪れたことがあるという方は、再来訪意向についてお答えください。</p>																
	<p>①(また)訪れてみたいと思う                  ②(また)機会があれば訪れてみたいと思う                  ③(また)訪れてみたいと思わない</p>																
<b>Q12</b>	<p>その他ご意見、ご感想等ありましたらご記入ください。</p>																
	<div style="border: 1px solid black; height: 100px;"></div>																

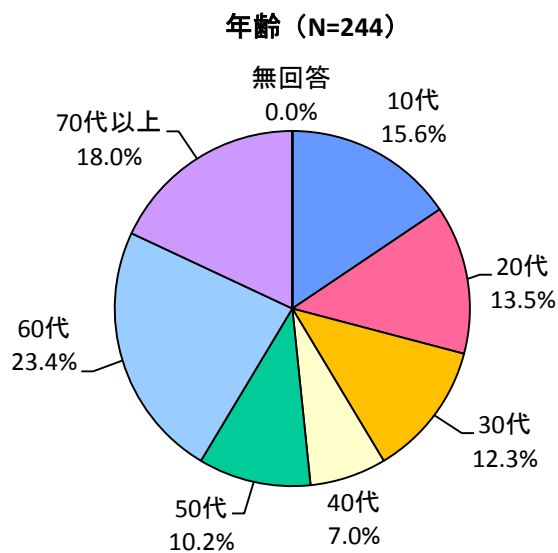
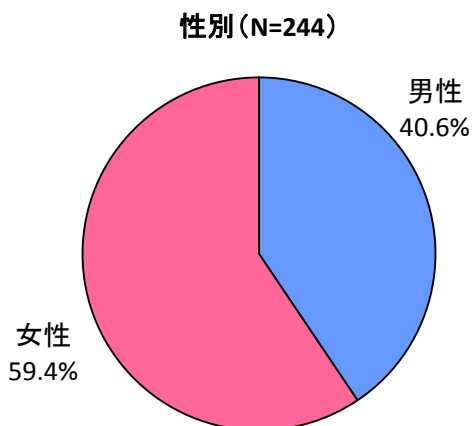
- アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。 -

イ. 調査結果のまとめ

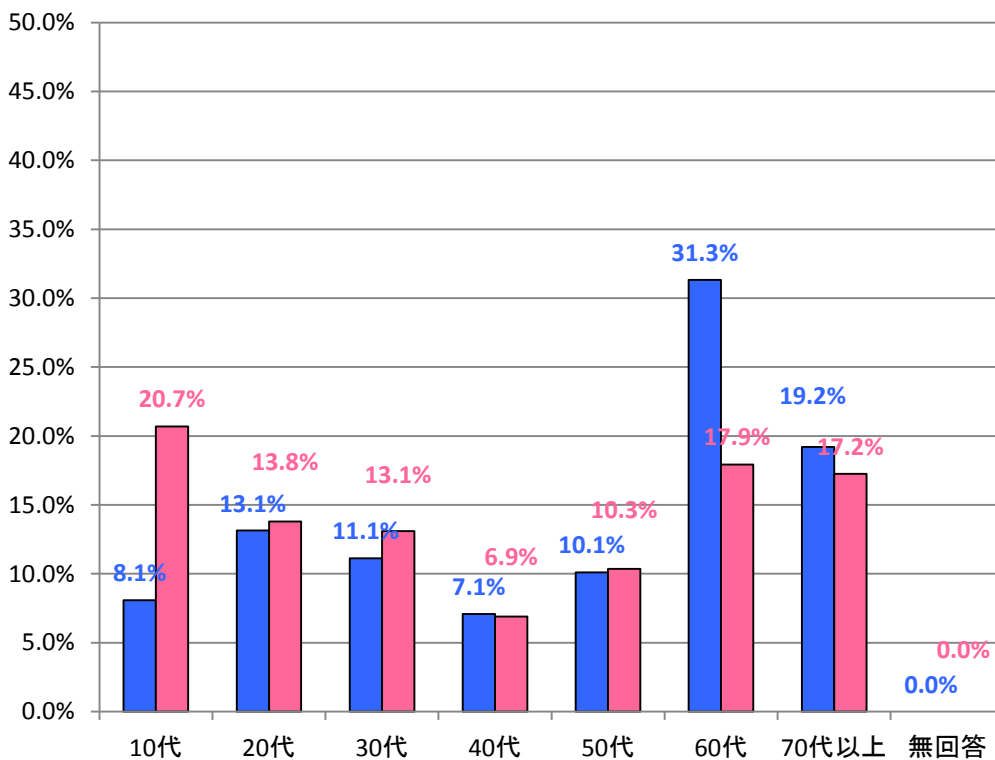
■回答者の特徴(性別・年齢)

女性が約6割と男性の回答者よりも多い。

年齢別にみると、60代が最も多く、次いで70代以上が多い。



男女別の年齢



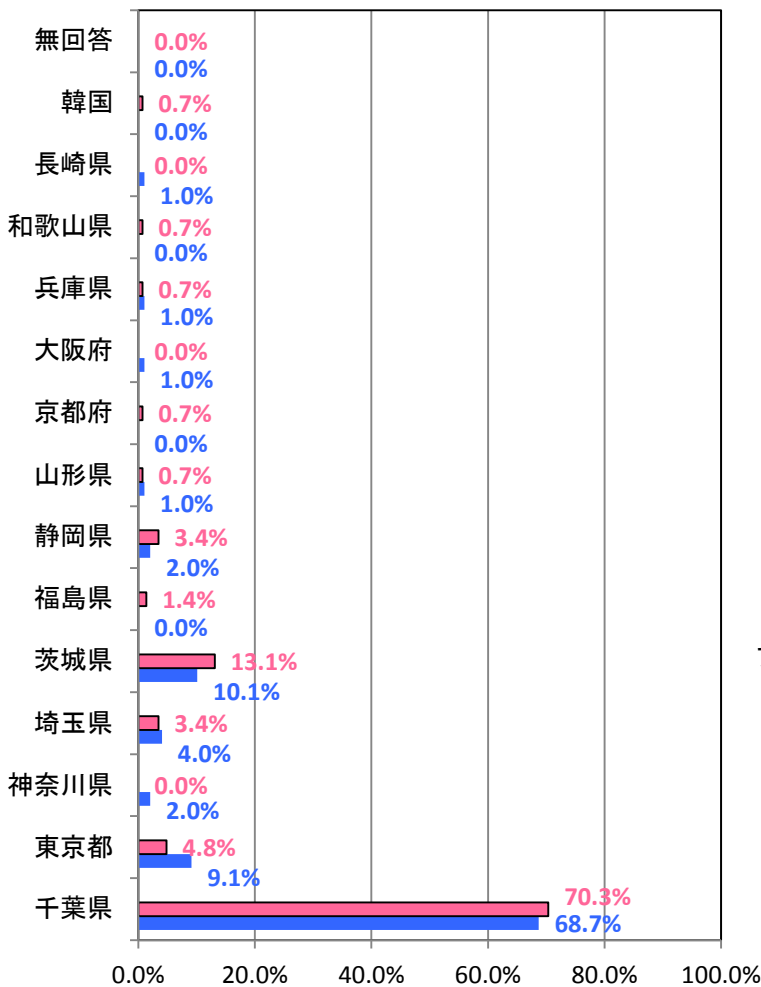
■回答者の特徴(居住地・職業)

男女ともに「千葉県」居住者が最も多い。  
 (調査の特性上、「流山市」に居住者についてはあらかじめ調査対象者として除外。  
 また調査は柏駅・守谷駅及びおおたかの森駅にて実施)

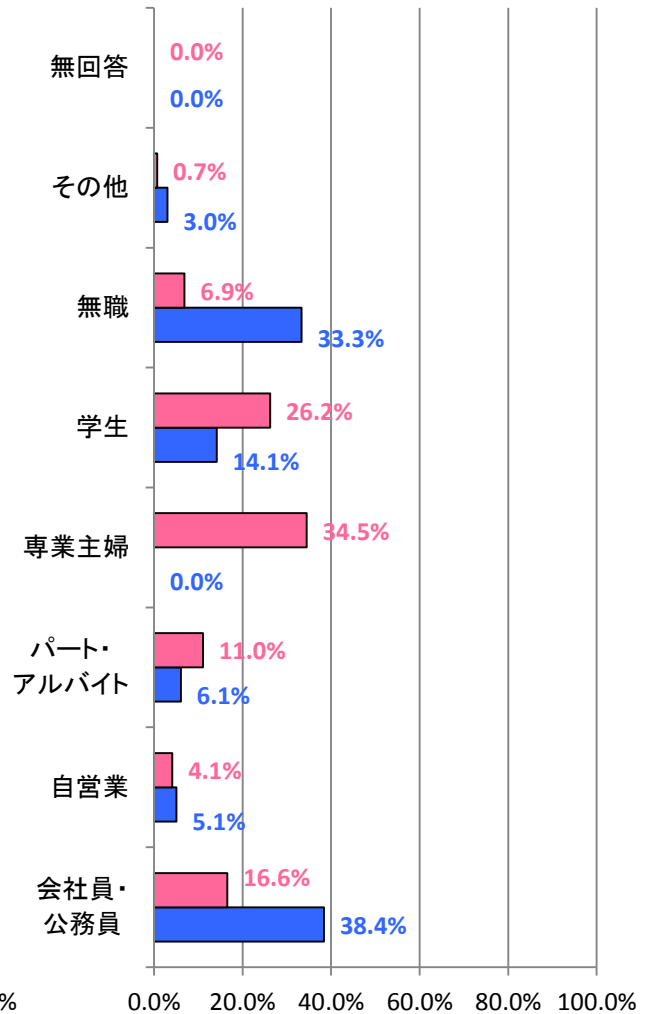
遠方地域になると「長崎県」「兵庫県」「大阪府」「京都府」「山形県」「静岡県」居住者もいる。

職業別にみると男性においては「会社員・公務員」が最も多く、女性においては「専業主婦」が最も多い。

男女別の居住地



男女別の職業





2. 観光意向調査分析 (2)観光客への観光需要調査

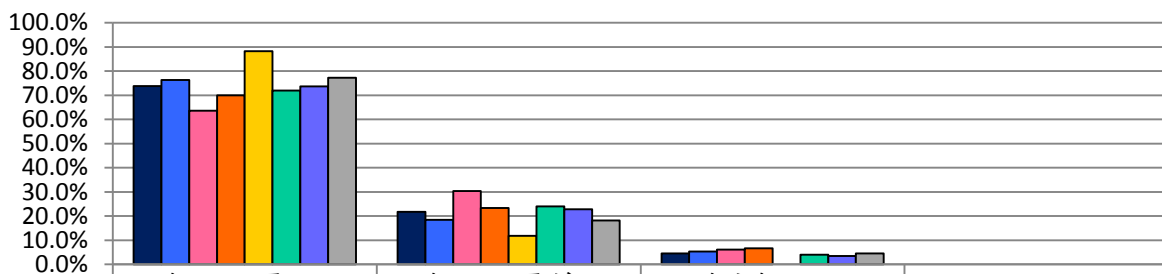
■「流山市」「流山本町」に対する認知度合

どの年齢においても「流山市」に対する認知度合は高い。また、来訪経験についても高い。

年齢が上がるにつれ、「知っているし、行ったことがある」という回答者の割合が増える傾向にある。

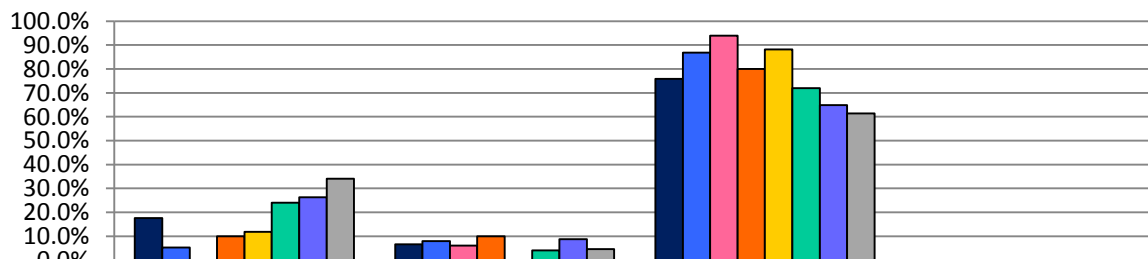
しかし、「流山本町」については、どの年齢においても「知らないし、行ったこともない」という回答が高く、「流山本町」の認知度合が低いことがわかる。

年齢別「流山市」に対する認知度合



年齢	知っているし、 行ったことがある	知っているが、 行ったことはない	知らないし、 行ったこともない	無回答
全体 (N=244)	73.8%	21.7%	4.5%	0.0%
10代 (N=38)	76.3%	18.4%	5.3%	0.0%
20代 (N=33)	63.6%	30.3%	6.1%	0.0%
30代 (N=30)	70.0%	23.3%	6.7%	0.0%
40代 (N=17)	88.2%	11.8%	0.0%	0.0%
50代 (N=25)	72.0%	24.0%	4.0%	0.0%
60代 (N=57)	73.7%	22.8%	3.5%	0.0%
70代以上 (N=44)	77.3%	18.2%	4.5%	0.0%

年齢別「流山本町」に対する認知度合



年齢	知っているし、 行ったことがある	知っているが、 行ったことはない	知らないし、 行ったこともない	無回答
全体 (N=244)	17.6%	6.6%	75.8%	0.0%
10代 (N=38)	5.3%	7.9%	86.8%	0.0%
20代 (N=33)	0.0%	6.1%	93.9%	0.0%
30代 (N=30)	10.0%	10.0%	80.0%	0.0%
40代 (N=17)	11.8%	0.0%	88.2%	0.0%
50代 (N=25)	24.0%	4.0%	72.0%	0.0%
60代 (N=57)	26.3%	8.8%	64.9%	0.0%
70代以上 (N=44)	34.1%	4.5%	61.4%	0.0%

2. 観光意向調査分析 (2)観光客への観光需要調査

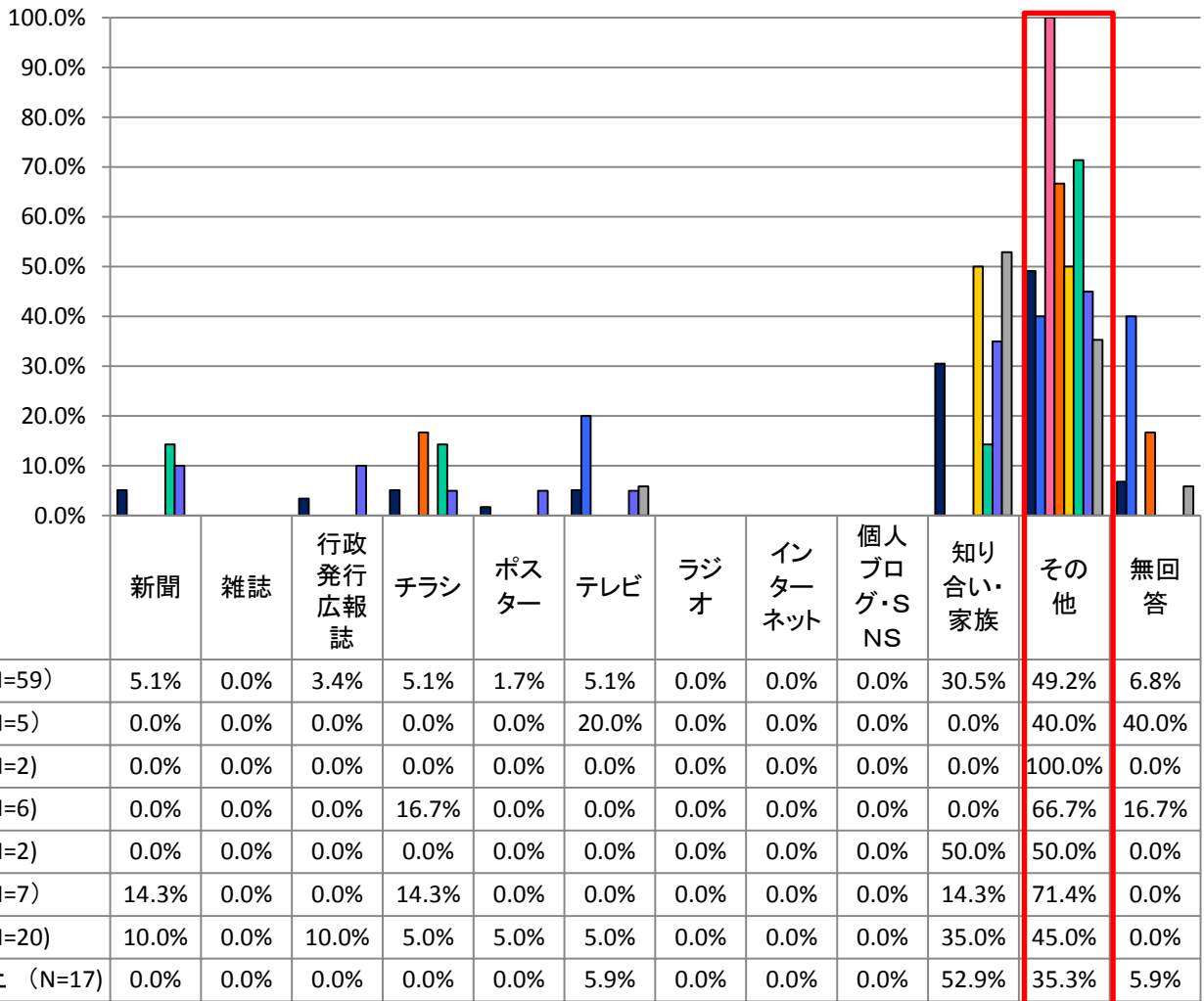
■「流山本町」に関する情報入手経路  
 ※「流山本町」について知っている方のみ回答

どの年齢においても「知り合い・家族」が最も高い項目として挙がっている。

その他の情報入手経路として、「新聞」「行政発行広報誌」「チラシ」「ポスター」「テレビ」といった情報源が挙げられているが、全体的に市外への情報発信が弱いことがわかる。

また、「車や自転車等で通りがかり知った」「仕事で知った」といった回答もみられる。

年齢別「流山本町」に関する情報入手経路  
 (「流山本町」について知っている方のみ回答)



その他	
住んでいた	部活
マンガ(すすめパイレーツというタイトル)	患者さんの話。
仕事	カーナビ
よく車で通った	出かけてみて
職場がある	買い物など
時代小説	仕事で知った。患者さんに聞いた。
柏市(ファミリー柏3F)に流山市のガイドブックがあり、知った。	実家
サイクリングしてる時に知った	通過する
近くだから	しょっちゅう行っている。
用事でよく行き知っている。	流山に土地があるので
電車に乗って友人に会いにいく時、知った。	商工会議所に行っていた。

2. 観光意向調査分析 (2)観光客への観光需要調査

■「流山本町」について知っていること  
※「流山本町」について知っている方のみ回答

全体的な傾向として、「新選組ゆかりの町であること」が最も高く、次いで「小林一茶をはじめ多くの著名人ゆかりの町」が高い。

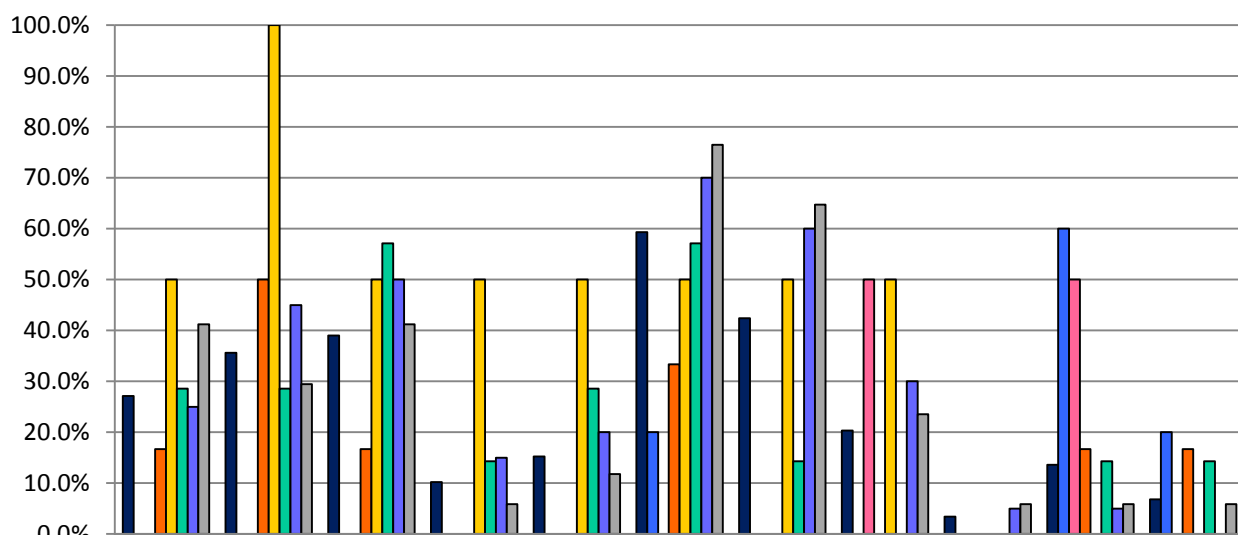
年齢別にみると、50代以上で「新選組ゆかりの町であること」の認知度合が高くなる傾向にある。

「白みりん発祥の町」については、30代及び40代で高い傾向にある。

「蔵を活用した取組」については、20代及び40代で高い傾向にある。

年齢によって認知されている事柄に違いがあるが、「新選組ゆかりの町であること」に対する認知度合はどの事柄に比べて高い。

年齢別「流山本町」について知っていること  
(「流山本町」について知っている方のみ回答)



	江戸時代から明治時代にかけて発展した町	白みりん発祥の町	江戸川を活用した水運で栄えた町	東葛飾県・印旛県の県庁所在地であること	明治・大正時代の蔵がいまだ多く存在していること	新選組ゆかりの町であること	小林一茶をはじめ多くの著名人ゆかりの町	蔵を活用した取組	その他	どれも当てはまらない	無回答
■全体 (N=59)	27.1%	35.6%	39.0%	10.2%	15.3%	59.3%	42.4%	20.3%	3.4%	13.6%	6.8%
■10代 (N=5)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	20.0%
■20代 (N=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%
■30代 (N=6)	16.7%	50.0%	16.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%
■40代 (N=2)	50.0%	100.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
■50代 (N=7)	28.6%	28.6%	57.1%	14.3%	28.6%	57.1%	14.3%	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%
■60代 (N=20)	25.0%	45.0%	50.0%	15.0%	20.0%	70.0%	60.0%	30.0%	5.0%	5.0%	0.0%
■70代以上 (N=17)	41.2%	29.4%	41.2%	5.9%	11.8%	76.5%	64.7%	23.5%	5.9%	5.9%	5.9%

2. 観光意向調査分析 (2)観光客への観光需要調査

■「流山本町」について興味・関心のあること

全体的な傾向として、「流鉄流山線」が最も高く、次いで「新選組ゆかりのスポット」が高いが、どの項目においても半数を超えるものはない。

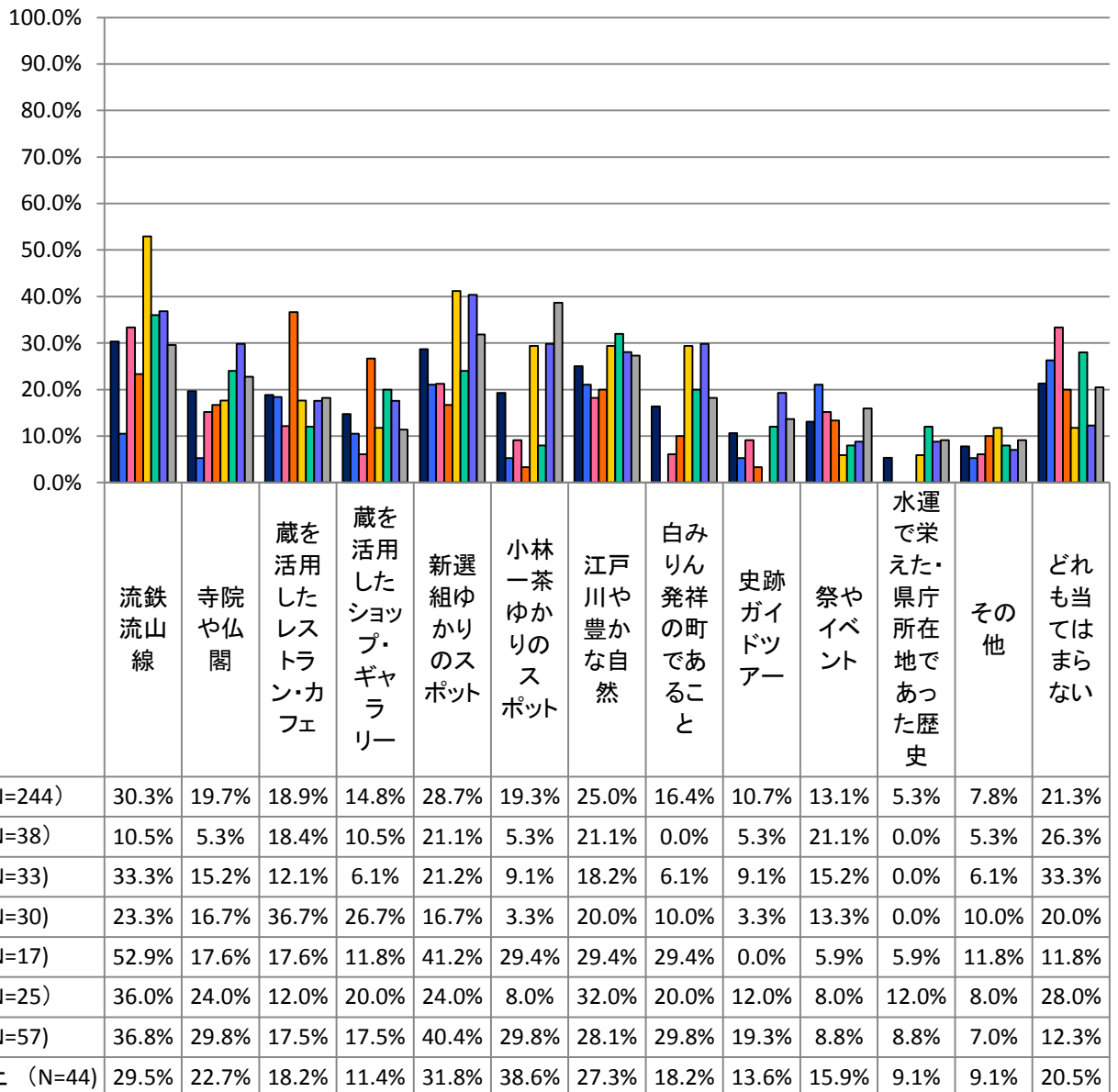
また、約2割が「どれも当てはまらない」と回答している。  
この理由としては、各資源がどのようなものなのかやどういった魅力があるのかといった検討材料(情報)が少ないことが考えられる。

年齢別にみても、半数以上を超える項目については40代の「流鉄流山線」だけである。

「白みりん発祥の町」については、40代及び60代で約3割が興味・関心があると回答している。

「史跡ガイドツアー」については、年齢が上がるにつれ興味・関心がある事柄として高くなる傾向にある。

年齢別興味・関心のあること



2. 観光意向調査分析 (2)観光客への観光需要調査

■半日観光における重視点

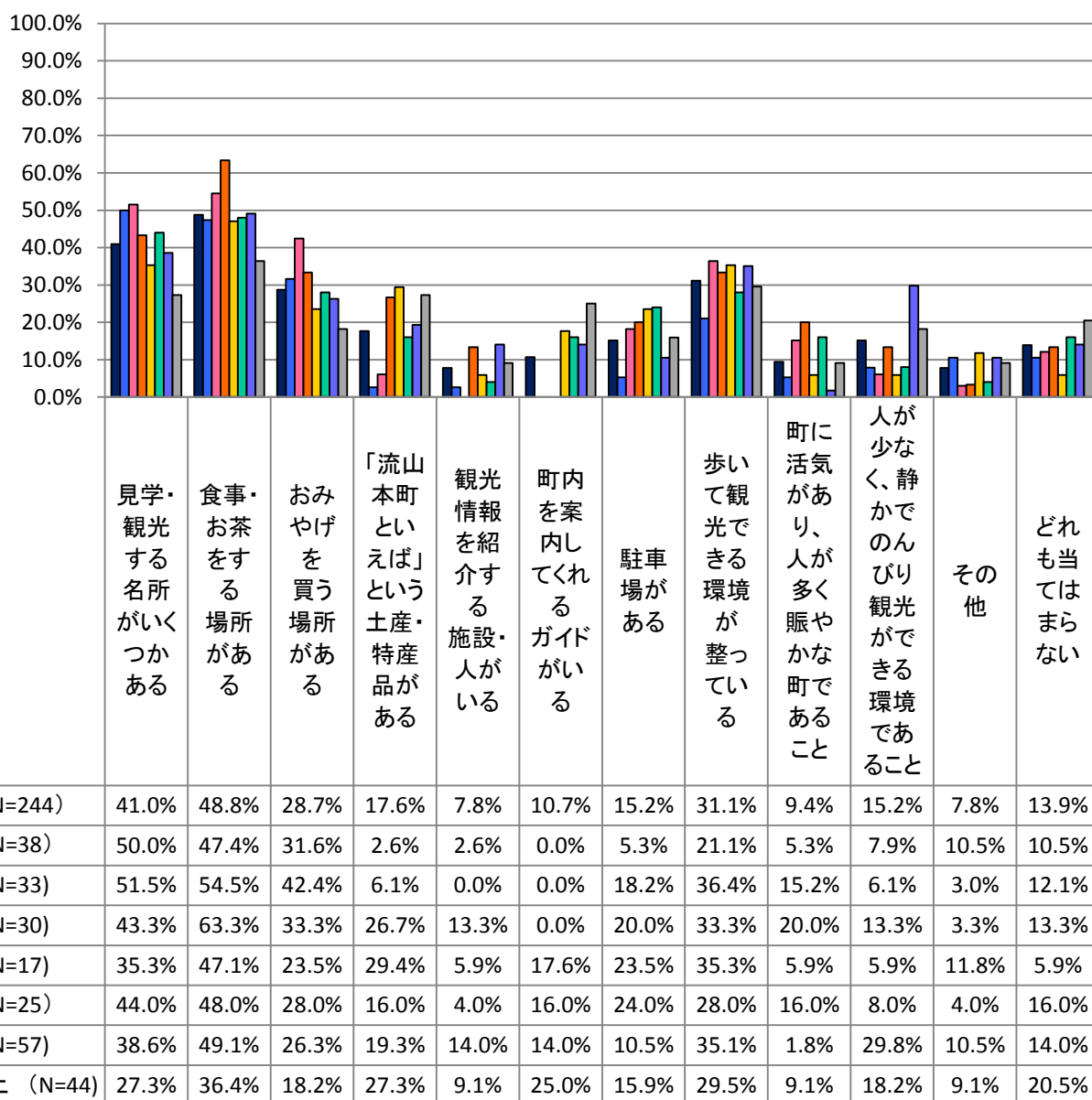
全体的な傾向として、「食事・お茶をする場所がある」ことが最も高い。  
次いで、「見学・観光する名所がいくつかある」が高い。

年齢別にみても、10代を除くどの年齢においても  
「食事・お茶をする場所がある」ことが重視点として最も高い。

「おみやげを買う場所がある」「『流山本町といえば』という土産・特産品がある」ことについては、  
全体でそれぞれ28.7%、17.6%とあまり重視されていないことがわかる。

また、「駐車場がある」ことよりも、「歩いて観光が出来る環境が整っている」ことが重視されている  
年齢別にみても同様の傾向がみられる。

半日観光における重視点



2. 観光意向調査分析 (2)観光客への観光需要調査

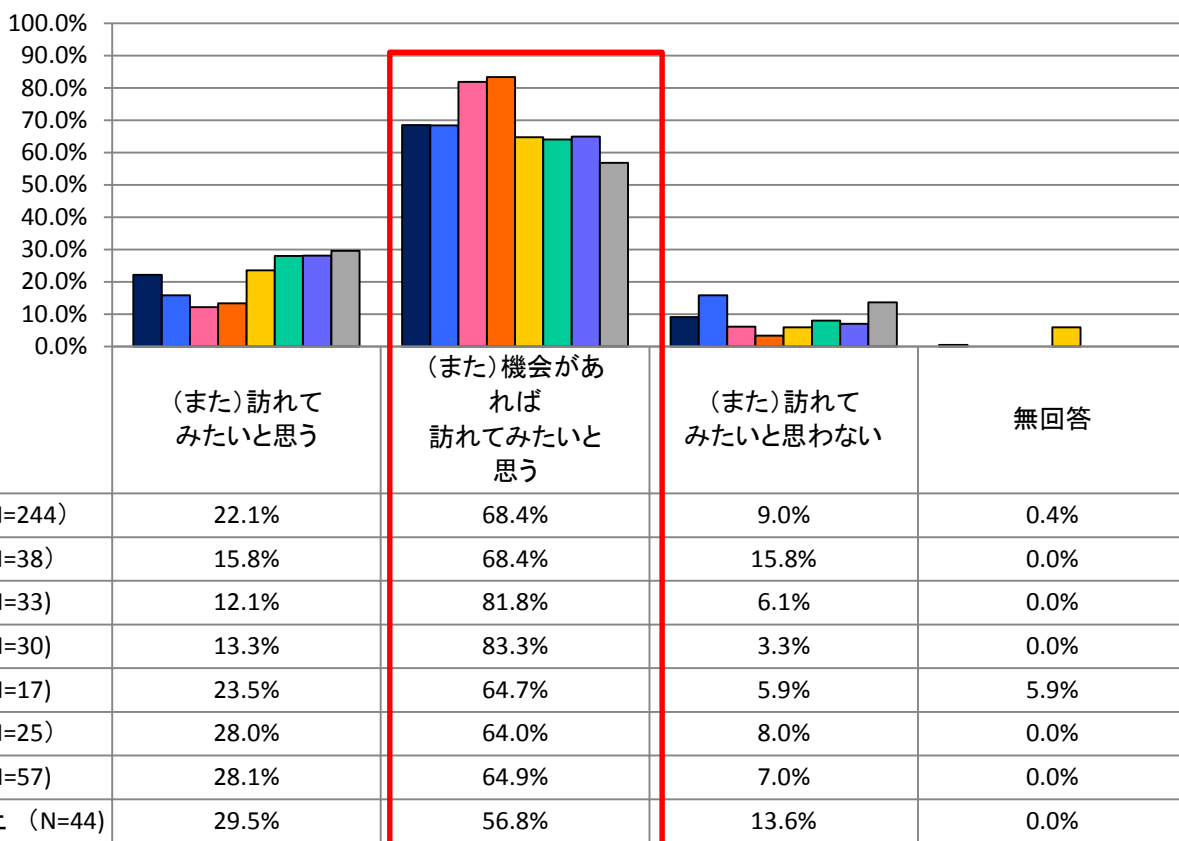
■来訪意向

全体的な傾向として、「機会があれば訪れてみたいと思う」が最も高い。

年齢別にみても、「機会があれば訪れてみたいと思う」が最も高い。  
 この理由としては、「なにがあるのかわからない」「はじめて知った」など情報不足が挙げられる。  
 また「観光地のイメージがない」や「交通の便が悪い」といった理由も挙げられる。  
 情報発信の強化を図るとともに、観光地としてのイメージ訴求や  
 交通の便が悪くとも行ってみたいくなるような価値を創出する必要がある。

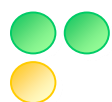
年齢が上がるにつれ「訪れてみたいと思う」と回答した人に割合が増える傾向にある。

年齢別来訪意向



「機会があれば訪れてみたい」回答者の意見・感想

PRが必要
場所が分かりづらい
引越して間もないからこころ辺をよく分からない、交通の便が悪い
流山は松戸や柏に比べて田舎なイメージ、交通が発達していない
まだ、よくわからない
情報を調べないとわからない。近郊駅などにポスターなど必要では？
初めて聞いたのできょうみを持った。情報を知りたいなと思いました。
何か大きなイベント等あれば行ってみたい。
子供が住んでいる。観光地という感覚はない。
馬橋st. に案内はないの？アロマテラピー、花アレンジ、古布で子のもづくりの教室などあれば参加したい。市HPにのせて。他でもアピールして。知らないことが多い。
集客のポイントになるものがあれば、ついでに訪れてみたい。交通の便が良くない。どこにあるかわからない。
用事がないと行かないので、特にない。



## 2 観光意向調査分析

---

- (1) 流山本町来訪者への観光動向調査の実施
- (2) 観光客への観光需要調査の実施
- (3) 流山本町地区住民への意識調査の実施

2. 観光意向調査分析 (3)流山本町地区住民への意識調査の実施

ア. 実施概要

■調査目的

流山本町地区に居住する住民を対象に、流山本町に対する意識調査を実施。流山本町の誇れる点・アピールポイントや特徴などを明らかにするとともに、悪い点や改善点などの課題を明らかにすることによって、流山本町の強みと弱みを把握する。調査は、古くから流山本町地区に居住する「旧住民」と最近になって居住を始めた「新住民」との傾向の違いについても分析を行うことによって、流山本町のポジション把握の参考とする。

■調査方法

- ・記入式アンケート  
※調査員が流山本町内の各家庭にポスティングを実施。

■調査期間

2013年3月上旬～2013年3月中旬まで実施。

■回収数

有効回答数合計 460件  
※全1710世帯へポスティングを実施し、期間内に戻ってきたアンケートを対象に集計を行った。

■調査項目

<アンケート表面>

流山本町の観光振興に関するアンケート			No.
流山市では、流山本町地域における観光振興を目的に当該地域の現状等を多角的な側面から調査し、観光戦略の基礎データを収集することにより、当該地域の現状に即した観光施策を展開していきたいと考えておりますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。			
<b>Q1</b> あなたの性別をお答えください。(1つだけ○)			
①男性	②女性		
<b>Q2</b> あなたの年齢をお答えください。(1つだけ○)			
①10代	②20代	③30代	④40代
⑤50代	⑥60代	⑦70代以上	
<b>Q3</b> あなたのご職業をお答えください。(1つだけ○)			
①会社員・公務員	②自営業	③パート・アルバイト	
④専業主婦	⑤学生	⑥無職	
⑦その他( )			
<b>Q4</b> 現在、同居している方についてお答えください。(当てはまる番号全てに○)			
①祖父母	②両親	③兄弟・姉妹	④配偶者
⑤子供	⑥親戚	⑦友人	⑧その他( )
<b>Q5</b> 流山市での居住年数についてお答えください。(1つだけ○)			
①1年未満	②1年以上5年未満	③5年以上10年未満	
④10年以上15年未満		⑤15年以上	
<b>Q6</b> 「流山本町地区」のイメージについてお答えください。(いくつでも○をして可) ※「流山本町」と聞いてばっと連想・イメージする事柄として当てはまるものをお答えください。			
①歴史のある町	②白みりんの町	③寺院や仏閣が多くある町	
④流山鉄道の町	⑤蔵のある町	⑥新選組ゆかりの町	
⑦小林一茶ゆかりの町	⑧江戸川沿いの町	⑨自然が豊かな町	
⑩のんびりした町	⑪住みやすい町	⑫なにもない町	
⑬特に目立った特徴のない町		⑭その他( )	
⑮どれも当てはまらない			
<b>Q7</b> 「流山本町地区」について知っていることをお答えください。(いくつでも○をして可)			
①江戸時代から明治時代にかけて発展した町であること		②白みりん発祥の町であること	
③江戸川を活用した水運で栄えた町であること		④東飾県・印旛県の県庁所在地であったこと	
⑤明治時代・大正時代の蔵がいまだ多く存在していること		⑥新選組ゆかりの町であること	
⑦小林一茶をはじめ多くの著名人ゆかりの町であること			
⑧町内に現存する蔵を飲食店やギャラリーとして活用する取組を行っていること			
⑨その他( )			
⑩どれも当てはまらない			

- 裏面へお進み下さい。 -



■調査項目

<アンケート裏面>

ここからは流山本町地区の観光についてお聞きします。	
<b>Q8</b>	<p>流山本町地区の観光振興において、強みだと思ふ点をお答えください。 (いくつでも○をして可) ※下記の事柄を知っている・知らないに関係なく、流山本町地区の観光振興における強みだとあなたが思ふ事柄についてお答えください。</p> <p>①江戸時代から明治時代にかけての歴史がある    ②白みりん発祥の町であること ③東飾県・印旛県の県庁所在地であったこと    ④明治時代・大正時代の蔵がまだまだ多く存在していること ⑤新選組ゆかりの町であること    ⑥小林一茶をはじめ多くの著名人ゆかりの町であること ⑦町内に現存する蔵を飲食店やギャラリーとして活用すると取組を行っていること ⑧都心から約2時間程度で訪れることが出来る点    ⑨日帰りで訪れることが出来る ⑩半日観光に適している    ⑪ローカル線(流山鉄道)がある ⑫その他( ) ⑬どれも当てはまらない</p>
<b>Q9</b>	<p>流山本町地区の観光振興において、課題だと思ふ点をお答えください。 (いくつでも○をして可)</p> <p>①駐車場が少ない    ②歩道の整備がされていない ③交通手段が少ない    ④飲食店や喫茶店など飲食したり休憩する場所が少ない ⑤みやげ店が少ない    ⑥全体的に店舗が少ない ⑦活気がない    ⑧情報発信が不足している ⑨みやげ物など「流山に来たらこれ!」といったものがない ⑩白みりんや新選組など様々な観光資源があるが、それらのことを知っている住民が少ない ⑪「どのような町なのか?」という明確なコンセプトがない ⑫その他( ) ⑬どれも当てはまらない</p>
<b>Q10</b>	<p>流山本町地区には多くの小路や通りがあります。 このような小路や通りに、観光振興の施策として愛称・呼称をつけることについてお答えください。(一つだけ○) ※白みりん発祥の町であることから「万上通り」や「天晴通り」といった愛称・呼称をつけるなど。</p> <p>①良いと思う    ②どちらとも言えない    ③良いと思わない</p>
<b>Q11</b>	<p>【Q10で③と回答した方のみお答えください】 「良いと思わない」理由について、お答え下さい。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>
<b>Q12</b>	<p>その他ご意見、ご感想等ありましたらご記入ください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px;"></div>
- アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。 -	

※訂正

Q8の選択肢⑧において「都心から約2時間程度で訪れることが出来る点」とありますが、正しくは「都心から約1時間程度で訪れることが出来る点」になります。

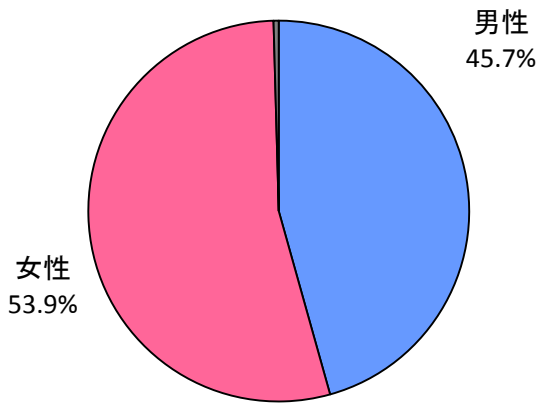
イ. 調査結果のまとめ

■回答者の特徴(性別・年齢)

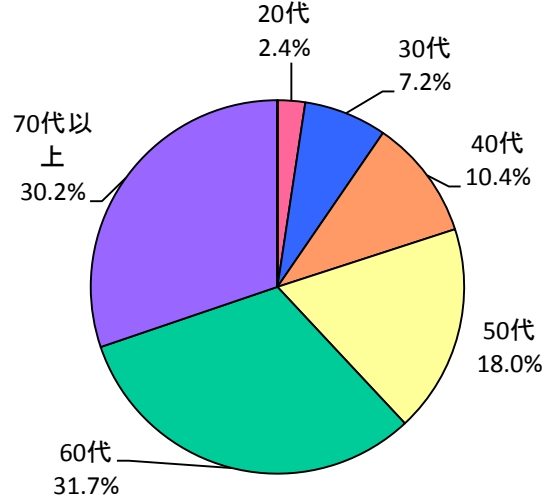
男女ともに60代・70代以上の回答者の割合が多い。

わずかではあるが、男女ともに20代・30代の回答者もいる。

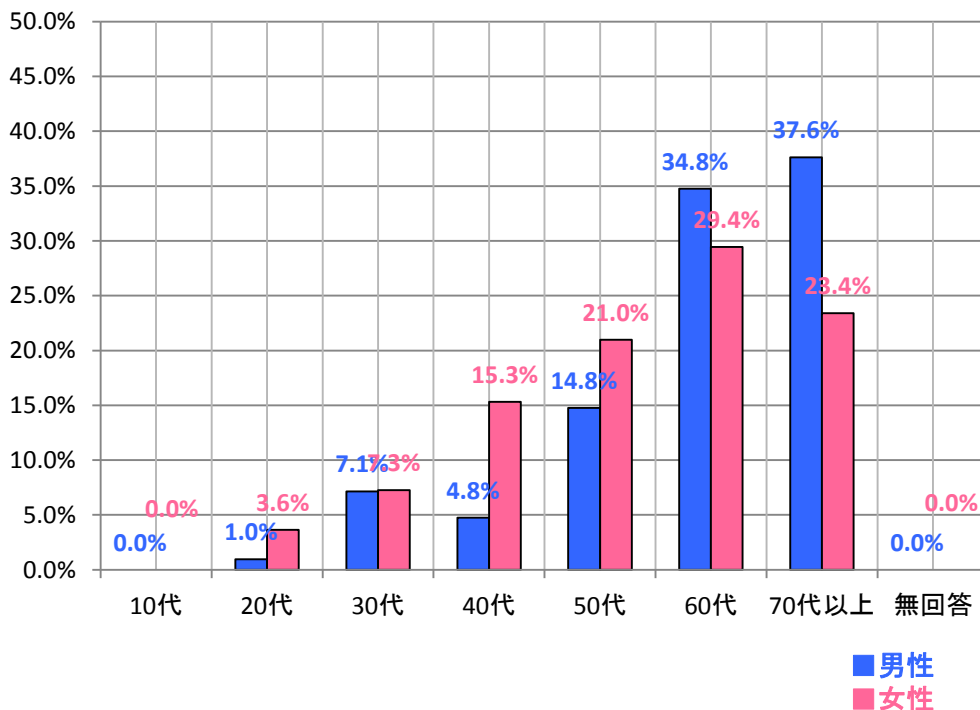
性別 (N=460)



年齢 (N=460)



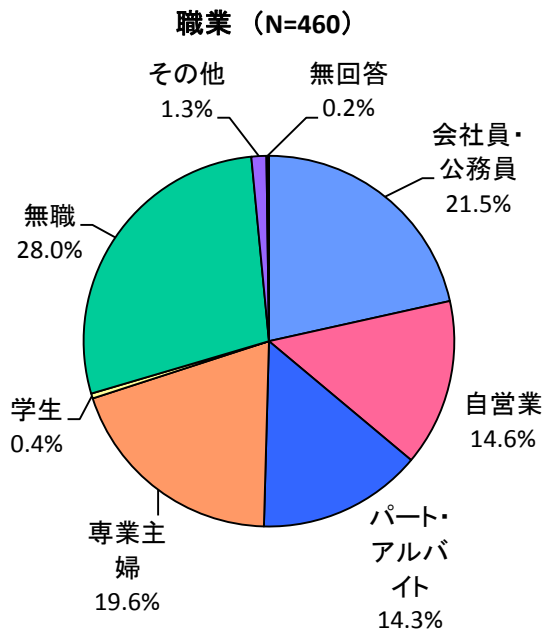
各年齢ごとの男女の割合



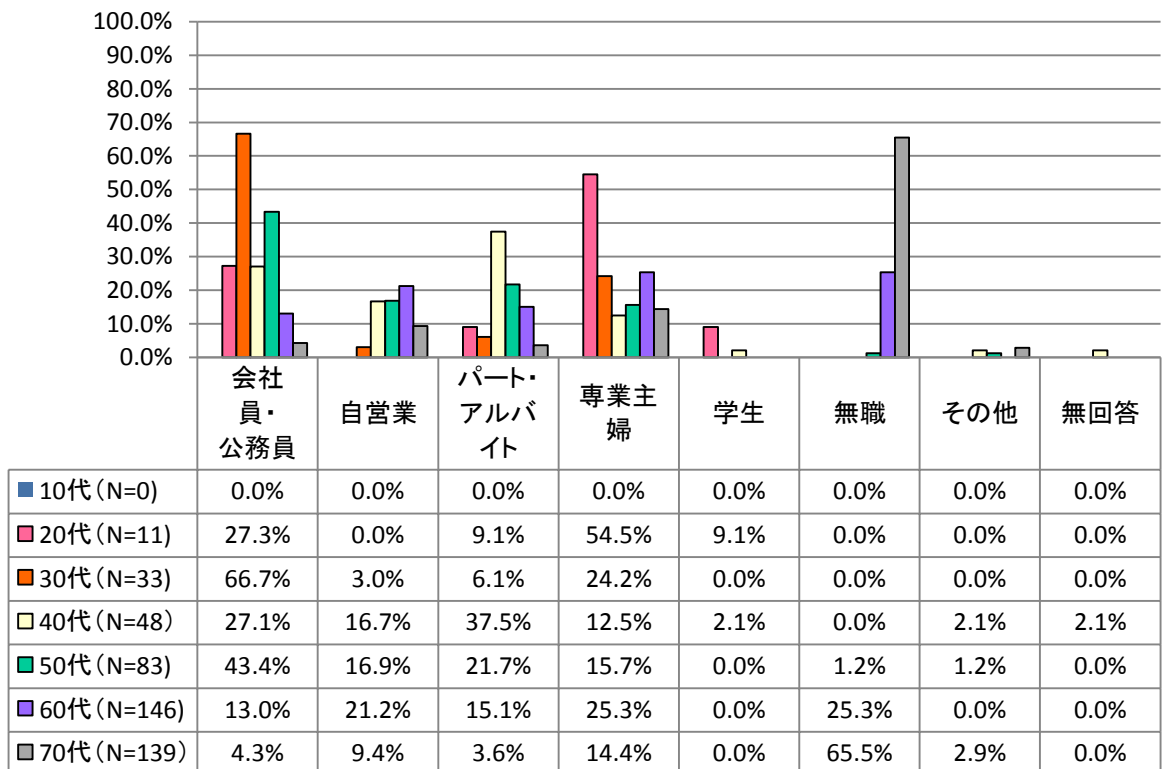
■回答者の特徴(職業)

「無職」が28.0%と最も高く、年齢別にみると50代・60代・70代以上になることからリタイアされた方からの回答率が高いことがわかる。

次いで、「会社員・公務員」が21.5%と高く、年齢別にみると30代の割合が最も高い。



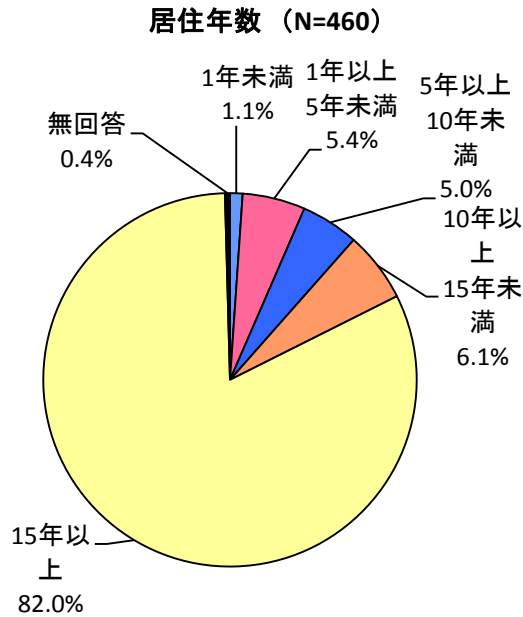
年齢別職業



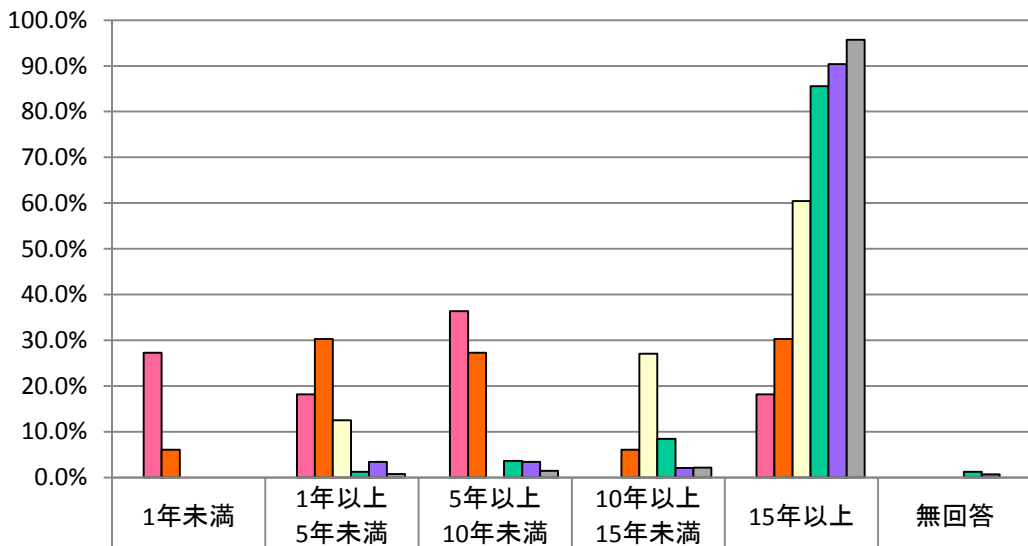
■回答者の特徴(居住年数)

15年以上が約8割と、長い間流山本町に居住している住民が多いことがわかる。

年齢別にみると、若い世代になるにつれ居住年数が短くなり、年齢が上がるにつれ居住年数も高くなっている。



年齢別居住年数



年齢	1年未満	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上15年未満	15年以上	無回答
10代 (N=0)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代 (N=11)	27.3%	18.2%	36.4%	0.0%	18.2%	0.0%
30代 (N=33)	6.1%	30.3%	27.3%	6.1%	30.3%	0.0%
40代 (N=48)	0.0%	12.5%	0.0%	27.1%	60.4%	0.0%
50代 (N=83)	0.0%	1.2%	3.6%	8.4%	85.5%	1.2%
60代 (N=146)	0.0%	3.4%	3.4%	2.1%	90.4%	0.7%
70代以上 (N=139)	0.0%	0.7%	1.4%	2.2%	95.7%	0.0%

■流山本町に対するイメージについて

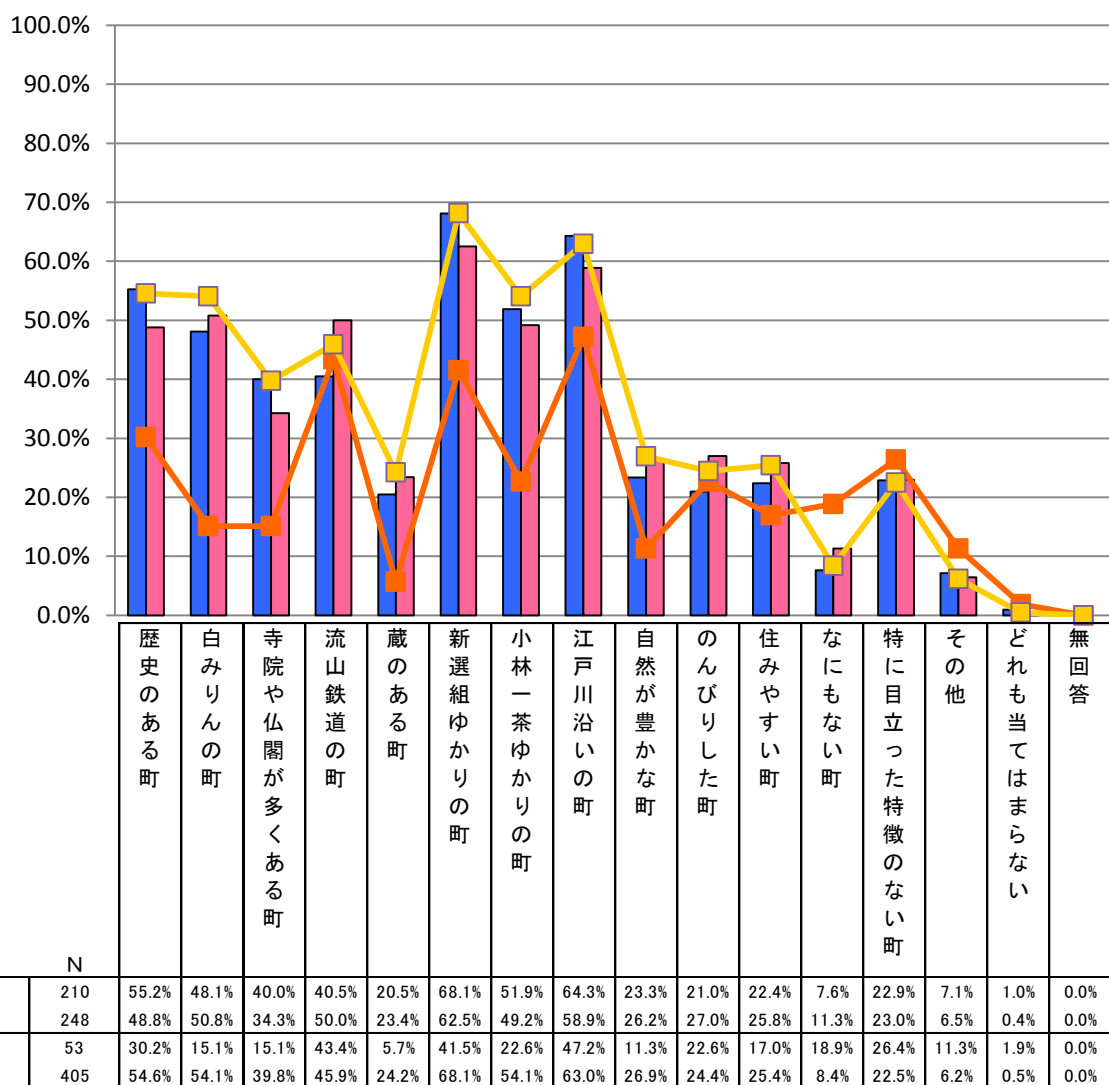
性別・居住年数別にみても、「新選組ゆかりの町」「江戸川沿いの町」「流山鉄道の町」のイメージが高い。

「白みりんの町」に対するイメージについては、男女別にみるとともに半数近くがイメージ項目として挙げているが、居住年数別にみると、10年以上が約半数以上となっているのに対して10年未満の住民においては15.1%と低い傾向にある。

また、「蔵のある町」というイメージ項目についても、居住年数が10年以上という住民に比べ、居住年数が10年未満という住民において低い項目となっている。

このように男女別で大きく異なる点は見られないが、居住年数によって流山本町に対するイメージが大きく異なっていることがわかる。

男女別のイメージ/居住年数別イメージ



■流山本町について知っていることについて

性別・居住年数別にみても「新選組ゆかりの町であること」が最も認知度合が高い。

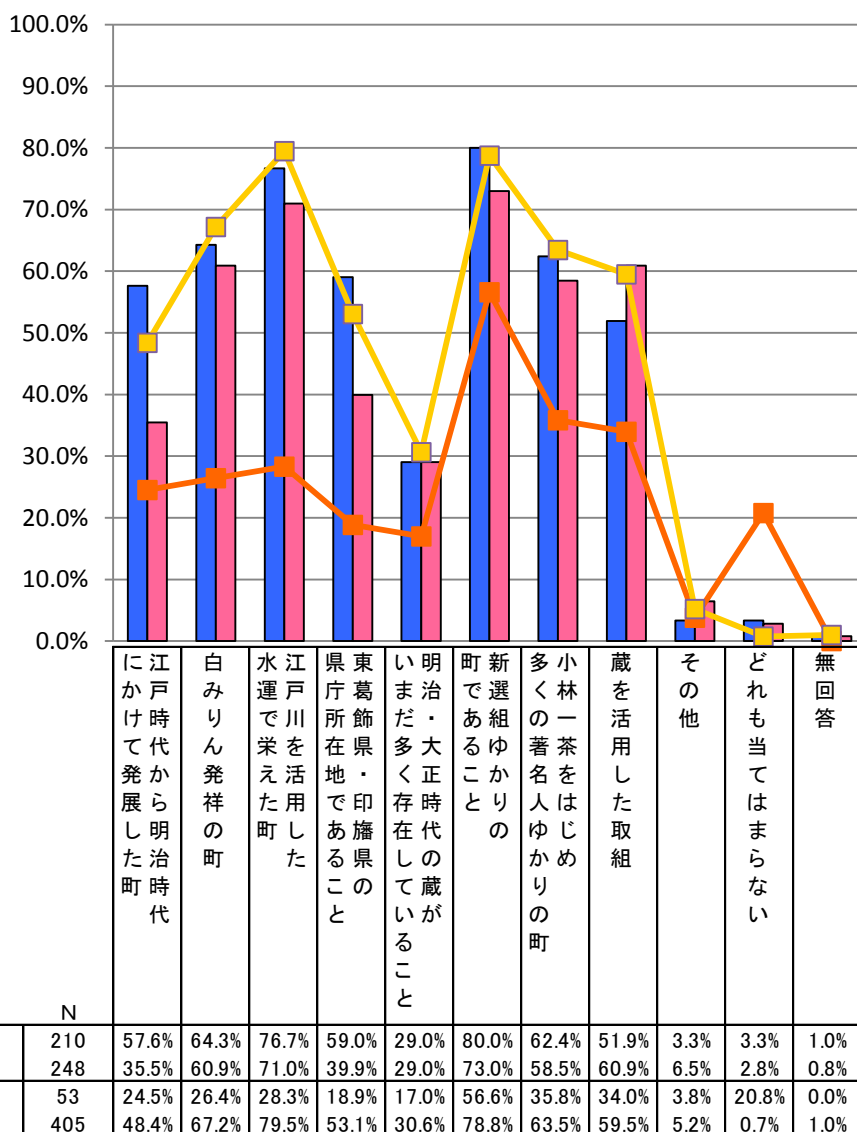
居住年数が短いほど各項目における認知度合が低くなる傾向にあり、20.8%が「どれも当てはまらない」と回答している。

また、「新選組ゆかりの町」「小林一茶をはじめとした著名人ゆかりの町」「蔵を活用した取組」など町内で関連したものを実際に目にすることが出来る事柄については認知度合が高い傾向にある。

一方で、町内で目にすることが出来ない事柄（流山本町の歴史や白みりんなど）については認知度合が低い。

「蔵を活用した取組」に対する認知度は両住民とも高いが、「明治・大正時代の蔵がいまだ多く存在していること」に対する認知度は両住民とも低くなる。この理由としては、町内に蔵があることに対しては認識をしているがその蔵が明治・大正時代のものであるということについては知らない人が多いことが考えられる。このように目に見えるものについては認知度が高いが、歴史や由来など目に見えないものに対する認知度は低く、住民の認知拡大を図っていく必要がある。

男女別の知っていること/居住年数別知っていること

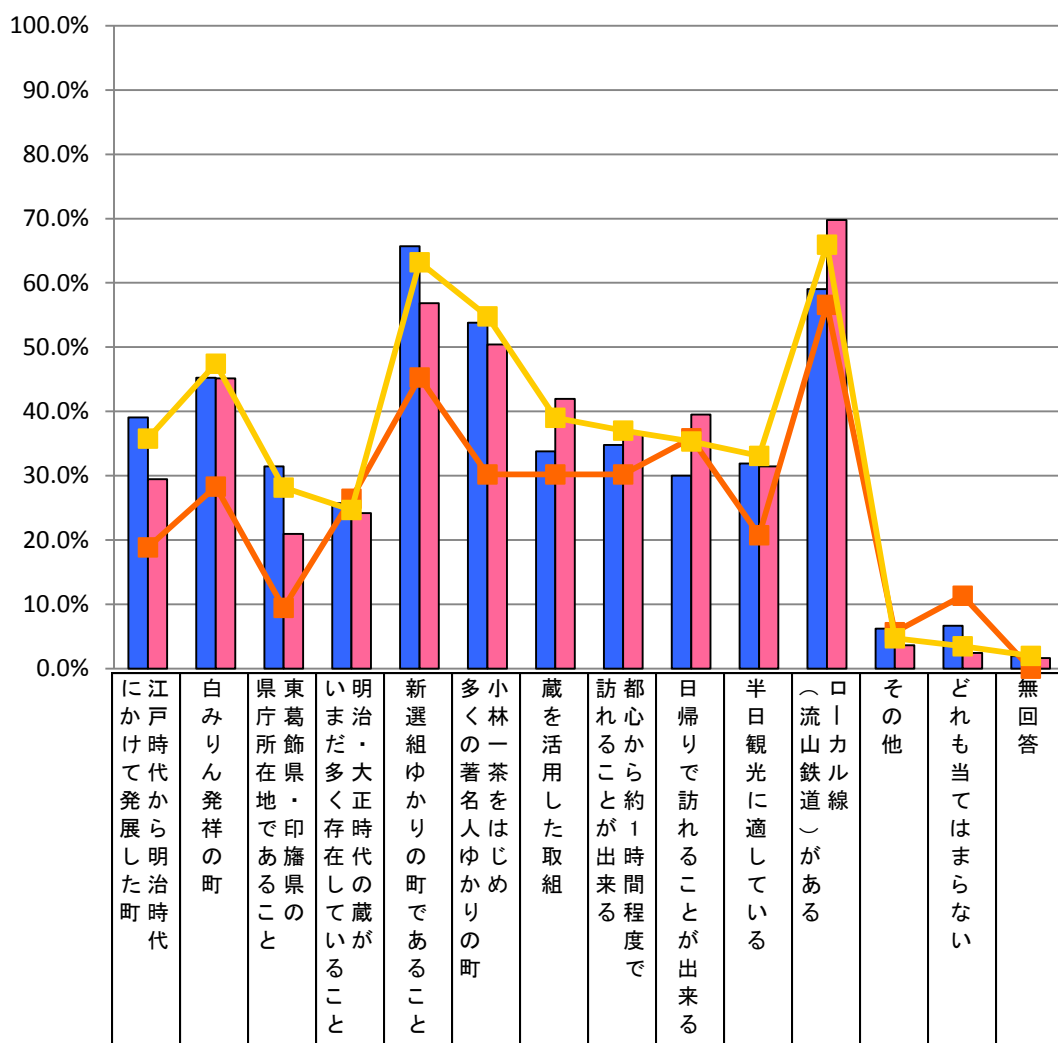


■流山本町地区の観光振興における強みについて

性別及び居住年数別にみても「ローカル線(流山鉄道)がある」ことが流山本町地区における強みとして最も高く、次いで「新選組ゆかりの町であること」が続く。

「白みりん発祥の町」については、居住年数が10年以上の住民においては約半数が強みとして挙げているが10年未満の住民については約3割以下と低い。この理由としては、流山本町が「白みりん発祥の町である」ということに対する認知度が低いことが挙げられる。まずは、流山本町内の歴史や町内に点在する様々な観光資源に対する認知度を高めるような取組を行っていく必要がある。

男女別の観光振興における強み/居住年数別観光振興における強み



N		男性	女性	10年未満	10年以上
性別		210	248	53	405
居住年数		39.0%	29.4%	18.9%	35.8%
		45.2%	45.2%	28.3%	47.4%
		31.4%	21.0%	9.4%	28.1%
		25.7%	24.2%	26.4%	24.7%
		65.7%	56.9%	45.3%	63.2%
		53.8%	50.4%	30.2%	54.8%
		33.8%	41.9%	30.2%	39.0%
		34.8%	36.7%	30.2%	37.0%
		30.0%	39.5%	35.8%	35.3%
		31.9%	31.5%	20.8%	33.1%
		59.0%	69.8%	56.6%	65.9%
		6.2%	3.6%	5.7%	4.7%
		6.7%	2.4%	11.3%	3.5%
		1.9%	1.6%	0.0%	2.0%

■流山本町地区の観光振興における課題について

性別・居住年数別にみても「全体的に店舗が少ない」ことが流山本町の観光振興における課題として最も高い。

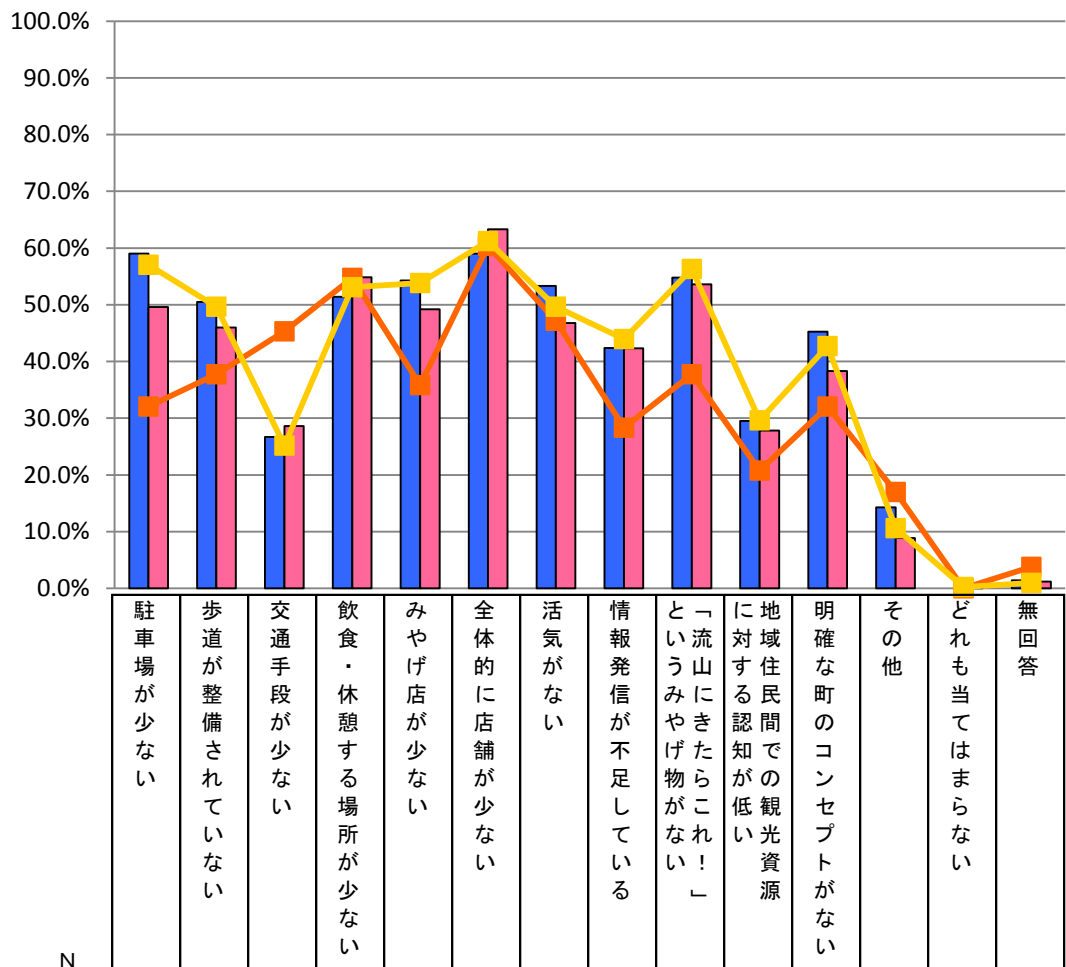
また、「飲食・休憩をする場所が少ない」という点についても、性別・居住年数別にみても高い項目として上がっている。このように、インフラ面における事柄が観光振興における重要課題として挙げられる。

その他のハード面については、「駐車場が少ない」「歩道が整備されていない」といった事柄が居住年数10年以上の住民においては約半数が課題として挙げているのに対して、居住年数が10年未満の住民においては約4割以下と少なく、居住年数によって認識が異なることがわかる。

どの項目においても、居住年数が10年以上の住民のほうが高いのに対して、「交通手段が少ない」という事柄については居住年数10年未満の住民において約5割が挙げている。

ソフト面については、「『流山にきたらこれ！』というみやげ物がない」が居住年数10年以上の住民において約6割と高い項目として挙げられている。流山本町全体でみやげ物の商品開発に取組むことによって、両住民の約半数以上が課題として挙げている「活気がない」ことに対する解決策となる可能性もある。

男女別の観光振興における課題/居住年数別の観光振興における課題



		N	駐車場が少ない	歩道が整備されていない	交通手段が少ない	飲食・休憩する場所が少ない	みやげ店が少ない	全体的に店舗が少ない	活気がない	情報発信が不足している	一流山にきたらこれ！というみやげ物がない	地域住民間の観光資源に対する認知が低い	明確な町のコンセプトがない	その他	どれも当てはまらない	無回答
性別	男性	210	59.0%	50.5%	26.7%	51.4%	54.3%	59.0%	53.3%	42.4%	54.8%	29.5%	45.2%	14.3%	0.0%	1.4%
	女性	248	49.6%	46.0%	28.6%	54.8%	49.2%	63.3%	46.8%	42.3%	53.6%	27.8%	38.3%	8.9%	0.4%	1.2%
居住年数	10年未満	53	32.1%	37.7%	45.3%	54.7%	35.8%	60.4%	47.2%	28.3%	37.7%	20.8%	32.1%	17.0%	0.0%	3.8%
	10年以上	405	57.0%	49.6%	25.2%	53.1%	53.8%	61.2%	49.6%	44.0%	56.3%	29.6%	42.7%	10.6%	0.2%	1.0%



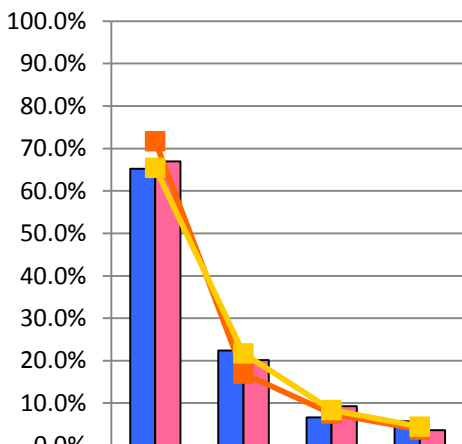
■小路や通りに愛称や呼称をつけることについて

性別・居住年数別にみても「良いと思う」が最も高い。

しかし、「良いと思わない」と回答している住民がそれぞれ約1割いる。

「良いと思わない」理由としては、主に「誰もが納得する名称がない」「観光振興につながると思わない」「新しく名前を付けるのではなく昔ながらの名称にするべき」「地域の住民に浸透しない/地域に根付かない」といった理由が挙げられている。また、市民や企業から広く公募を行うべきなど、名称のつけ方に対する意見もみられた。

男女別の評価/居住年数別の評価



		N	良いと思う	どちらとも言えない	良いと思わない	無回答
性別	男性	210	65.2%	22.4%	6.7%	5.7%
	女性	248	66.9%	20.2%	9.3%	3.6%
居住年数	10年未満	53	71.7%	17.0%	7.5%	3.8%
	10年以上	405	65.4%	21.7%	8.4%	4.4%

「良いと思わない」理由

居住年数10年以上の住民における理由
地元をみの盛り上がりで終わりそうで、観光スポットにはならないと思う
呼称を付けた所でそれが地域や観光客に浸透するとは思わない
観光化した町ではなくて、ありのままの落ち着いた町を見ていただければよいと思うので
多くの人がそうだと思う名がない
必要と思わない
すでに万上や三楽は存在の影がうすい。特徴的な建造物などもない
うけそうにない
「通りとつけるからには店がもっと発展していないと・・・
観光振興したいためだけに通りの名前を変えるのはどうでしょうか！市民からのコラボとかでかえたりするのはみんなにわかってよいのでは・・・！！
住民にとっては迷惑なこと。道を聞かれても把握できていないと教えることができなくなるのではないかと
大きな通りだけで良いと思う。分かりづらいし、マナーの悪い方が(ゴミやたばこの吸いがらなど)今もみられるし、防犯上の問題があるので、人が多いと困る。カメラなど整備が必要になる。
昔ながらの小路に今さら名前をつけるなんて本末転倒。
昔からあるならいいが、観光のためにつけるのはおかしい。地域の昔からの呼び名すら残さないのに通りの名前はつけるのか？
昔から使われている呼称なら構わないが、観光のために新たにつけることには反対である
名前をつけても観光振興につながらないと思うので
新興住宅地ではないのに、改めて呼称、愛称をつける必要はないと思う。つけたら以前からある 閻魔堂横丁、ハッ橋横丁といったものや旧町名、根郷・宿・加村岸といったものを復活した方が地元の人にもなじみよいのではないかと
今はみりんも名を残しているが、小路も特別な呼称等付ける事は必要ないと思います
愛称を付けるたとえば万上通りとしても工場も移転もしたりしているので発祥の町といっても意味がないと思う
会社の名前を入れるのはどうかと思う
住民に根付いた名前が良い
過去どの程度栄えたか分からないし現在のイメージとは合わない様な気がする
センスに欠ける
新しい名前より昔からの●を理解してもらう方がbetter

居住年数10年未満の住民における理由
・ピンとこない
・名前を付ける前に、どういう場所なのか等そういうのが先かと
とってつけたような名前は、地域の人たちに浸透しないのでは？「万上通りはどこですか？」と訊かれて地元の人が「知りません」では意味がないのではないのでしょうか？
小路多すぎる。ややこしくなる。

※アンケート用紙に記入された回答で、読み取れない文字については「●」と記載。



## 3 食の活用調査分析

---

- (1) 流山本町内飲食店を対象とした白みりん利用動向調査
- (2) みりん利用促進冊子の制作

## 3. 食の活用調査分析（1）流山本町内飲食店を対象とした白みりん利用動向調査

## ア. 実施概要

## ■調査目的

流山本町内飲食店を対象に、白みりんが流山市発祥の地であること、白みりん使用頻度や白みりんを使ったメニューなど白みりんの利用に関するヒアリング調査を実施。

流山本町内における白みりんの利用動向を明らかにすることによって、流山市民への利用促進・一般家庭での浸透を図る為の施策の参考とする。

## ■調査方法

1対1のヒアリング調査によって実施。

## ■調査対象者

## 【調査対象者の選定方法】

流山本町内及び周辺で営業する飲食店で、白みりんを日常的に使用しているだろうと考えられる飲食店を選定。選定した飲食店に、調査協力依頼を行い、承諾を頂けた飲食店へ調査を実施。

## 【調査対象者リスト】

件数	店名	場所	店舗概要
1	京料理かねき	流山市流山5-19-4	<ul style="list-style-type: none"> <li>もとは江戸川の船宿として創業、その後食堂へ移行し、約15年前に京都料理に転向。</li> <li>京都料理を提供している為、基本的には京野菜が中心となっているが、「地産地消」を心がけ、地元でその時期ならではの採れる野菜も使用している。</li> </ul>
2	日本料理柳家	流山市流山1-252	<ul style="list-style-type: none"> <li>大正6年より創業。</li> <li>今年で95年を迎える流山本町における老舗。</li> <li>創業当時は、旅館業を営み「小島屋」という名前で営業していた。</li> <li>昭和33年まで旅館を営み、現在に至る。</li> <li>うなぎをはじめふぐ料理など、季節に合わせた料理を提供。</li> </ul>
3	江戸屋うなぎ店	流山市加6-1329	<ul style="list-style-type: none"> <li>創業60年のうなぎ屋。</li> <li>店で提供するうなぎの特徴としては、味が濃く、大きく、お重ではなく大きな丼で提供するところが特徴である。</li> <li>また、うなぎは蒸すと水っぽくなるので蒸さずに調理をしている。</li> <li>タレは自家製のタレを使用。</li> </ul>
4	丁字屋	流山市流山1-5	<ul style="list-style-type: none"> <li>2012年の4月オープン。</li> <li>築80年の蔵で営業するイタリアンレストラン。</li> <li>コンセプトは「意外性」。</li> </ul>
5	無名庵	流山市加6-1611	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご主人が趣味で25年間そば打ちをしており、会社を早期退職後、妻の出身地である流山でそば屋を開店。</li> <li>そば打ち教室も行っている。</li> </ul>
6	名登利	流山市流山2-295	<ul style="list-style-type: none"> <li>創業25年の寿司屋。</li> <li>そのおいしさとリーズナブルという点で地元をはじめ、市外の人に人気の寿司屋。</li> </ul>

## ■調査実施日

各店舗以下の日程でヒアリング調査を行った。

件数	店名	日程
1	京料理かねき	2012年11月27日(火)
2	日本料理柳家	2012年11月27日(火)
3	江戸屋うなぎ店	2012年11月27日(火)
4	丁字屋	2012年11月30日(金)
5	無名庵	2012年12月6日(木)
6	名登利	2012年12月6日(木)

## ■ヒアリング項目

### ①調査対象者について

- ・創業年
- ・これまでの経緯
- ・利用者の傾向
- ・店舗の特徴

### ②白みりんの認知度合いについて

- ・流山本町が白みりん発祥の地であることを知っているか？
- ・流山本町と白みりんの歴史、関係についてどのようなことを知っているか？
- ・「白みりんの町」ということに対する意見、評価

### ③流山の食文化について

- ・流山本町における昔と現在の食文化の特徴、違いについて
- ・流山本町ならではの食文化について(郷土料理などの有無)

### ⑤白みりん利用状況について

- ・白みりん利用頻度及びその理由
- ・白みりんの魅力、長所、特徴及びその理由
- ・白みりんの短所、及びその理由

### ⑥白みりんを活用したメニューについて

- ・白みりんの利用促進につながるメニューについて
- ・白みりに合うメニューについて

## 3. 食の活用調査分析 (1) 流山本町内飲食店を対象とした白みりん利用動向調査

## イ. 調査結果まとめ

## ■ 白みりんに対する認知度合について

流山本町が「白みりん発祥の地」であることを知っており、流山本町の江戸時代からこれまでに至る歴史について知っていた飲食店は、6店舗中2店舗であった。「白みりん」と深い関係があることは知っていたが発祥の地であることまでは知らなかった」という店舗は2店舗になる。このように流山本町と白みりんの関係について詳しくは知らないがなにか縁があるということは知っているという飲食店も流山本町内及び界隈に存在していることが明らかになった。

また、反対に流山で20年以上営業・流山で生まれ・育ったという人でも「白みりん発祥の地」であること「白みりん」とゆかりのある町であることを知らなかったという飲食店も見られた。

今回の調査で、流山本町内・界隈で長年営業している飲食店でも流山本町における白みりんの歴史・関係について認知されていないことが明らかになった。流山本町内・界隈における飲食店、特にみりんの使用頻度が高いと考えられる飲食店への認知・理解拡大が必要であると考えられる。

<調査対象店ごとの白みりんに対する認知度合>

店名	「白みりん発祥の地」であることに対する認知度合い	流山本町における営業／居住年数
京料理かねき	○	・江戸時代から営業
日本料理柳家	○	・江戸時代から営業 ・調査対象者は生まれも育ちも流山市。
江戸屋うなぎ店	×	・創業60年 ・調査対象者は生まれも育ちも流山市。
丁字屋	△ (白みりんとは縁が深い町であることは知っていたが「発祥の地」であることは知らなかった)	・2012年4月より営業。 ・調査対象者は長野出身で現在は柏市に在住。
無名庵	△ (「白みりんの町」ということは知っていたが「発祥の地」であることは知らなかった)	・2004年5月より営業。 ・調査対象者である店主は野田市出身、店主の妻が流山市出身。
名登利	×	・創業25年。 ・調査対象者は茨城県出身。

### 3. 食の活用調査分析 (1)流山本町内飲食店を対象とした白みりん利用動向調査

#### ■白みりんの特徴(魅力・長所など)

白みりんの特徴について、各調査対象店から行ったヒアリングをまとめてみたところ、以下の4つの特徴に分類することが出来た。

- 特徴① 味を引き立て・奥行きを出す
  - ・食材そのものだけでなく、他の調味料の味を引き立てる効果がある。
  - ・一滴入れるだけで、味が広がり料理の味に奥行きが出る。
  - ・他調味料と比べ、色を変えずに味を引き立てることが出来る。
- 特徴② 甘味を加える調味料
  - ・甘味を加える調味料として最適。
  - ・砂糖に比べ、上品な甘みを付けることが出来る。
  - ※料理が冷めると甘味は一層強くなる特徴もある。
- 特徴③ 照りを出すための調味料
  - ・「照りだし」には欠かせない調味料。
  - ・味だけでなく、見た目でも料理のおいしさを引き立てる特徴を持っている。
- 特徴④ 使いやすい調味料
  - ・液体であるため使いやすい。
  - ※料理初心者でも簡単に料理に甘味を加えやすい。
  - ・粉末状である砂糖と比べ扱いやすい甘味調味料。
  - ※砂糖の場合、溶けるのに時間がかかる上に味にムラが出る傾向が強い。

<白みりんの特徴を表す4つの特徴>



上記以外の特徴として、全国味淋協会によると以下のような特徴もあるとされている。

- 特徴⑤ 煮崩れを防止
  - ・本みりに含まれる砂糖とアルコールが素材の煮崩れを防ぐ。
  - ・見た目が美しいだけでなく食材の旨み成分を外に逃さないとされている。
- 特徴⑥ 消臭効果
  - ・熱が加わると、素材にしみ込んだアルコールが蒸発し、アルコールとともに魚や肉の臭みを抜く作用があるとされている。

<その他の特徴>

※全国味淋協会HP「honmirin」の「本みりんの知識」(URL: <http://www.honmirin.org/page/info.html>より参照)



このような特徴を、一般家庭(特に外食・中食の頻度が多い家庭)の主婦に積極的に発信し、知ってもらうことによって白みりんの利用促進が図られると考えられる。

## 3. 食の活用調査分析（1）流山本町内飲食店を対象とした白みりん利用動向調査

## ■家庭での利用促進を図るための施策について

一般家庭での白みりんの利用促進を図るための施策について、各調査対象店より以下のような回答を得ることが出来た。

現在、白みりんが家庭であまり利用されない理由として、食生活の変化が大きく挙げられる。外食やスーパーをはじめ惣菜店などで惣菜やその日のおかずを購入する主婦が増えており、自宅で料理をする家庭が少なくなっている。また、調理のむずかしさといった点から煮物などをはじめとした和食を作る家庭も減少している。こうした社会的な背景が大きな理由として挙げられ、食生活における意識改革が必要であるという回答が多くみられた。

また、白みりんの特徴である「味を引き立てる」「使いやすさ」といった点をアピールするとともに、簡単に作れるレシピの紹介を行うことによって利用促進を図れるのではないかという回答も見られた。

店名	家庭での利用促進を図るための施策
京料理かねぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・味を引き立てることをPRしたほうが良いと思う。</li> <li>・「いつもの料理にひとかくし！」とPRしていくと良いと思う。</li> <li>・白みりん発祥の地として、みりんは、「流山のシンボル」であると思う。</li> </ul>
日本料理柳家	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の奥様が、みりんの意識があれば、使っていると思う。</li> <li>・みりんは、可能性のある調味料であると思うので、使い方次第で変わる。</li> <li>・和・洋・中と、料理のジャンルが今は入り乱れてきているので、アレンジしても良いと思う。</li> <li>・色をつけない甘さがあり、みりんを増やすと甘みが増す。</li> <li>・みりんではなくては出せない味、テリがあると思う。</li> <li>・仮に、みりんを使用しなくても、親から言葉にして伝えていく必要があると思う。</li> </ul>
江戸屋うなぎ店	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レシピ本があると自宅で作ることもあるかも知れません。</li> <li>・自宅では、煮物に使用しています。</li> <li>・白みりんは、スーパーでは売っていない。</li> </ul>
丁字屋	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和食で使用するのは、アバウトに入れても全体の味をまとめてくれる。</li> <li>・また、主張しすぎず、みりんは「適材適所」と思う。</li> <li>・みりんの良い点は、主張がない分、他の素材の邪魔をしないと思う。</li> <li>・和食に使用するのは、甘み・うまみをだしに適していると思う。</li> <li>・あえて、みりんを使用する理由は、うまみを出すため日本では煮物、イタリアンでは、ミートソースが合うと思う。</li> </ul>
無名庵	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭で親が料理をする際に、みりんを使っているのを見て、テリが出るとか、煮物の最後に入れるなどを知る。</li> <li>・みりんをあまり使わない人へ勧めるには、無理があると思う。</li> <li>・最近では、生ゴミよりプラスチックのごみの方が増えており、手づくり料理をしなくなったのではないかと感じる。</li> </ul>
名登利	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みりんは、テリ、甘みを出してくれる煮魚に使うと違いが出てくる。</li> <li>・酒の役割は、少しテリは出るが、材料をやわらかくして生臭みをとる。</li> <li>・酒が苦手な方は、酒とみりんを半々に入れる。</li> <li>・主婦の方に、みりんを使って頂くには、「出し巻き卵」がふっくら仕上がって良いと思う。卵の光沢、ツヤがでる。</li> </ul>



## 3 食の活用調査分析

---

- (1) 流山本町内飲食店を対象とした白みりん利用動向調査
- (2) **みりん利用促進冊子の制作**



## ア. 実施概要

### ■実施目的

「(2)の①流山本町内飲食店を対象とした白みりん利用動向調査」を参考に、白みりんの認知拡大・利用促進を目的としたみりん利用促進冊子を作成。

流山本町における白みりん発祥の歴史とこれまでの歩みを市民に分かりやすく伝えるとともに、白みりんを使った簡単レシピを紹介することによって、白みりんの魅力を流山市民をはじめ一般家庭での浸透・利用拡大を目指す。

## イ. みりん利用促進冊子の作成

### ■表紙



白みりんが誕生した江戸時代をイメージした背景デザイン。

家庭での利用促進を図るために、主婦が喜ぶレシピがついていることを分かりやすく訴求するために表紙に「本格みりんレシピ付」というコメントを記載。

■P1~P2



■P3~P4



流山本町における白みりん誕生・これまでの歩みなどを分かりやすく簡単に紹介。



3. 食の活用調査分析 (2) みりん利用促進冊子の制作

■P8~P10

**ぶらり流山**  
**みりんグルメ**  
**探訪**

みりんの美味しさを知って頂くためには、やっぱり実際に食べて頂くのが一番! 街の飲食店もかねて、お茶やお食事に出かけてみては?

流山本町活性化マーケティング調査事業(株) 制作

**日本料理 柳家**

みりんの美味しさを知って頂くためには、やっぱり実際に食べて頂くのが一番! 街の飲食店もかねて、お茶やお食事に出かけてみては?

**かわき**

みりんの美味しさを知って頂くためには、やっぱり実際に食べて頂くのが一番! 街の飲食店もかねて、お茶やお食事に出かけてみては?

流山本町内で白みりんを使ったメニューを楽しめる飲食店を紹介。  
流山本町が白みりんの町であるということをも市外へ認知させるとともに浸透を目指す。

■P11~13

**みりん×カレー**

349 kcal

**みりん×レシピ**

プロが教える  
みりんを使った本格料理  
MIRIN RECIPE

さあ、あなたもみりんを使ってLet's Cooking!  
こんなに楽しくて手軽なら、  
あっという間にお料理上手の仲間入り♥

**ポイント**

野菜や豆類とはみりんの旨味は、油と一緒に馴染んで馴染みやすいです。みりんは加熱しすぎると旨味も減るので、加熱しすぎないようにしてください。

■P13~P14

### みりん × プリン



**103 kcal**

**健康ヘルシー  
みりんプリン**

**材料(2人分)**

豆乳(無糖)	1丁
みりん	大匙2
みそ	小匙2
パルメザンチーズ	適量

(トッピング)  
みりん 適量

**作り方**

- ①オーブンを200℃に温める。プリンに豆乳、みりん、みそを入れ、混ぜて混ぜ合わせる。(フードプロセッサーにかけてもよい)
- ②パルメザンチーズを加え、全体をひとまぜする。
- ③シリコンカップに入れ、裏面にみりんをかける。
- ④オーブンを15分〜20分焼く。

**Point!**

みりんも砂糖も発酵食品の仲間。糖質がまろし〜減っています。酸味も出てお通じもよくなります。みりんは甘みだけでなく、みりんも甘みも減っています。みりんも減ります。

### みりん × レンコン



**74 kcal**

**ノンオイル  
じゃきじゃきれんこんボール**

**材料(2人分)**

水揚げ豆腐	1丁
れんこん	80g
塩	ひとつまみ
にんにく	1かけ
しょうが	1かけ

**A**

みりん	大匙2
しょうゆ	大匙1
茶	1/2カップ
片栗粉	大匙1

**作り方**

- ①水揚げ豆腐を水切りする。にんにく、しょうがをすりおろす。れんこんの半分をすりおろし、キッチンペーパーで水分をしぼる。半分を混ぜる。
- ②オーブンを200℃に温める。豆腐にすりおろした豆腐、すりおろしたれんこん、しょうゆ、茶、片栗粉を加え、全体を練り混ぜる。適量の水をききとめる。
- ③200℃のオーブンを9〜10分で焼く。
- ④しょうゆ、みりん、茶、片栗粉を加えて、混ぜながら焼く。とろみがつくまで焼く。
- ⑤最後に豆のせ、目をあつぷりとかける。

**Point!**

この料理は低糖質です。そしてみりんも減ります。みりんも減ります。みりんも減ります。みりんも減ります。みりんも減ります。

若いファミリー層が増加傾向にある流山市。  
若い主婦をはじめ、料理が苦手な人でも簡単に作れるみりんを使ったレシピを紹介することで家庭での利用促進を目指す。

■裏表紙

井崎市長の「白みりんのすすめ」動画をご覧ください。



写真が動きだす!

スマートフォンやタブレットでAR(拡張現実)をご体験ください。

※iPhone, Androidは別途対応

無料ARアプリの「viewflow」を起動した上で写真にカメラをかざすと井崎市長が動く「白みりんのすすめ」動画を鑑賞いただけます。



無料ARアプリ「viewflow」でトリック画像をかざすとメニューが現れます。WEB, App Store, Google Play Storeで検索しダウンロードしてください。

※対応プラットフォーム: iOS Ver.4.0以上、Android Ver.2.0以上  
※一部端末では動作しない場合があります。  
※対応OS: Android Ver.4.0以上  
※本アプリのダウンロードおよびご利用には別途通信料がかかります。お客さまのご負担となります。  
※本アプリは「viewflow」のダウンロードや本アプリが正常に動作しないことにより保証はできません。  
※Android/Google Play/Apple Store/Google Play Storeの検索結果は検索結果です。  
※iPhone App Store/Google Play Storeは、検索結果よりお客さまの端末にインストールされたアプリの検索結果は検索結果です。

制作: 流山市役所産業振興課 企画 2017年2月 流山市平野台4-1 TEL: 04-7150-8085  
流山観光ウェブアプリ URL: <http://www.kanko-nagareyama.jp/>  
協力: 白磁製印刷所、流山市立博物館

流山本町が白みりんの町であることを広めるために、市長による「白みりんのすすめ」をAR(拡張現実)にて紹介。



## 4 観光ガイド育成調査

---

- (1) まち歩き参加者へのアンケート調査
- (2) 観光ガイドにおける先進事例調査



4. 観光ガイド育成調査（1）まち歩き参加者へのアンケート調査

■ 調査項目

<アンケート裏面>

<b>Q10</b> 「流山史跡ガイドツアー」への参加理由についてお答えください。 (最も当てはまるもの1つだけ○)	
①「史跡ガイドツアー」や「まち歩き」に参加するのが好きだから参加した。 ②流山本町について関心・興味があり、「流山史跡ガイドツアー」があることを知り参加した。 ③知人や口コミなどで、流山本町の「流山史跡ガイドツアー」が面白いと知り参加した。 ④自治会・老人会やサークル等で企画したツアーに「流山史跡ガイドツアー」が入っていた。 ⑤仕事、大学のゼミ・研究室やボランティア活動の視察・研修の一環として参加した。 ⑥その他( )	
ここから先は今回、参加した「流山本町史跡ガイドツアー」に対する評価についてお聞きします。	
<b>Q11</b> 今回参加した「流山本町史跡ガイドツアー」の所要時間についてお答えください。	
A. 合計所要時間:	約( )時間
B. 所要時間への評価: (1つだけ○)	①とても長い                      ②やや長い                      ③ちょうど良い ④やや短い                      ⑤とても短い
<b>Q12</b> 今回参加した「流山本町史跡ガイドツアー」の内容についてお答えください。	
A. 全体的な評価:	①良かった                      ②どちらとも言えない                      ③あまり良くなかった
B. 良かった点:	(コース内でよかったポイント・スポットなどをお答えください。)
C. 意見・感想:	(コースの内容についてお気づきの点・ご意見等ありましたらご記入ください)
<b>Q13</b> ガイドについてお答えください。	
A. ガイドの説明について:	①とてもわかりやすかった                      ②どちらとも言えない                      ③わかりにくかった
B. ガイドのおもてなしについて:	①良かった                      ②どちらとも言えない                      ③あまり良くなかった
<b>Q14</b> 「流山本町史跡ガイドツアー」への次回参加意向についてお答えください。(1つだけ○)	
①また参加したいと思う                      ②特に機会がなければ参加してみようとは思わない                      ③参加したいとは思わない	
<b>Q15</b> Q14の回答の理由についてお答えください。	
<b>Q16</b> その他ご意見、ご感想等ありましたらご記入ください。	
- アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。 -	



## イ. 調査結果まとめ

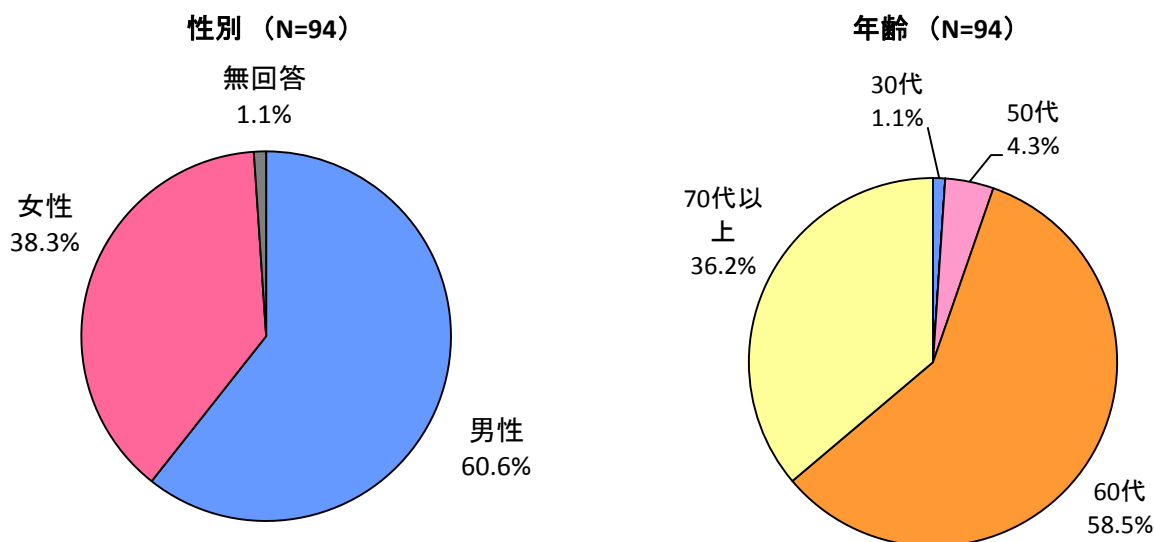
### ■参加者における特徴

男性が60.6%、女性が38.3%と男性の参加率が高い。

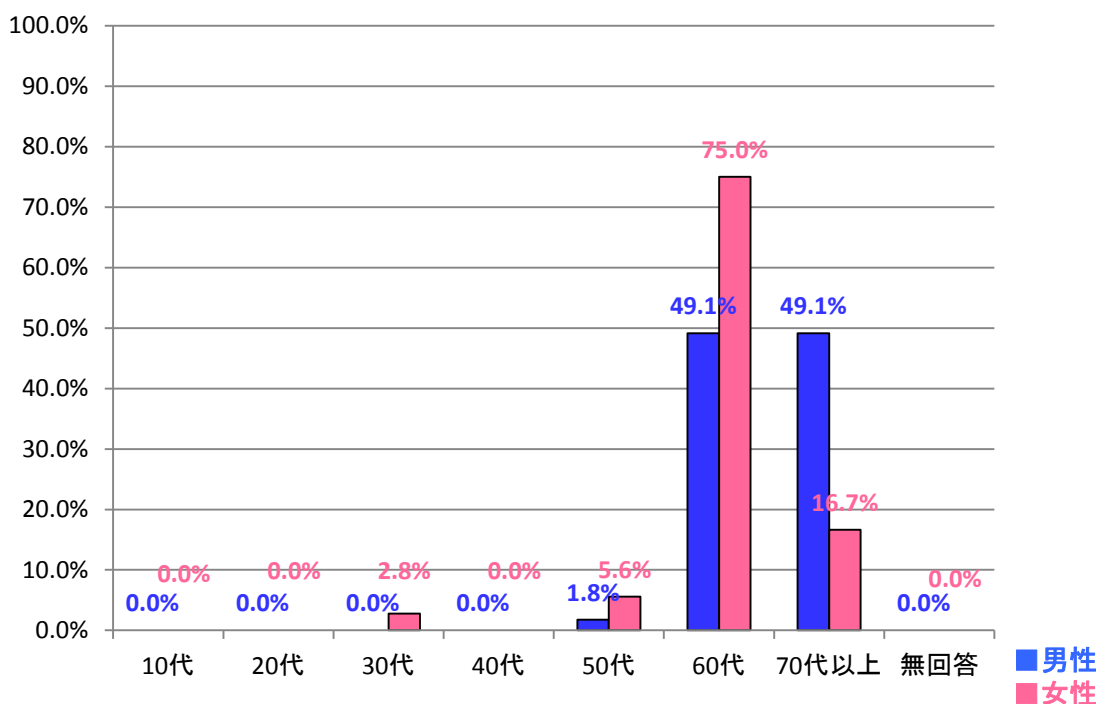
全体的には60代の参加率が最も高く、10代・20代の参加者はいない。

各年齢ごとの男女の割合でも、男女ともに60代・70代以上が圧倒的な割合を占めている。

わずかではあるが、女性においては30代の参加者がいることがわかる。



各年齢ごとの男女の割合



■参加者における特徴

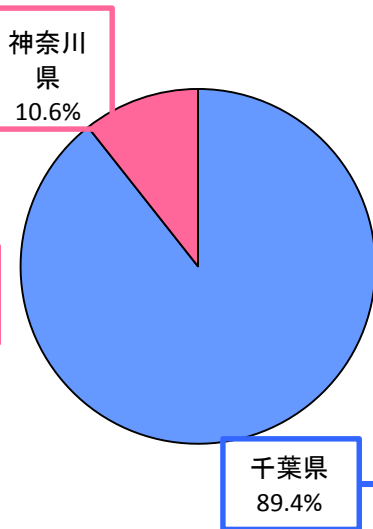
約9割が千葉県内で、流山市の近隣市区町村からの参加者が多い。

流山市内に居住している人については約3割と、2番目に大きい割合を占めている。

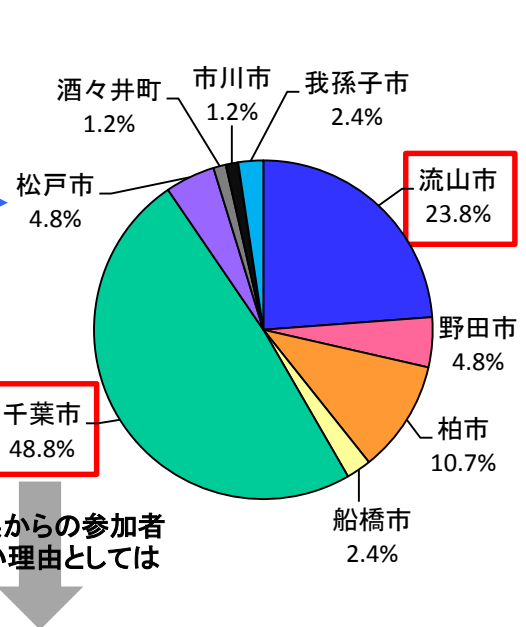
千葉市からの参加者数が多い理由としては、「千葉市ことぶき大学校」からの参加者が多いためである。

神奈川県藤沢市からの参加者についても、千葉市同様、生涯学習系の団体・ネットワークからの参加者が見られる。

居住地/都道府県 (N=94)



千葉県における市区町村別の割合 (N=84)



千葉県からの参加者が多い理由としては

「千葉市ことぶき大学校」を受講している参加者が多いため

千葉市同様、高齢者の生涯学習団体らによる参加者が多数みられる。

藤沢市居住者における「その他の同行者」の回答	
地域ネットワークの団体12人	
市民団体の仲間	
湘南藤沢文化ネットワークのツアー	
市民文化団体による見学	
湘南藤沢文化ネットワーク	

千葉市居住者におけるその他の同行者の回答	
学友	ことぶき大学歴史散歩クラブ
グループ	千葉市ことぶき大、歴史散歩クラブ
グループで	千葉市ことぶき大学校
学友(千葉市ことぶき大学)	千葉市ことぶき大学生
ことぶき大学	千葉市ことぶき大学歴史散歩クラブ
ことぶき大学のクラブ	同好会
ことぶき大学のクラブ	同好会員
ことぶき大学歴史散歩の会	同好会サークル
ことぶき大学校歴史散策クラブ	母
ことぶき大学校歴史散歩クラブー同	歴史散歩クラブ
ことぶき大学歴史散歩クラブ	歴史散歩クラブ
ことぶき大学校歴史クラブ	歴史散歩クラブ
ことぶき大学校歴史散歩クラブ	サークル
ことぶき大学校歴史散策クラブ(団体)	散歩クラブ

## 4. 観光ガイド育成調査（1）まち歩き参加者へのアンケート調査

### ■参加者における特徴

参加者の約8割が過去にまち歩きに参加した経験があると回答している。

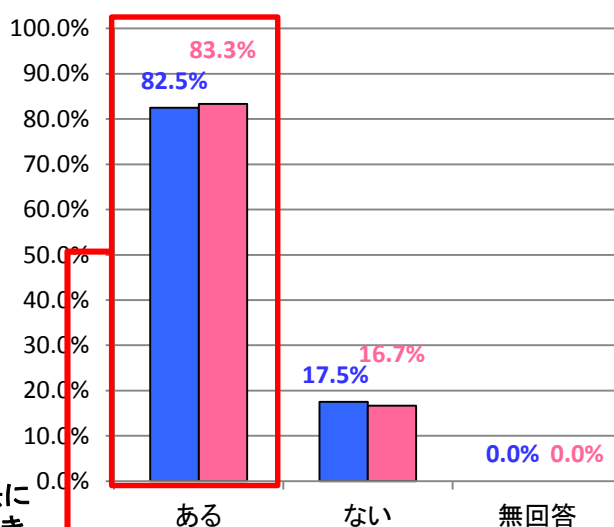
主なまち歩きとしては、流山市近郊の場合、野田市・市川市・佐倉市になる。

東京都内の場合、新宿・柴又・深川・浜離宮になり、神奈川県の場合小田原市や藤沢市になる。

また、遠方になると京都府や滋賀県といった回答も挙げられている。

料金形態としては、無料のまち歩きが多い。

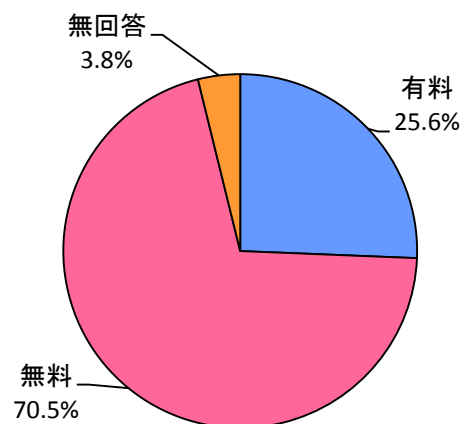
### 男女別のまち歩き参加経験



「ある」と回答した人たちが過去に参加したことがある主なまち歩き

主なまち歩き名称	
藤沢歴史文化めぐり(神奈川県藤沢市)	成田
小田原市板橋地区	松戸市 戸定邸
浅草寺観光ガイド	古河庭園
佐倉	浜離宮
平城京跡	京都 宇治市
深川	市川
野田市他(歩こう会で)	藤沢市鶴沼地区
スカイツリー	加村
新宿街歩き	根郷エリア
新宿御苑	藤沢今昔まちなかアートめぐり他
柴又	藤沢宿旧家歴史のガイドツアー
蔵日和	野田むらさきガイド
小田原城	野田街歩き
在原	錦糸町
飛鳥山	神楽坂ぶらぶらウォーク(?)
NPO法人野田ガイドの会	王子
船橋	館林

### 料金形態 (N=78)



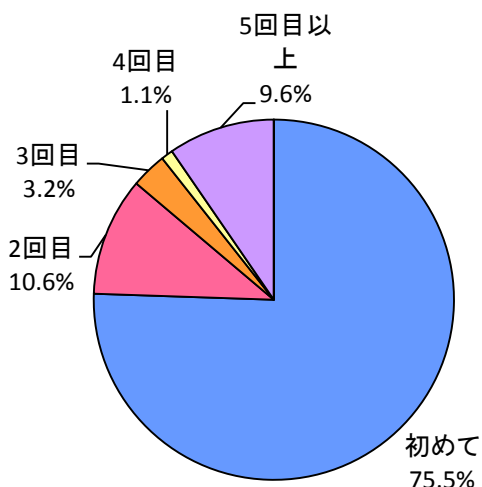
4. 観光ガイド育成調査（1）まち歩き参加者へのアンケート調査

■来訪回数における特徴

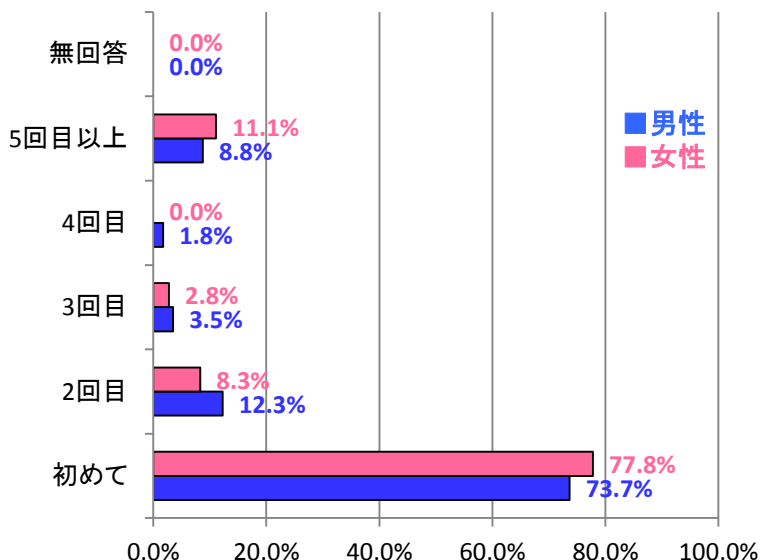
男女ともに「初めて」の来訪者が約7割になる。

来訪理由が、史跡ガイドツアーかは不明であるが、「2回以上」と回答している割合が、全体において24.5%と流山本町を何度も訪れる人の割合（リピーター率）が比較的高いことがわかる。

来訪回数（N=94）



男女別の来訪回数



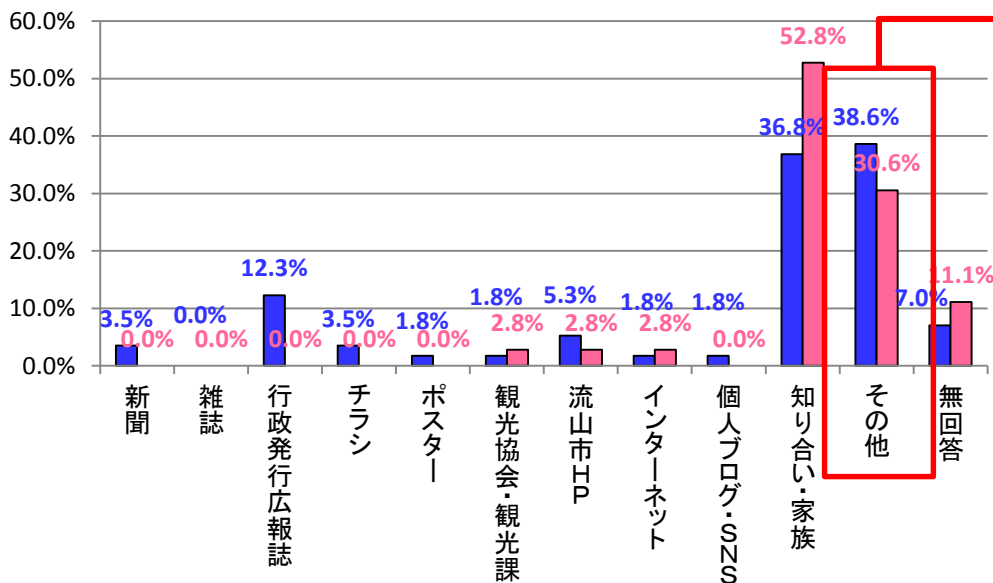
■情報入手経路における特徴

男女ともに「知り合い・家族」が最も高く、口コミによる参加者が多いことがわかる。

次いで、「行政発行広報誌」「観光協会・観光課」「流山市HP」など公的な情報源からの情報取得が多数を占めていることがわかる。（流山史跡ガイドツアーに関する情報発信は、市・観光協会のHPや広報誌を主としているため）

今後、参加者数を増やしていくためには、情報発信を強化していくことはもちろん、多用なメディアを活用することで参加者層を拡大していくことが出来ると思う。

男女別の情報入手経路



「クラブ」「自治会からの紹介」「所属している生涯学習系団体・ネットワーク」という回答が占めている。

4. 観光ガイド育成調査（1）まち歩き参加者へのアンケート調査

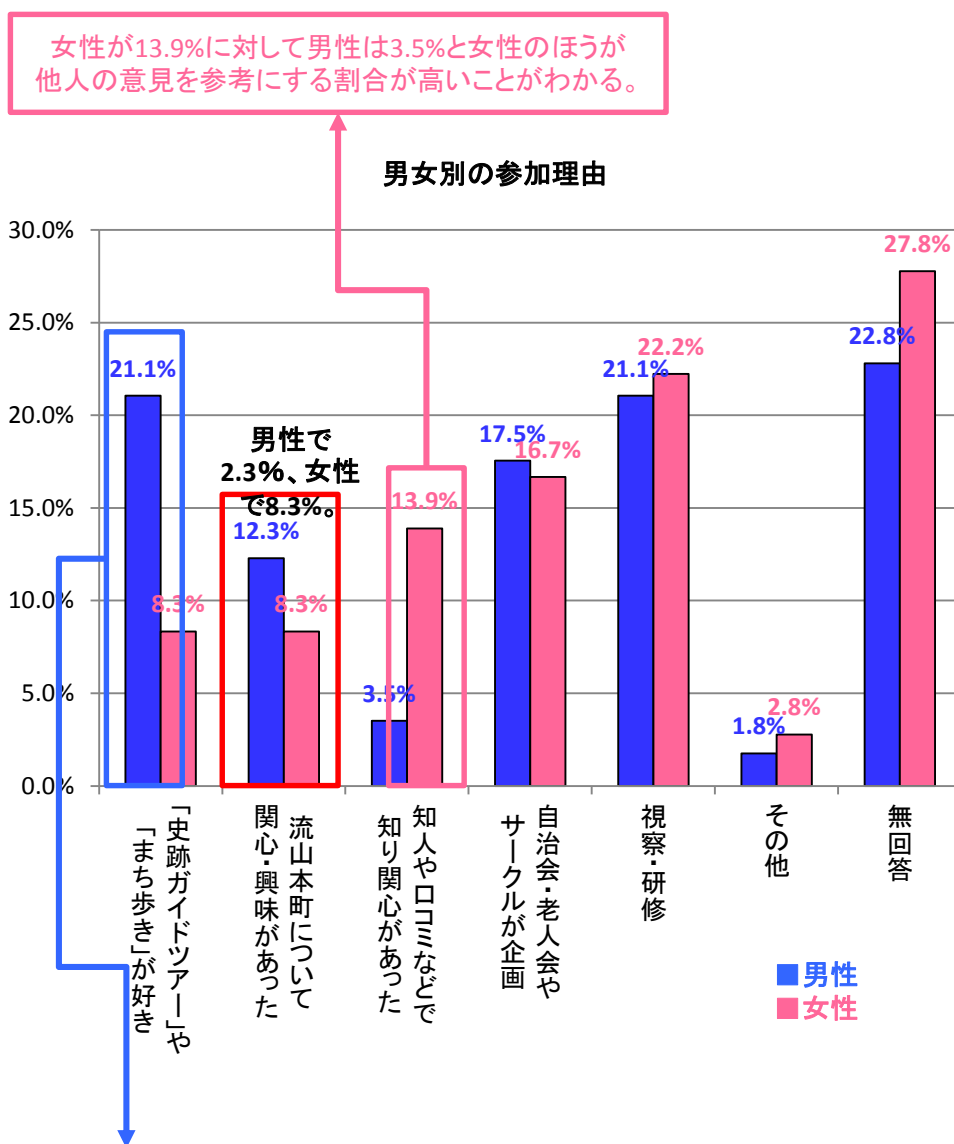
■参加理由における特徴

男女ともに「視察・研修」と回答する人の割合が多い。  
 （生涯学習系の団体・ネットワークの視察・研修のことを指していると考えられる）

女性に比べ、男性のほうが比較的明確な目的を持っている人の参加率が高いと考えられる。  
 （男性においては、「『史跡ガイドツアー』や『まち歩き』が好き」といった明確な理由を持っている人の割合が高いのに対し、女性の場合は「知人や口コミなどで知り関心があった」と男性に比べ自分の意志による参加が弱いことがうかがえる）

男性で12.3%、女性で8.3%とわずかなではあるが流山本町について  
 関心・興味があるという参加者がいることがわかる。

流山本町自体、及びまち歩きに対して興味・関心を持っている人がいることから、  
 情報発信を強化していくことによって参加者数を増やすことが出来る考える。



女性が13.9%に対して男性は3.5%と女性のほうが  
 他人の意見を参考にする割合が高いことがわかる。

男性は21.1%、女性は8.3%と男性のほうが  
 自分の意志による参加率が高いことがうかがえる。

■流山史跡ガイドツアーに対する参加者の評価における特徴

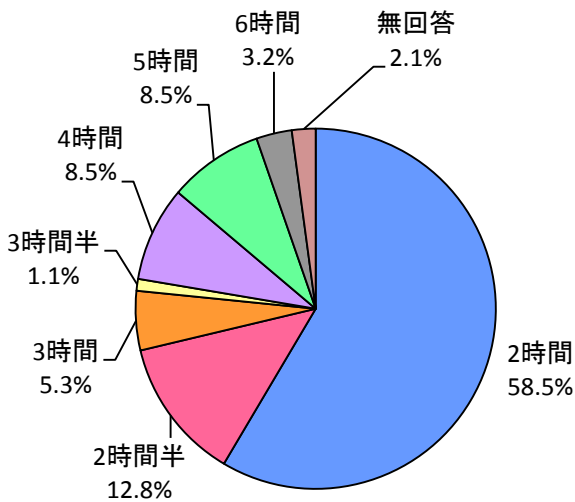
【所要時間に対する評価】

所要時間として2時間が最も多い中、3時間以上と回答している人が約3割になる。

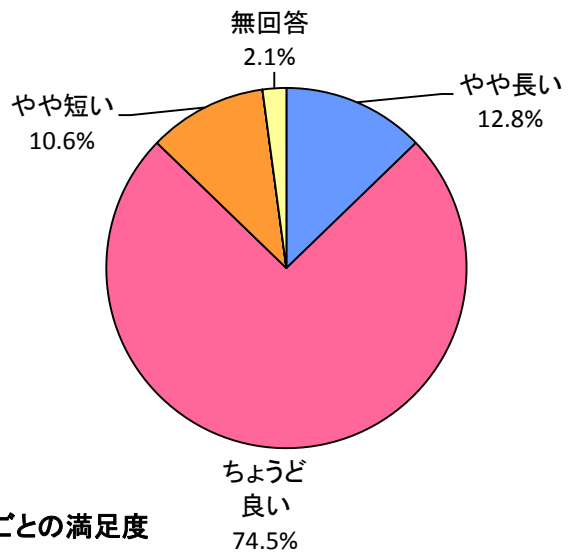
全体的には、「ちょうど良い」という回答が約7割を占めているが、細かくみると3時間でも「やや長い」と感じた参加者がいることがわかる。

「ちょうど良い」と回答している人の割合は多いが、「やや長い」と感じた参加者もあり、所要時間については今後コースの内容などを考慮し、観光客に合わせた設定を行っていく必要がある。

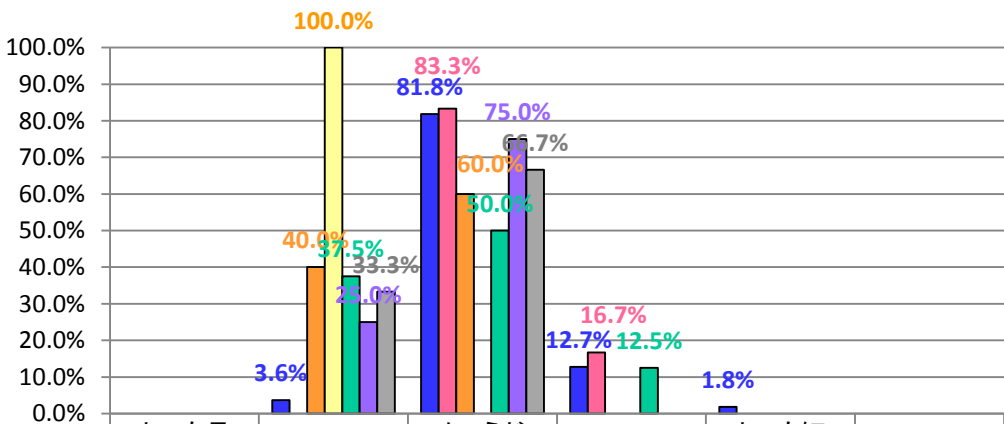
所要時間（N=94）



所要時間に対する評価（N=94）



各所要時間ごとの満足度



所要時間	とても長い	やや長い	ちょうど良い	やや短い	とても短い	無回答
2時間 (N=55)	0.0%	3.6%	81.8%	12.7%	1.8%	0.0%
2時間半 (N=12)	0.0%	0.0%	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%
3時間 (N=5)	0.0%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%
3時間半 (N=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
4時間 (N=8)	0.0%	37.5%	50.0%	12.5%	0.0%	0.0%
5時間 (N=8)	0.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6時間 (N=3)	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%

## 4. 観光ガイド育成調査（1）まち歩き参加者へのアンケート調査

### ■流山史跡ガイドツアーに対する参加者の評価における特徴

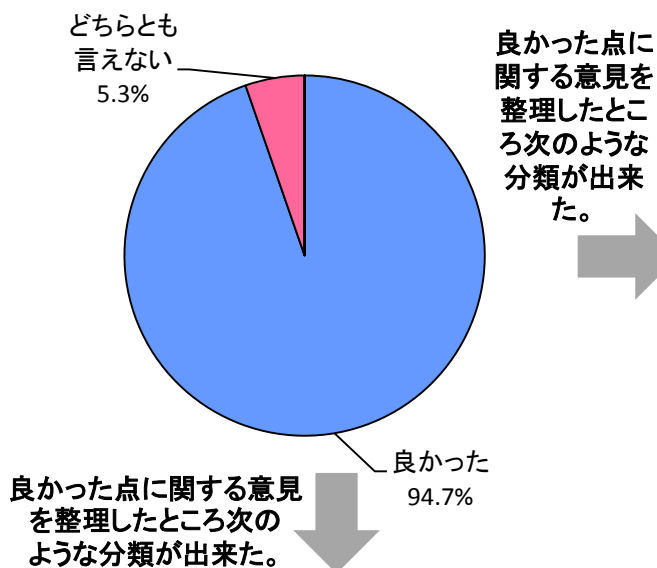
【ツアーの内容について】

ガイドツアーの内容について約9割の参加者が「良かった」と回答している。

良かった点についての意見を分類したところ、「ガイド全体について」「流山本町全体について」「特定の資源について」「人物について」の事柄に対する評価が挙げられている。

このように良かったと挙げられている事柄については、ガイドの説明があったからこそ魅力的に感じる事が出来た参加者が多かったと言える。

内容全体に対する評価（N=94）



#### ガイド全体について

知らないことを知ることができた。
全般的にポイントが絞られていた。
丁寧(ていねい)
解かり易い説明、親しみ易い方。
史跡の選択
歴史を知るうえで大切参考になりました。
説明が分りやすく、拡声器も良かった、勿論説明内容も良かった
最初に水運についての予備知識をならったのが良かった
歴史が上手に組まれている
流山の置れて歴史的な位置付と現状がわかった。
ガイドの説明で、気付かないで過ごしてしまいそうなポイントを教えていただいた。

#### 流山本町全体について

歴史の中で残っている建物
市内の史跡がコンパクトで短時間で見れる
見学スポットが豊富。
流山がこんなに歴史に富んだところとは、予想しなかった。
初めての土地で歴史物があり
昔のような道を歩きなかなかに良い。
歴史ある流山の本質を知れた
歴史を感じました
まち歩きには良い
ポイント、ポイントの間の小道が良く、スポットも充実していた。
細い道で歴史を感じる。(富士講など浅間神社)

#### 特定の資源について

赤城神社
一茶双樹記念館
呉服新川屋
浅間神社
万華鏡ギャラリー
流山博物館
えんま堂
新選組陣屋跡
江戸川
裏道
丁字屋さんの食事がおいしかった
見世蔵など歴史的建物
蔵のカフェ灯環
歴史的建造物を示す看板
近藤勇陣屋跡
飲食を古い建物でできるのがいい。丁字屋、イタリアンがおいしかった。灯環のようなカフェもよかった。

#### 人物について

小林一茶
近藤勇

※「どちらとも言えない」回答者については、特に意見がみられなかった。

■流山史跡ガイドツアーに対する参加者の評価における特徴

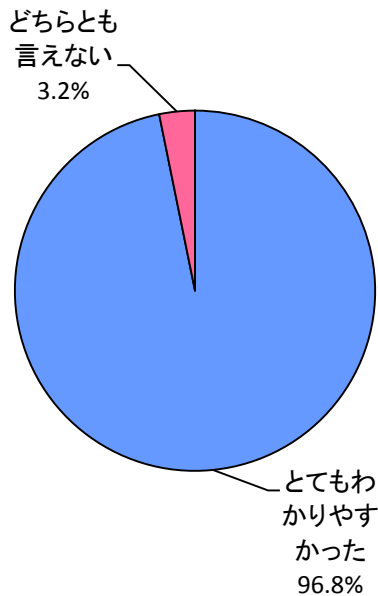
【ガイドについて】

約9割の参加者がガイドの説明に対して「とてもわかりやすかった」と満足している一方で、わずかではあるが「どちらとも言えない」と回答している参加者もいる。

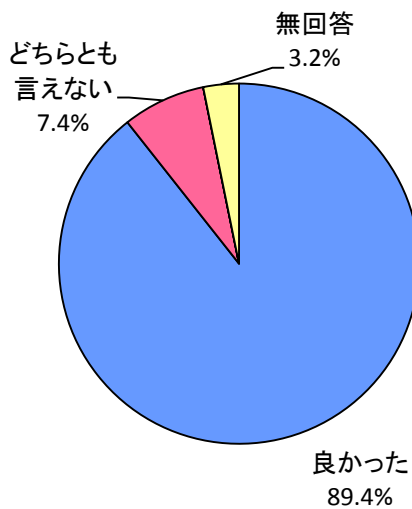
ガイドのおもてなしに対する評価についても、約9割が「良かった」と回答しているが、約1割の参加者が「どちらとも言えない」と回答している。

こうした背景にはガイドによって、案内の仕方や説明の仕方におけるレベルの差があるからと考えられる。

ガイドの説明に対する評価（N=94）



ガイドのおもてなしに対する評価（N=94）





## 4. 観光ガイド育成調査（1）まち歩き参加者へのアンケート調査

### ■流山史跡ガイドツアーに対する参加者の評価における特徴

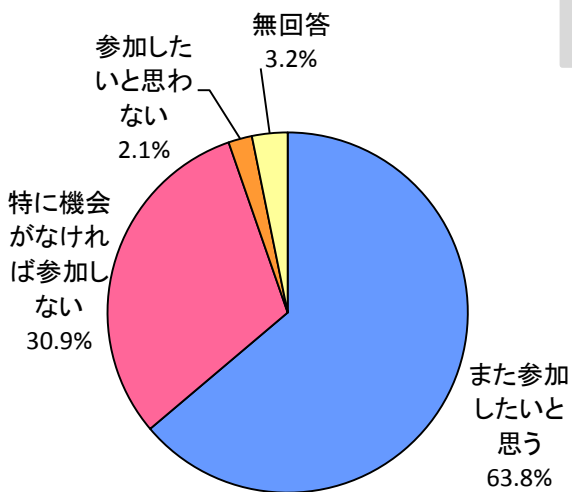
#### 【次回参加意向について】

「また参加したいと思う」と回答した参加者が6割を占めており、その理由としては「他の場所やコースもまわりたい」「何回来てても面白いと思う」「今度はもっとのんびり見たい」といった意見が挙げられている。

一方で、約3割の参加者が「特に機会がなければ参加しない」と回答しており、その理由としては「交通の便」「遠い」といった地理的な事柄が挙げられる一方、「満喫した」「違うコースがあるのであれば」といった『一回で十分』という意見も見られた。また、「説明するガイドによってレベルが違った」「もう少し時間をかけたかった」といったガイドに対する不満もその理由として挙げられている。

参加者の満足度が非常に高いことから、何度来ても来訪者に楽しんでもらえるようテーマや季節などによって異なるコースの開発・設定を行うことによりリピート率を高めることが出来ると思われる。

次回参加意向（N=94）



#### 「機会があれば参加してみたい」回答者の理由

やや寒い日だったという事もあるが、途中でコーヒー等飲んでゆっくり歩いてみたい。
次は個人で来てみたい
行く機会がないと思う。
地元であり、多少は訳かっているつもりです。
今回だけで充分
遠い
大体説明を聞き終った、次回くる時はもっとゆっくり回って店での買物等もしたい
説明者のレベルを合わせてもらいたい。
今回、参加させてもらったから。但、別メニューがあれば、別。
折を見て、個人的に(家族等)来てみたい。
次回は違うコースがあれば参加したい。
もう少し時間をかけてゆっくり見学したいと思います。
今回のツアーで、流山を堪能しました
交通の便が悪い
距離の事もあり、気軽に訪れるのは難しい
まだ他にも行きたい所があるから
おおよその事がわかったから

#### 「参加したくない」回答者の理由

トイレタイムがなかった。

#### 「また参加したい」と思う人の理由

若干、遠方に住まっておりますので、確実ではないのですが、利根運河や大鷹の森方面は今回うかがえませんでしたので機会があれば、と思います。
ゆっくり散策のため
友人、妻と又来てみたい
もう一回じっくりと観てみたい!!
未だ見足りない。
まだ、見学したいところが、山ほどある為。
古い街が好きなので
今日だけでなく、もっとくわしく知りたい。
今まで流山のことは全く知らなかった。今回参加してガイドさんの説明でよくわかりました。
まだまだ知りたい。
今度については市内をゆっくり歩いて見たいと思った。
興味がある故
今日、行けなかった所へも廻ってみたい。
歴史散歩が趣味なので
未知の知識を収得させていただいた
ぶらぶら散歩に最適。
昔の事が良く判る。
何回来てても良いと思う
流山を初めて知ったから そういう気になったから
デジカメピクニックの仲間と来たいから
違う人たちを誘って、又来て見たい。
自分の市を心から愛している様子がわかるので
四季おりおりに来て見たい
ライトが灯る夜にも来たい。

※コメントについては一部を抜粋。すべてのコメントについては、調査結果詳細版をご覧ください。



## 4 観光ガイド育成調査

---

- (1) まち歩き参加者へのアンケート調査
- (2) 観光ガイドにおける先進事例調査

## 4. 観光ガイド育成調査（2）観光ガイドにおける先進地事例調査

### ア. 実施概要

#### ■調査目的

すでに観光ガイドに取り組んでいる地域へヒアリング調査を行い、その地域の観光ガイドの特徴や実施内容を明らかにする。また、流山本町における観光ガイドのスキル向上を目的に先進地におけるガイド育成の方法やポイント等を把握し、流山本町の観光ガイドのクオリティ向上を目指す。

#### ■調査方法

- ・調査員が実際に調査対象地域での観光ガイドに参加し、どのような取組を行っているのかを体感。
- ・その後、担当者へヒアリング調査を実施。

#### ■調査実施日

件数	地域	団体名	日程
1	東京都調布市	調布市観光協会 調布市観光ボランティアガイド	2013年2月4日(月)
2	栃木県栃木市	栃木市観光ボランティア協会	2013年2月13日(水)
3	東京都日野市	日野市新選組ガイドの会	2013年15日(金)
4	東京都練馬区	練馬区観光協会 ねりまのねり歩き研究会	2013年2月21日(木)

#### ■調査対象

##### 【調査対象地域の選定における基準】

以下の条件を基準に調査対象地域の選定を行った。

- ・都心から約1時間から2時間程度でアクセスできる場所である。
- ・観光地としてそれほど有名でない地域。
- ・観光資源の特徴が流山本町と似ている地域。(新選組、江戸、蔵など)
- ・規模(面積、人口など)が流山本町と同じ程度である地域。
- ・流山本町史跡ガイドツアーの質向上につながるような情報を取得できると考えられる地域。

件数	団体名	概要
1	調布市観光協会 調布市観光ボランティアガイド	深大寺を中心に調布市の歴史や観光情報を紹介。深大寺そば組合が、深大寺のさらなる観光振興を図るために調布市の観光協会と連携し、観光ガイド組織を設立。
2	栃木市観光ボランティア協会	栃木市を複数のエリアに分け、それぞれのエリアの歴史・特徴や観光情報を紹介。栃木市でも蔵を活用した取組を行っており、蔵をテーマにしたコースがある。
3	日野市新選組ガイドの会	新選組副長の土方歳三の出身地である日野市では、新選組をテーマとした観光ガイドを実施。新選組にまつわる歴史やいわれをはじめ日野市の観光情報を紹介。
4	練馬区観光協会 ねりまのねり歩き研究会	特に有名な観光資源が何一つない練馬区では、日常的な暮らしや風景を観光資源としてアレンジ。各地域ごとにそれぞれの地域の特徴にあったテーマを設けて、それぞれの地域のこれまでの歩みや歴史を紹介。

## 4. 観光ガイド育成調査（2）観光ガイドにおける先進地事例調査

## ■調査項目

- ①団体概要
  - ・組織形態（行政またはNPOなど）
  - ・会員数
  - ・設立年
  - ・コンセプト
- ②背景・経緯
  - ・まち歩き、史跡ガイド等を開催した背景、経緯
  - ・発起人、立ち上げた人について
- ③受入体制について
  - ・実施形態について（特定の曜日や日にちに開催し参加者を募集、特定の時期のみ開催、イベント形式のみで開催、年中受付など）
- ④ガイドについて
  - ・ガイドになる為の条件の有無及びその内容（例. ガイド試験を受ける、2年以上のガイド実績がある、先輩ガイドが1人前と認めたらガイドになれるなど）
- ⑤ガイド養成講座/勉強会について
  - ・ガイド養成講座/勉強会などの有無
  - ・目的（例. ガイドのスキル向上、ガイドの知識向上など）
  - ・開催概要（例. ガイドになる前に受講、月に1回開催しており自由参加など）
  - ・講座/勉強会の内容（例. その地域の歴史に関する講座、魅力的な話し方に関する講座、おもてなしに関する講座、安全管理に関する講座など）
- ⑥案内における注意点・ルールについて
  - ・1人のガイドにつき引率出来る参加者の数を決めているか？
  - ・安全管理実施の有無及びその内容（例. コースの前に安全に関する注意事項を連絡、ガイドとは別で安全管理担当者を一人付けているなど）
  - ・案内する際に最も気を付けていること
- ⑦参加動向について
  - ・年に何回ほど案内を実施するのか？
  - ・参加者の属性（観光客と地元民の割合、男女構成率、年齢、観光客の居住地域など）
  - ・参加者の特徴（例. 歴史が好きな人が多い、散策をするのが好きな人が多いなど）
- ⑧コースについて
  - ・コースの形態について（決まったコースがあるかないか、有料か無料かなど）

**【決まったコースがある場合】**

  - ・決まったコースを設定した理由（例. いつ来ても、誰が案内しても同じクオリティのガイドを提供できるようになど）
  - ・コースの数及びそれぞれの特徴/違い（各コースのテーマなどを確認）
  - ・台本の有無
  - ・誰がコースを作ったのか？（ある特定の人が作ったのか、複数のガイドで作ったのかなど）
  - ・コース設定の際、注意していること、重要視していること（例. 歩きやすい場所を設定、地域全体の良さが分かる場所を中心に設定、お客様のターゲットを分けて設定しているなど）

**【決まったコースがない場合】**

  - ・各ガイド、どのようにコースを作っているのか？（例. ガイドのその日の気分、当日の参加者の要望に合わせてカスタマイズしているなど）
  - ・特定のコースを作らない理由（例. コースの内容ではなくガイドの人柄を売りにしているから、特定のコースを作る必要はないと考えたからなど）

## 4. 観光ガイド育成調査（2）観光ガイドにおける先進地事例調査

### イ. 調査結果の概要

#### ■調査結果のまとめ

##### <団体概要>

どの団体も、対象市区町村の観光協会に属しており、イベント形式で年に2回をめぐりに開催している練馬区以外については、基本的に年中受付を行っている。

登録ガイド数については30人前後であり、情報発信・PRの方法については観光協会や市区町村のホームページが中心となっている。

料金形態については、調布市・栃木市については無料となっており、日野市・練馬区については有料となっている。ただし、練馬区についてはガイドに対して支払をするのではなく保険料・記念品・資料代となっている。各団体の概要は下記のとおりである。

大項目	項目	調布市観光協会 調布市観光ボランティアガイド	栃木市観光ボランティア協会	日野市新選組ガイドの会	練馬区観光協会 ねりまのねり歩き研究会
団体概要	団体の形態	任意団体 ※調布市観光協会の下部組織。	任意団体	NPO法人	任意団体 ※練馬区観光協会に所属。
	設立年	平成15年4月1日	昭和63年4月1日	平成16年11月	平成18年4月
	ガイド数	30人	29人	35人	30人
	HPの有無/ その他のPR方法	・調布市観光協会のホームページにて紹介。 ・独自ホームページは無し。	・栃木市観光協会のホームページにて紹介。 ・独自ホームページはなし。 ・東武鉄道が発行しているパンフレットにて紹介。	・日野市、観光協会のホームページにて紹介。 ・行政の広報誌にて2か月に1回掲載。 ・新聞でのPRも実施。	・観光協会のホームページにて紹介。 ・区報にてPR。 ・区内公設掲示板にてポスター掲示。 ・過去の参加者へのDM発送。
	開催・受付期間	年中 ※受付事務局は、月曜日定休。	年中	年中	イベント形式での実施 ※春と秋にそれぞれ2～3週間かけて実施。
	申込方法	指定の申込書を記入し、FAXにて申込みを行う。	指定の申込書を記入し、FAXにて申込みを行う。	電話、FAXまたはホームページのお問い合わせから申込を行う。	指定の申込書を郵送、FAXまたはメールにて申込み。
料金形態	無料  ただし、入場料が発生する場合は有料。	無料	有料  ＜半日コース＞ ・5人迄2,000円 ・20人迄3,000円 ・30人迄5,000円 ・40人迄6,000円 ・50人迄8,000円  ＜1日コース＞ ・5人迄3,000円 ・20人迄4,000円 ・30人迄7,000円 ・40人迄8,000円 ・50人迄12,000円	有料  500円 (保険料、記念品、資料代として) ※拝観料、交通費は自己負担。	

## 4. 観光ガイド育成調査 (2) 観光ガイドにおける先進地事例調査

### 【各観光協会での情報発信の状況】

#### ① 調布市観光協会HP

#### ② 栃木市観光協会HP

#### ③ 日野市観光協会HP

#### ④ 練馬区観光協会HP

※ヒアリング調査にて観光協会HPにて紹介を行っているということだったが、サイト内でのページの有無を確認できなかった。

## 4. 観光ガイド育成調査（2）観光ガイドにおける先進地事例調査

### <ガイドになるための流れ・条件>

方法は異なるにしろ、どの団体においても講習会・研修会の受講の義務や試験・面接を受けなくてはガイドになることが出来ない。このような条件を設けることによって、ガイドの質の確保を行っていることがわかる。特に、有料で行っている日野市については、3日間の講習を受講後に面接の実施と徹底している。

項目	調布市観光協会 調布市観光ボランティアガイド	栃木市観光ボランティア協会	日野市新選組ガイドの会	練馬区観光協会 ねりまのねり歩き研究会
試験・面接の有無	あり	あり	あり	なし
	観光協会が公募を行い、面接を実施。	ボランティア協会会長の面接後、ボランティア協会の会議にて検討を行う。	研修を受講後、役員面接を実施。	
登録制度について	あり	あり	あり	なし
	毎年保険の更新と合わせて更新			
講習会・研修の有無	なし	あり	あり	あり
	ガイドになるために講習会・研修会等の受講は特になし			

### <コースについて>

どの団体についても基本コースを設定している。基本コースの数については、対象地域の広さによって異なり、調布市及び栃木市については1コース、日野市及び練馬区については、テーマ及びエリアによって分け、日野市で5コース、練馬区では6コース設定している。

基本コースの所要時間については、1時間から2時間半程度である。日野市については半日または1日という形で時間の設定をしており、移動は徒歩だけでなくバスやタクシーなどといった手段と併用している。

台本の有無については、調布市及び練馬区では作成をしているが、各ガイドの個性や持っている知識でそれぞれアレンジを行っても良いとなっている。

項目	調布市観光協会 調布市観光ボランティアガイド	栃木市観光ボランティア協会	日野市新選組ガイドの会	練馬区観光協会 ねりまのねり歩き研究会
コースづくり担当者について	初代スタッフ	観光協会職員	ガイドの会役員	ガイド ※ガイドは全員練馬区民
所要時間	1時間	1時間半	半日 または 1日	どのコースも2時間半
基本コース設定について	あり	あり	あり	あり
	初代スタッフが作成したコースが基本コース。あとは各ガイドがアレンジして案内を実施。希望に応じてアレンジも可能。	おすすめ観光プランという1時間～4時間程度の自由散策を想定したコースを基本にアレンジ。	5コースあり、半日か1日などの所要時間及びお客様のニーズに合わせてアレンジ。	6コースある。
台本の有無	あり	なし	なし	あり
	基本的な事柄を台本から学ぶ。あとは各ガイドがそれぞれの個性・知識で肉付けをして案内を行う。			シナリオや案内時に使用するガイドファイル（参加者用の説明補助資料の裏にカンベがついている）がある。

4. 観光ガイド育成調査（2）観光ガイドにおける先進地事例調査

＜案内における特徴＞

どの団体においても、スタート時に資料を参加者に配布している。当日のコースのルート・立ち寄り場所の紹介をまとめた資料を参加者に配布し、スタート時に当日のコースの説明を簡単に行っている。栃木市については、市内の各施設のパンフレット等を独自に作成した手提げ袋に入れ参加者に配布している。このように配布資料が複数になる場合は、参加者に負担を与えないような工夫がされている。

コース内で立ち寄り各スポットでの説明において、拡大した写真や資料等をラミネートしたものを説明補助ツールとして使用するなどといった工夫を行っている。練馬区では、参加者に見せる写真・資料の後ろにガイド用のカンペが貼ってあり、参加者だけでなくガイドにも優しい補助ツールを作成している。

おもてなし面における取組としては、どの団体においても「参加者の要望を確認し、出来るだけその要望に応えること」「説明はわかりやすく、かつ聞き取りやすいように」といった点に気を付けている。日野市及び練馬区では、スタート時にトイレ・休憩等の案内を一通り行うことをルールとしている、また、練馬区については最後に参加者との親睦を深めるためとして「わかちあい」を行うことをルールとし、参加者の満足度向上に努めている。

安全管理についてもどの団体も注意をしており、万が一のことを考え、ガイドは全員AED講習受けることとなっている。（練馬区については、2013年4月より各ガイドが受講するようになっている。）

その他にも、自転車・自動車等が通った場合、参加者へ声掛けを行うなどといった取組を行っている。

大項目	項目	調布市観光協会 調布市観光ボランティアガイド	栃木市観光ボランティア協会	日野市新選組ガイドの会	練馬区観光協会 ねりまのねり歩き研究会
案内時における特徴・取組	コースマップや資料等の配布について	あり	あり	あり	あり
		はじめに深大寺マップを配布。	パンフレット・マップ一式。	案内するコースのポイントを記載したマップを配布。	コースマップをスタート時に配布。
	その他説明補助ツールの有無	あり	なし	あり	あり
		拡大した写真をラミネートしたものを使用。		拡大した写真をラミネートしたものを使用。	拡大した写真や各場所の簡単な説明を記載したガイドファイルを使用。
おもてなし面における取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>わかりやすい説明を心掛けている。</li> <li>参加者の年齢、体調、興味などを考慮した案内を心掛けている。</li> <li>参加者に背を向けないように心掛けている。</li> <li>高齢者、足が不自由な方や疲れている方がいた場合は、バスの中などでコースマップを使い深大寺の紹介を行いあとは自由に境内を廻ってもらうよう配慮。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>配布したパンフレットを入れる手提げ袋を配布。</li> <li>お客様のニーズを第1に考え、あらかじめリクエストを聞き、出来るだけ要望に応えられるよう心掛ける。</li> <li>「ガイドをさせていただいている」という心で各自ガイドするよう心掛けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ツアー参加者の意向を取り入れること。</li> <li>最初に2～3分、当日のポイントの紹介を行う。</li> <li>おみやげを買うおすすめ店の紹介を実施。</li> <li>なにを言っているのかわからなければ、リピーターは増えないため大きな声でメリハリをつけわかりやすく説明するよう心掛けている。</li> <li>スタート時にトイレや飲食に関する案内を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタート時に必ず自己紹介を行う。</li> <li>案内終了後に必ず「わかちあい」を行い、参加者からの意見・感想を聞くとともに親睦を図るようにしている。</li> <li>「練馬をもっと知ってもらいたい」「練馬を体感してもらいたい」という思いでガイドをするよう心掛けている。</li> </ul>	
安全管理における取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドは全員AED講習を受けている。</li> <li>足元を気を付けてもらうよう注意を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドは全員AED講習を受けている。</li> <li>人数確認や声掛けを多用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視察時の安全管理、徒歩における注意事項などをスタート時に説明。</li> <li>隊列の乱れは危険につながるため気を付けている。</li> <li>ガイドが先頭と最後尾を意識して、列の長さを調整。</li> <li>自転車、自動車をはじめ、乳母車や人との接触事故が発生しないよう注意をする。</li> <li>基本的に安全管理は担当ガイドが責任を持って行うということを徹底するためにあえて安全管理者はつけない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイド2名で15名まで案内。</li> <li>メインガイドは説明を担当し、サブガイドは後方でサポート（遅れている参加者の面倒や時間管理）を担当。</li> <li>隘路を歩く時、車道を横断する時などは注意喚起を実施。</li> <li>自転車やバイクなどが来るときは大声で注意喚起を実施。</li> </ul>	



4. 観光ガイド育成調査 (2) 観光ガイドにおける先進地事例調査

【スタート時に参加者に配布している資料】

① 調布市の場合



A3、白黒で両面印刷された資料を配布。  
マップ及び深大寺の歴史や名所などの簡単な紹介を  
まとめている。

② 栃木市の場合



様々な施設・スポットのパフレットや市内のマップが一式、  
専用の手提げ袋に入っている。

4. 観光ガイド育成調査 (2) 観光ガイドにおける先進地事例調査

③ 日野市の場合

**日野宿散歩**

NPO法人  
日野市観光協会  
042-586-8808

**おもな開館時間表**

**日野宿本陣**  
開館時間AM9時30分～PM5時  
(最終入場PM4時30分)  
休館日毎月曜日(休日の場合は翌日)  
☎042-587-0013

**新道組のふもと歴史館**  
開館時間AM9時30分～PM5時  
(最終入場PM4時30分)  
休館日毎月曜日(休日の場合は翌日)  
☎042-585-5100  
※地図にはありませんし飾っています。

**日野宿交流館**  
開館時間AM9時00分～PM9時09分  
(最終入場PM8時30分)  
休館日毎月曜日(休日の場合は翌日)  
☎042-585-9027

**日野宿書館**  
開館時間～金AM10時00分～PM7時00分  
土・日・祝日AM10時00分～PM5時00分  
休館日毎月曜日  
☎042-584-0467  
※二階に新道組及び街道開拓の展覧あり。

**井上源三郎資料館**  
開館日毎月第1・第3日曜日  
開館時間PM12時～PM4時  
☎042-581-3957

**佐藤五郎新道組資料館**  
開館日毎月第1・第3日曜日  
開館時間AM11時～PM4時  
☎042-581-0370

**土方虎三資料館**  
開館日毎月第1・第3日曜日  
開館時間PM12時～PM4時  
☎042-581-1493  
※地図にはありませんし飾っています。

A4、白黒、両面印刷の資料を配布。  
コースのマップ及び各箇所の住所・連絡先をまとめている。

③ 練馬区の場合

2・3区唯一の

乳牛牧場・農業と住宅地の共存

**小泉牧場** 大泉学園町2-7 ■ 小泉牧場のアイスクリーム(300円)

23区唯一の乳牛牧場で、1日600～1000リットルを生産している。この牛乳で作られたアイスクリームは「ねりコレ」にも選ばれた。酪農体験会を開くなど、近隣との交流も積極的に行っており、生まれた子牛の名前は、大泉小学校の子ども達が付けている。

**旧大泉村役場跡** 大泉学園町2-2

1922年に建てられた、木造二階建ての村役場跡。練馬区歴史文化財。役場完成と同様に造られた記念碑には、村長や多くの村長の名前が刻まれている。

1979年に老朽化のため取り壊され、跡地に公園、希望住宅等設置。

**妙福寺** 南大泉5-6 ■ 106番 ★ シダヤザクラ

1322年、天台宗の大覚寺が日蓮宗妙福寺に改められたと伝えられる。妙福堂や本堂など数々の建造物のなかも、旧陣地の天井の骨組みは「からかさ造」と呼ばれる珍しいもの。また、文庫は区の指定文化財となっている。

**石庭の森緑地** 東大泉7-50

屋敷林を買い取り2008年に整備した緑地。屋敷林の一部を残し、土台や石材を礎としている。

**牧野記念庭園** 東大泉6-34 ■ 106番 ● センダイヤザクラ(ねりまの名木) ● ヘラノキ・ニッケイ など

世界的な植物学者・牧野富太郎博士の住居跡を庭園として整備した。園内には博士が発見し、妻の名をつけたスエゴザサをはじめ、300種以上の植物が育てられている。記念館には博士ゆかりの品々や、植物標本が展示されている。

**区民農園** 東大泉6-29

区内に23ある区民農園の一つ。個人の土地が借り受け、区民に貸し出している。

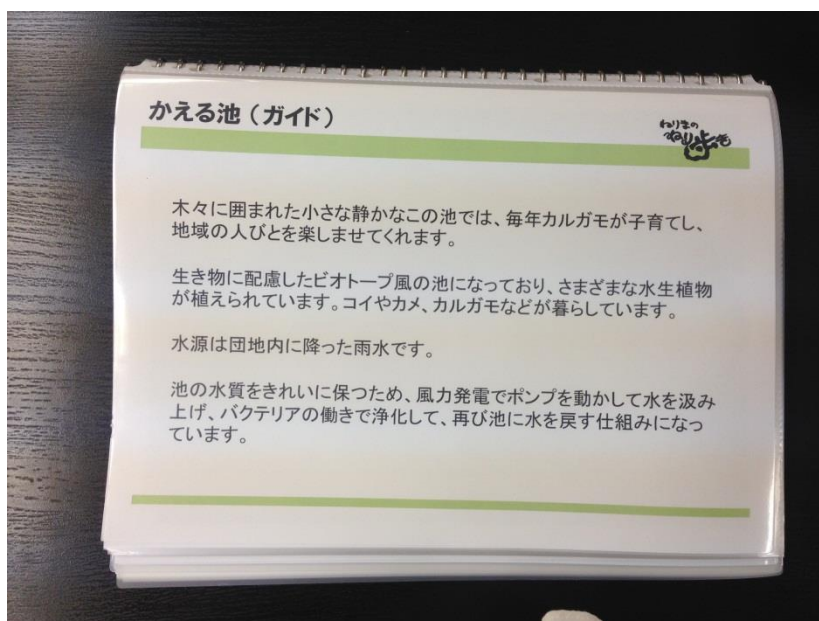
● 練馬区の素敵な名菓100選 ● ねりまの名木100選 ● ねりコレ

A4、カラー、片面印刷した資料を配布。  
コースのマップ、立ち寄る場所の簡単な説明をまとめている。

【練馬区で使用している説明補助ツール】



参加者に見せる面。



ガイドがみる面。

## 4. 観光ガイド育成調査（2）観光ガイドにおける先進地事例調査

### <ガイドのスキル向上に向けた取組について>

栃木市以外の団体については、勉強会を開催しており、ガイドの仕方を学ぶことを目的とした勉強会や、知識の強化を目的とした勉強会を開催している。調布市及び練馬区については特に決まった開催日を定めておらず、日野市については年に4回、毎年決まった月に開催している。

その他にも、情報交換を目的とした定例会の開催、模擬練習をガイド同士で行う、他地域で開催しているツアーへの参加など、ガイドのスキル向上を目的とした取組を行っている。

項目	調布市観光協会 調布市観光ボランティアガイド	栃木市観光ボランティア協会	日野市新選組ガイドの会	練馬区観光協会 ねりまのねり歩き研究会
勉強会・講習会の有無	あり	なし	あり	あり
	ベテランガイドの案内をビデオに撮り、それを見て研修を行う。	特に決まった勉強会や講習会は行っていないが、ガイドそれぞれが関係者（施設、歴史の専門家など）に話を直接聞きに行き、勉強するようになっている。	年に4回（3月、6月、9月、12月）、スキルアップ研修会を開催。うち一回は体験学習。	ガイドの要望に合わせて勉強会を観光協会が主催。専門の講師を招待し実施。
その他のスキルアップ方法	あり	あり	なし	あり
	<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いに模擬練習を実施。</li> <li>月1回定例会議を行い、情報交換を行うとともに改善点について話し合いを行う。</li> <li>他地域のガイドに参加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県が開催している「郷土ボランティアの集い」に年に1回参加。</li> <li>ガイド5～6名ずつでの班別研修の実施。</li> <li>年に1回定例会を開催。</li> <li>年に1回は他地域のガイドツアーに参加。</li> </ul>		イベント前は実踏を実施。

### ■流山史跡ガイドツアーのクオリティアップに向けた課題

現在、流山史跡ガイドツアーは流山市民で流山本町の歴史が好きという方や詳しい方がボランティアで流山本町内の案内を行っている。基本的なコースの設定は行っておらず、台本の作成やスキルアップを目的とした勉強会や研修も特に行っていない。案内の質はガイドによって異なり、また所要時間についても参加者の要望に合わせるという形をとっているが3時間が平均となっている。

「4. 観光ガイド育成調査（1）まち歩き参加者へのアンケート調査」の結果からもわかるように、参加者の満足度は高く、流山本町内において魅力的な観光資源の一つでもある。ガイドが行う流山本町の紹介についてもよく調べてあり、興味深い話を聞くことが出来る。

このように流山史跡ガイドツアーは、流山本町の観光振興において重要な観光資源の一つであり、ガイド及びツアーの質を向上させることによって、より多くの観光客を呼ぶ集客装置となる可能性を十分秘めていると考える。流山史跡ガイドツアーのクオリティアップに向けた課題は以下のとおりである。

#### ガイドになるための条件の設定が必要。

現在ある程度のガイド人数の確保が出来ているため、今後のガイドの採用については面接や試験等を導入することである程度のレベルを持ったガイドの採用に努め、クオリティアップを目指す。

#### 定期的なスキルアップ講座や模擬練習の実施が必要。

ガイドの知識や案内する際のおもてなしの心、わかりやすい説明の仕方（プレゼンテーション）などについて専門家を招いた勉強会を行うことによってスキルアップを目指す。

#### 定期的な第三者によるチェック・評価の実施が必要。

参加者へのアンケートや他地域のガイドを招待し、モニターツアーを実施するなどといった取組を行うことによって、流山史跡ガイドツアーの課題だけでなく参加者のニーズを把握することが出来る。



## 5 総括

---

## (1) 観光意向調査について

### ア. 来訪者の視点から考察

現在、流山本町への来訪者の属性として、年齢層が高く(50代以上)、半数以上が近隣市(柏市・松戸市・野田市など)からの訪問であることが分かった。さらに来訪目的も「まち歩き」と回答する人が多いことから、観光地という認識ではなく、散歩コースの延長として捉えられているのではないかと推測される。

また来訪きっかけについても、「寄り道・ついで」「知人からのお誘い」が多いことから、メディアを通じた認知がなされていないことが分かる。情報入手経路の設問に対しても「知人からの口コミ」が最も多く、裏付けもされている。そして、当地のイメージや知っていることに関しても、「歴史のある町」ということは大半の人に理解されているものの、「新選組」「流鉄」というキーワード以外は、目立った資源を上げる回答は少なく、ぼんやりと、古くから残っている町という姿としか見られていない。

ところが来訪者の約8割の方々が「再訪したい」と答えている。これは近隣市の方々がが多いことから、距離的な抵抗もなく、再訪への「わざわざ感」がないことが要因と考えられる。しかしながら、その資源の豊富さや蔵の活用や行灯の設置など、日々少しずつ変わっている町並みにも、何かしらの期待感があることの現れであるとも感じられる。

よって、今後の来訪者へのプロモーション展開としては、来訪時に観光資源として考えている複数のコンテンツを、より具体的に伝えられるような仕掛けを施すことが必要であると考えられる。案内MAPや冊子の配布・設置はもちろんのこと、道路や店舗など地域の様々な場所において案内板やポスターなどでの情報発信を行っていく必要がある。さらには受け手である地域住民との何気ないコミュニケーションの中での口頭説明などが考えられる。そのためには、様々な角度からみた、流山本町の魅力を整理することが重要である。その整理された資源は、その特長から想定されるターゲットに対し適格なメディアを選定し訴求することで、来訪経験の少ない近隣市以外からの来訪を促すための効果的な材料にもなるはずである。また、来訪きっかけとして「知人の口コミ」が最も多いことから、SNSの活用など拡大させていくような施策も検討していく必要がある。

### イ. 近隣住民の視点からの考察

まだ流山本町へ来訪経験がなく、潜在顧客として今後の来訪が期待できる近隣住民は、流山市は知っているものの、流山本町は知らないという回答が約7割であった。また当地を知っていると答えた少数派の約3割が「知人からの口コミ」で知ったと答えている。その他の認知手段は、車で通ったことがある・仕事で行った・知人が住んでいるなど、意図的に発信をされたもの(メディアなど)で情報をキャッチした人はほとんどいないと言える。

さらに、知っている観光資源という設問に対し、「新選組」「小林一茶」と回答した方が多いこと、興味関心があるものという設問についても、「流鉄」という回答がもっとも多かったことから、流山本町を認知してもらっているとはいえ、これは現在取組をしている「白みりん」や「蔵の活用」「行灯」といった活動が情報として行き届いていないということの現れであり、そして残念なことに「特に興味関心がない」という回答も20%を超え、前述した来訪者同様、ぼんやりとしたイメージでしか捉えられていないことが分かる。

今後の観光施策の参考とするため、回答者全員に「観光における重視点」を伺っている。その回答の上位は、「食事・お茶をするところ」「見学・観光する名所」となっており、どのようなものへ期待をしているかが分かった。逆に「流山本町と言えばという特産品」についてはそれほど支持もなく、一般的な土産さえ購入できれば良いという意外な結果も出ている。そして、来訪きっかけについては、「機会があれば訪れてみたい」という回答が約7割あり、やはり近隣住民にとっては、距離が近い場所であれば、何らかのきっかけ、後押しがあれば来訪するという可能性が高いということが明らかとなった。

将来的に近隣住民が流山本町へ来ていただくためには、何かのきっかけが必要であることが分かった。そして現時点では情報が行き届いていないことははっきりしている。つまり、何か興味をひくような情報を伝達できれば良いと考えられる。分かりやすいのは告知しやすい事柄、イベント開催や新店舗オープン、バーゲン情報など、ネタとして取り込みやすいものから仕掛けていくことが効果的であると考えられる。情報に口コミも情報伝達の手段の一つであるが、何も知らないと口コミはできない。近隣住民をターゲットに告知をするのであれば、全国へ発信する必要もなく、生活導線の中にさりげなく宣伝していただだけでも有効である。いきなり具体的な資源の価値を押し付ける必要はなく、どんな理由であれ、自分の身の回りに入ってきた小さな情報をきっかけに、一度来訪をしてもらうことが重要である。

## ウ. 地域住民の視点からの考察

流山本町住民への調査を実施したが、居住年数15年以上という回答が約8割であり、長くお住まいになっている方々が圧倒的に多いことが分かった。そのため、やや偏った意見になることが予想されていたが、当地のイメージという設問において唯一、「流鉄」については、居住年数に関係なく、まちを代表するコンテンツであることと認識されていた。また当地において知っていることという設問に対し、居住年数が少ない方々にも「新選組」「小林一茶」「蔵を活用した取組」が多く認知されていた。ここから見えてくることは、日常生活の中で自然と目に入ってくるものについては、例えその地に長く住んでいなくとも、具体的に把握しているということが分かる。確かに、新選組のゆかりの地であるという表記は町なかに複数存在しているし、小林一茶も一茶双樹記念館が存在している。流鉄は日常生活で利用しているであろう。そして、丁字屋や見世蔵へは一度は来店されているのではないだろうか。いずれも、住民であれば間違いなく目にしている観光資源である。

その反面、目に見えない資源、本町が「栄華を極めていた頃の歴史」や「白みりん発祥」などについては、認知度が低い。そのためか、流山本町の強みという設問に対しても、居住年数に関係なく、流鉄・新選組・小林一茶に次いで、蔵の点在は評価が高い。そして「白みりん発祥の地」は、居住経験の浅い住民には、キラコンコンテンツとしての期待は薄い。

ただ、地域の課題については居住年数により、意見が大きく分かれている。「全体的に店舗が少ない」という項目は共通しているが、居住年数の長い方々が課題とする「駐車場がない」「土産店が少ない」は、居住年数の浅い方々にはそれほど重要視されておらず、「交通手段が少ない」「活気がない」など、交流人口の少なさを指摘する声が多かった。この回答の中に、地域の活性化に対する目線の違いが見てとれる。長く住んでいる方は、どうしたら人が来るのかという受け手としての観点から問題点を挙げているが、住んで間もない人にとっては、まだまだ受け手としてではなく、お客様の観点で課題を指摘している。

もし、流山本町の深い歴史を理解し、それが周辺地域にはない恵まれた資源であると感じることができれば、または、人がたくさん訪れていることを目の当たりにしたならば、「活気がない」と言わずに、活気を取り戻そうと思ふかもしれない。できれば、地域活性化において、地域住民の意識付けは非常に大事なポイントであるため、外部への発信はもちろんのこと、内部へ魅力の浸透を働きかけ、地域の強み、ストロングポイントは居住年数など関係なく、共通認識しておくべきである。

今後実施する具体的な取組である、路地や通りに呼称をつけることについても、意見を伺った。約7割の方々が賛成はしているものの、約1割の反対意見には気になる指摘もあった。「昔ながらの呼び名はどうする?」「新しい呼称は浸透しにくいのでは?」「観光のために無理矢理名前を付けるのは・・・」など、どれも明らかに長年この地に住んでいる方々のご意見と分かる。

昨今のB級ご当地グルメブームでも分かるように、成功と失敗の境界線は、「住民の認知度」というところにある。昔からその地で食べられていたメニューをB級ご当地グルメとして仕掛けを行っているところが成功を収め、ブームに乗って新たにメニュー開発をし、「これがこの地のご当地名物だ!」と言いはじめた地域は、ことごとく苦戦を強いられている。その違いは簡単で、地元の方がどれだけ認知しているのかということである。その地で何年も前から食べられているものは、住民の大半が知っている。しかしながら、新たに開発されたものは、いつからご当地名物になったか知っている人が、その活動に関わった人だけであり、取り組み始めは提供店も少なく、地元の人が食べたことのないものを名物としているケースが散見される。今回の「通りに呼称をつける」という取組についても、初めて来訪された方々には、通りがサインや目印となりとても分かりやすいことは間違いがないが、元々呼び名が付いていたり、昔から〇〇と呼んでいるなどということがあるのであれば、歴史を守る、文化を継承するという観点からでも検討していくべきである。そして、新たに名称を作るのであれば、市民への公募などを実施し、認知を図るという方法もある。

地域の活性化に取り組む上で、当該地域に住んでいる方々を巻き込むのは当然のことであるが、全員の意識を揃えることは難しい。ただ賛同者をできるだけ増やす努力を怠っては、いくら良い取組であってもうまくはいかない。流山本町の場合は、居住年数が高い方がほとんどではあるが、居住年数の浅い住民の考え方や感性を無視することなく、貴重な外部の目として、上手に活用する体制を作ることが肝になる。



## (2)食の活用調査について

### ア. 白みりんの利用状況からの考察

流山本町界隈で飲食店を営む6店舗に、白みりんの利用状況や発祥の地としての認知などを伺ったが、長きに渡りこの地で営業しているにも関わらず、発祥の地であることを認識していないという店舗がいくつかあったことが分かった。

みりんは万能型調味料であるため、大抵の飲食店で利用はしているものの、それほど思い入れやこだわりを持って利用するものでもないことが分かる。しかしながら、「発祥の地」という冠はそうそう持てるものでもなく、貴重なまちの資源であり歴史である。他には語るることのできない「白みりん発祥の地」というフレーズを効果的に活用するためには、まずは、飲食店は当然のことながら、住民にも認知をしてもらうことが、その「説得力」につながる。よって、発祥の地の住民は、みりんの良さを一番知っているという大義が必要となる。

しかしながら、この認知拡大の障壁として、現代の食生活環境に問題があることは否めない。外食産業の発展や食品メーカーが競い合う生産技術により加工品の質が向上していることなどから、一般家庭の主婦が自宅で毎日台所に立ち、手料理を作るということが当たり前ではなくなってきた。みりんは調味料の中でも、醤油やソースと違い、出来上がった料理や素材に対し使うものではない。料理を作る過程で、甘みを加えるためや素材の旨みを引き立たせるため、あるいは出来栄をよく見せる照りをつけるためなどに使われる脇役であり、調理をしなければ使わない調味料である。そのため最近では、家庭にみりんのない家があるという事実も確認されている。

この状況下で、白みりん発祥の地を観光振興の武器として使うためには、まずは当該地域の住民がみりんを使い、その良さを理解しなければ、人に伝えることなどあり得ない。例えば、地域の飲食店では、みりんの使い方を提供する料理の中で見せ、その効力を説明するような取組を行い、ご家庭でもみりんを使ってもらえるような働きかけをしたり、さらには、地域としてもみりんを使った料理教室の開催など、実際に使ってもらえる機会を創出しなければ、みりん活用の促進はできない。このように地域が一体となった取組を続けてこそ、その利用率は上がり、結果的に自信を持って「白みりん発祥の地」を謳うことができるようになり、来訪きっかけの一つとなる大きな資源になっていくはずである。

## (3)観光ガイド育成調査について

### ア. 観光ガイドの現状についての考察

流山本町観光ガイドへの参加者を対象にアンケート調査を行ったが、実査期間が冬場と言うこともあり全体的にサンプル数が不足、さらには同じ組織(千葉ことぶき大学)からの参加が多く、約半数がそのメンバーとなってしまっている。そのため、似たような属性の方々からの意見となってしまっている。

だが、ガイディングの丁寧さと資源の豊富さについては、約8割の方が評価をしており、説明付でのまち歩きに対する満足度が高いことは確認できた。ただ、少数派意見ではあるものの、ガイドによって説明のポイント、案内しているコースが違っていたり、所要時間の長さがまちまちだったなど、ガイドをするコース設定の不明確さやガイドによつてのスキルの差があることも分かった。

また同時期に先進事例調査として、観光ガイド育成に力を入れ、多くのまち歩きファンの獲得ができている首都圏の4つの町(練馬区・調布市・日野市・栃木市)を対象に、観光ガイドを事業として運営している手法等の視察調査を実施した。その中ですべての町に共通して実践されていることとして、ガイドになるために独自の資格試験の実施や定期的な研修会・講習会の開催による「ガイドの質の維持」、所要時間や資源別に分類された複数のコース設定による「参加者のニーズの多様化や再訪への対応」、そして工夫された配布資料、ビジュアルを利用した説明の補助ツールの活用、トイレ・休憩ポイント・道路通行における注意などのタイミングの徹底など、様々な案内手法を用いて「参加者がストレスを感じないような配慮」という3項目が挙げられる。

今後、流山本町地区の活性化をしていくには、ガイドツアーの拡大は不可欠であるため、まずは他地域での事例を参考に前述の共通実践項目の3つについては、確実に取り組む必要がある。特にトイレが少ない、休憩スポットの不足、車の往来が激しい道路というコース上の課題がすでにあることから、「参加者がストレスを感じないような配慮」と言う部分では、今すぐにも案内時に取り入れなければならない。

## (4)総評

## ■流山本町活性化に向けた方向性について

流山本町には、「歴史がある」というイメージはある程度浸透していることが分かった。ただ、「新選組」「小林一茶」「流鉄」などキーワードだけが独り歩きしており、具体的な歴史の背景や結びつきについてはほとんど認識されておらず、その結果現在取組を進めている、蔵の再利用や行灯の配置、白みりんの活用促進等との関係性が理解されていない。いずれの施策も、江戸時代から明治初頭にかけての流山本町がもっとも栄えた時代の歴史を、現代の観光資源として生かすために、現存する町並みの中でできることとして実施しているはずであり、そのことを伝えていかなければ、かつての栄華が蘇ることはない。そこでまずは、一つ一つの観光資源の魅力と時代背景の整理を行い、現在のまちおこし活動とマッチングを行っていくこと。なぜこんな取組をしているのか、流山本町の何を知ってほしいのかを説得力を持って伝えることが必要である。

次に情報伝達手法の見直しを検討する。アンケート結果でも明らかだったように、メディアを通して情報を発信してはいるものの、うまく伝わっていない。その要因には告知目的が明確でないことが予想される。誰に何を伝えたいのか？来訪してほしいという目的は当たり前であり、来てくれた人に何を覚えてもらい、何を体験してほしいのか？さらには、こういう趣味の方にはこんな楽しみ方がありますなど、より分かりやすく来訪時のイメージができるPR方法を考えていくべきである。そのためにもっとも効果的なメディアを選定し、どのようなメッセージが有効かを十分に検討していくことが大事であり、とりあえず露出すれば良いというような広報活動では、人の心を動かすほどのコミュニケーションパワーを生み出すことはない。

そして、忘れてはいけないのが受入体制の整備である。発信することばかりに気を取られ、内部のテコ入れを怠ってしまうと来訪者の期待を裏切ることがある。この裏切りは例えば小さなものでも、発信力として期待される口コミがマイナスに作用することを考えれば、決して軽視できるものではない。

とはいえ、自分が住んでいる生活圏に多くの来訪者が来ることは誰もが歓迎することではない。特に首都圏のベッタウンでは、自宅で過ごすのは休日がほとんどであるという方々が多いはずであり、休みの時くらいは静かに過ごしたいと思うのは当然の欲求である。そんな住民たちをも巻き込み、一定の理解を得た地域活性化活動の実行は、簡単なものではない。しかし、その取組理由や参加メリットなどをしっかりと伝えることで、徐々にではあるが協力してくれる人が少なからず増えてくるはずである。少しずつ賛同者を増やしながら活動を行っていき、やがてはその結果を評価した住民大半がまちおこしを推進し、まちへの誇りや愛着を醸成できればこそ、交流人口の拡大だけが指標ではなく、本当の意味でのまちおこしとなるのではないだろうか。もちろん、「白みりん発祥の地」を謳うには、地域全体のみりんの利用という大きな壁がそびえ立っているわけであり、住民の理解と協力は、絶対に不可欠な事項である。

以上のことから、流山本町における今後取り組むべき地域活性化に向けた方向性は、大きく3つの柱として設定できる。

## 流山本町活性化に向けた3つの柱

- 1 観光資源の魅力と時代背景の整理により、現在の取組とマッチングさせる
- 2 情報発信手法の見直しとメッセージを明確にした上でのメディア戦略の検討
- 3 地域住民を巻き込んだ活動を推進するための体制づくり

上記を、流山本町活性化協議会が主体となり、専門家の助言や様々なステークホルダーと連携しながら、中長期的な計画を立て効果的に事業として進めていくことによって、交流人口拡大と経済活性、地域コミュニティの再構築という目的を達成することにつながると考えられる。